埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第145集

坂　戸　市

稲荷前遺跡(B・C区)

住宅・都市整備公団坂戸入西地区土地区画整理事業関係
埋蔵文化財発掘調査報告

— Ⅷ —

(第１分冊)

１９９４

財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団

稲荷前遺跡全景（南より）

C区方形周溝墓群（北より）

Ｂ区第５号方形周溝墓（北より）

Ｃ区第１号土壙墓鉄剣出土状況

C区第１号方形周溝墓出土遺物

C区第５号方形周溝墓出土遺物

C区第70号住居跡出土遺物

C区第38号住居跡出土遺物

序

埼玉県の中央部に位置する坂戸市は、近年首都圏の一角を担い急速な都市化が進み、かつて広がっていた田園風景は一変しつつあります。住宅・都市整備公団は首都圏の住宅不足に対応するため、坂戸市入西地区に大規模な土地区画整理事業を実施し、住宅地の供給を図ることになりました。

坂戸市には多くの遺跡が残されています。県指定史跡の雷電塚古墳、古墳時代後期の苦林古墳群、和同開珎が出土した若葉台遺跡、県内でも最古の寺院の一つである勝呂廃寺などはその代表的なもので、当地が古代から栄えていたことを教えてくれます。

事業地内では古墳時代から奈良・平安時代、中世を中心とした11遺跡が発見されました。事業に伴う埋蔵文化財の取り扱いについて関係機関による協議が重ねられた結果、当事業団が発掘調査を実施し、その記録を保存することになりました。

稲荷前遺跡はこれらの遺跡の一つで、主に古墳時代前期の方形周溝墓群と古墳時代後期から平安時代に至る集落からなる複合遺跡です。古墳時代前期の方形周溝墓は35基発見され、当時の人々がどのように古墳文化を受容したかを知る手がかりとなるものと思われます。また、古墳時代から平安時代の住居跡は300軒を越し、当地の中核的な集落であったことをうかがわせます。

豊富な出土遺物の中には古墳時代の鉄剣、特異な瓦当文様の小形軒丸瓦、「多磨郡男川」と記された墨書土器など遺跡の性格を考えるうえで貴重な資料を得ることができました。本書は稲荷前遺跡のうち、B区とC区の成果をまとめたものです。埋蔵文化財の保護、学術研究の基礎資料として、また、教育・普及の資料として広く活用していただければ幸いです。

刊行にあたりまして、発掘調査における調整に御尽力いただきました埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課をはじめ、発掘調査から報告書刊行に至るまで多大な御指導、御協力を賜りました住宅・都市整備公団、同埼玉西宅地開発事務所、坂戸市教育委員会並びに地元関係者に厚くお礼申し上げます。

平成6年10月

財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理事長　荒井　桂

例　　言

1．本書は埼玉県坂戸市大字竹之内字稲荷前130他に所在する稲荷前遺跡のうちＢ・Ｃ区に関する発掘調査報告書である。

文化庁指示通知は昭和61年８月27日付委保第５の988号、昭和62年６月18日付委保第５の801号と昭和63年７月７日付委保第５の1054号である。

2．発掘調査は住宅・都市整備公団坂戸入西地区土地区画整理事業に伴う事前調査である。埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課の調整のもと、住宅・都市整備公団の委託を受けた財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。

3．稲荷前遺跡の発掘調査は昭和61年４月１日から平成元年３月31日まで実施した。報告書作成事業は平成４年４月１日から平成６年３月31日まで実施した。発掘調査及び整理・報告書刊行事業の組織は２ページに記した。

4．本書の執筆及び編集は資料部資料整理第１課の富田和夫が行ない、第Ⅰ章を文化財保護課、第Ⅳ章６－(1)を村田章人、第Ⅵ章１－(3)と鉄剣の実測を瀧瀬芳之が分担した。土器実測の一部は山崎えり子の協力を得た。

5．Ｂ・Ｃ区に関る図版作成、写真撮影は下記のものが行った。

図版作成及び遺物撮影　　富田

発掘調査における写真撮影　村田健二・小野義信・中村倉司・昼間孝志・細田　勝・大谷　徹

6．本書に掲載した資料は、平成６年度以降埼玉県立埋蔵文化財センターが管理・保管する。

7．自然科学分析及び巻頭集合写真撮影については下記へ委託した。

土器胎土分析　　第四紀地質研究所

巻頭土器集合写真撮影　小川忠博・折原基久

8．入西地区土地区画整理事業関係の既刊の報告書は下記のとおりである。

『金井遺跡』	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第86集	1989
『広面遺跡』	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第89集	1990
『塚の腰遺跡』	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第101集	1991
『稲荷前遺跡（Ａ区）』	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第120集	1992
『桑原遺跡』	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第121集	1992
『中耕遺跡』	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第125集	1993
『足洗遺跡』	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第136集	1994

9．本書の作成に際し、下記の方々から御教示・御協力を賜わった。（敬称略）

伊藤研志　加藤恭朗　金井塚 厚志　北堀彰男　恋河内昭彦　斉藤　稔　坂井秀弥　佐藤正知　澤出晃越　篠崎　潔　鈴木徳雄　鳥羽政之　柳楽 理　早川由利子　平田重之　渡辺　一

凡　　例

1．本書における挿図の指示は次のとおりである。

・X、Yによる座標表示は国家標準直角座標第IX系に基づく座標値を示し、方位は全て座標北を表わす。

・挿図の縮尺は、住居跡1/60、カマド1/30、掘立柱建物跡1/60、方形周溝墓1/160、溝跡土層図1/80、井戸跡1/60、土壙1/80、土器1/4、石製品1/3、鉄製品1/3を原則としたが例外もある。

・全測図等に示す遺構表記の略号は以下のとおりである。ＳＪ…竪穴住居跡、ＳＢ…掘立柱建物跡、ＳＲ…方形周溝墓　ＳＥ…井戸跡、ＳＫ…土壙、ＳＤ…溝跡、ＳＴ…墓跡　ＳＡ…柱穴列、ＳＸ…その他（竪穴状遺構、円形周溝状遺構他）

・遺構図中に示したドットは遺物の出土位置及び接合関係を示し、ナンバーは遺物実測図のそれと一致する。

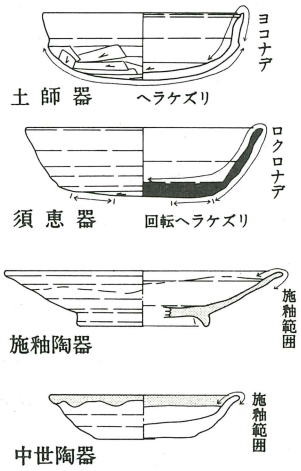
・土器実測図において復元実測を行なったものは中心線を一点鎖線、調整技法の変換点は実線で、器形の変換点は破線で表現した。器種毎の主な表現方法は下記のとおりである。

須恵器　断面黒塗り。図外に示した細線はヘラケズリの範囲を、図内の矢印はヘラケズリにおける工具の移動方向を示す。

土師器　断面白抜き。図中の矢印はヘラケズリの方向を示す。彩色されたものはその範囲に網をかけて示した。

施釉陶器　断面網かけ。施釉範囲は破線で示した。

中世陶磁器類　断面白抜き。施釉範囲に網をかけて示した。



2．遺物観察表の凡例は以下のとおりである。

・法量の（ ）内の数値は推定値であり、単位はcmを示す。なお器高は破片の場合残存高を示す。

・胎土は土器に含まれる含有鉱物を以下の記号で示した。A石英、B白色粒子、C白色針状物質、D長石、E角閃石、F赤色粒子、G黒色粒子、H雲母、I片岩、J砂粒。

・焼成は４ランクに分けた。A良好、B普通、Cやや不良、D不良である。

・色調は『新版標準土色帖』（農林省水産技術会議事務局監修1967）に照らし最も近い色相を記した。彩度や明度は無視したためかなり幅のあるものである。

・残存率は５％刻みで表わしたが、破片の場合、図で示した残存部位に対するもので必ずしも全体に占める残存率を表示していない。

・出土位置・その他に記載した数値は註記番号である。多数の破片が接合した場合一部を割愛した。（ ）内の数値は住居の場合は床面を、溝・土壙の場合は底面を基準とした遺物の高さである。住居柱穴内のものは（－＊cm）と表記した。

目　　次

坂戸市

稲荷前遺跡（B・C区）

序

例言

凡例

（第１分冊）

Ⅰ　調査の概要 …… 1

1　発掘調査に至る経過 …… 1

2　発掘調査・報告書刊行事業の組織 …… 2

3　発掘調査・報告書作成の経過 …… 2

4　発掘調査の方法 …… 3

Ⅱ　立地と環境 …… 4

Ⅲ　遺跡の概観 …… 11

Ⅳ　B区の遺構と遺物 …… 16

1　B区の概観 …… 16

2　古墳時代前期の遺構と遺物 …… 18

（1）住居跡 …… 18

（2）方形周溝墓 …… 26

（3）土壙 …… 55

3　古墳時代後期～平安時代の遺構と遺物 …… 56

（1）住居跡 …… 56

（2）掘立柱建物跡 …… 233

（3）井戸跡 …… 245

（4）土壙 …… 256

（5）包含層 …… 263

4　中・近世の遺構と遺物 …… 265

（1）掘立柱建物跡 …… 265

（2）井戸跡 …… 272

（3）土壙 …… 278

（4）溝跡 …… 281

（5）火葬墓 …… 287

5　時期不明の遺構 …… 289

（1）井戸跡 …… 289

（2）土壙 …… 290

（3）土壙群 …… 290

6　グリッド・表採遺物 …… 292

（1）縄文土器 …… 292

（2）弥生土器 …… 292

（3）グリッド出土土器 …… 294

（4）表採遺物 …… 296

（第２分冊）

Ⅴ　Ｃ区の遺構と遺物 ……301
1　Ｃ区の概観 ……301
2　古墳時代前期の遺構と遺物 ……306
（1）住居跡 ……307
（2）方形周溝墓 ……337
（3）土壙 ……388
（4）土壙墓 ……389
3　古墳時代後期～平安時代の遺構と遺物 ……391
（1）住居跡 ……392
（2）掘立柱建物跡 ……534
（3）竪穴状遺構 ……544
（4）井戸跡 ……546
（5）土壙 ……556
（6）円形周溝状遺構 ……564
4　中・近世の遺構と遺物 ……566
（1）掘立柱建物跡 ……567
（2）竪穴状遺構 ……579
（3）井戸跡 ……580
（4）土壙 ……599
（5）溝跡 ……601
（6）敷石遺構 ……615
（7）火葬墓 ……617
5　時期不明の遺構 ……618
（1）土壙 ……618
（2）井戸跡 ……618
6　ピット出土遺物 ……622
7　グリッド・表採遺物ほか ……624
（1）グリッド出土遺物 ……624
（2）表採遺物 ……626
（3）Ａ区補遺 ……627

（第３分冊）

Ⅵ　調査のまとめ ……635
1　古墳時代前期 ……635
（1）出土土器について ……635
（2）遺構について ……648
（3）Ｂ区第１号土壙墓出土鉄剣について …651
2　古墳時代後期～平安時代 ……659
（1）出土土器について ……659
（2）小形瓦について ……668
（3）集落変遷について ……671
（4）胎土分析結果から ……680

（附篇）

1　稲荷前遺跡出土土器胎土分析（土師器）鑑定報告 ……690
2　稲荷前遺跡出土土器胎土分析（須恵器）鑑定報告 ……701

挿　図　目　次

（第１分冊）

第１図　グリッドの名称と分割 ……3
第２図　埼玉県の地形区分 ……4
第３図　事業地内の遺跡分布 ……5
第４図　地形断面模式図 ……6
第５図　周辺の遺跡分布 ……7
第６図　稲荷前遺跡全測図(1/1200) ……12・13
第７図　Ｂ区全測図(1/600) ……16・17
第８図　Ｂ区古墳時代前期の遺構配置図 ……18
第９図　Ｂ区第１号住居跡 ……19
第10図　Ｂ区第１号住居跡出土遺物(1) ……20
第11図　Ｂ区第１号住居跡出土遺物(2) ……21
第12図　Ｂ区第１号住居跡出土遺物(3) ……22
第13図　Ｂ区第２号住居跡 ……23
第14図　Ｂ区第２号住居跡出土遺物 ……24
第15図　Ｂ区第３号住居跡出土遺物 ……24
第16図　Ｂ区第３・４号住居跡 ……25
第17図　Ｂ区第１号方形周溝墓出土遺物 ……27
第18図　Ｂ区第１号方形周溝墓 ……28
第19図　Ｂ区第２号方形周溝墓出土遺物 ……29
第20図　Ｂ区第２号方形周溝墓 ……30
第21図　Ｂ区第３号方形周溝墓 ……31
第22図　Ｂ区第３号方形周溝墓出土遺物 ……32
第23図　Ｂ区第４号方形周溝墓出土遺物 ……33
第24図　Ｂ区第４号方形周溝墓 ……34・35
第25図　Ｂ区第５号方形周溝墓(1) ……36
第26図　Ｂ区第５号方形周溝墓(2) ……37
第27図　Ｂ区第５号方形周溝墓出土遺物(1) ……39
第28図　Ｂ区第５号方形周溝墓出土遺物(2) ……40
第29図　Ｂ区第６号方形周溝墓 ……41
第30図　Ｂ区第７号方形周溝墓 ……42
第31図　Ｂ区第７号方形周溝墓出土遺物 ……43
第32図　Ｂ区第８号方形周溝墓 ……44
第33図　Ｂ区第８号方形周溝墓出土遺物 ……45
第34図　Ｂ区第９号方形周溝墓 ……46
第35図　Ｂ区第９号方形周溝墓出土遺物 ……48
第36図　Ｂ区第10号方形周溝墓 ……49
第37図　Ｂ区第10号方形周溝墓出土遺物 ……50
第38図　Ｂ区第11号方形周溝墓 ……50
第39図　Ｂ区第11号方形周溝墓出土遺物 ……51
第40図　Ｂ区第12号方形周溝墓 ……51
第41図　Ｂ区第13号方形周溝墓・出土遺物 ……52
第42図　Ｂ区第14号方形周溝墓 ……52
第43図　Ｂ区第15号方形周溝墓 ……53
第44図　Ｂ区第15号方形周溝墓出土遺物 ……54
第45図　Ｂ区第16号方形周溝墓 ……55
第46図　Ｂ区第20・55号土壙・出土遺物 ……55
第47図　Ｂ区古墳後期～平安時代の遺構配置図…56
第48図　Ｂ区第５号住居跡 ……57
第49図　Ｂ区第５号住居跡カマド ……58
第50図　Ｂ区第５号住居跡出土遺物 ……59
第51図　Ｂ区第６号住居跡出土遺物 ……60
第52図　Ｂ区第６・７号住居跡 ……61
第53図　Ｂ区第７号住居跡出土遺物 ……62
第54図　Ｂ区第８号住居跡出土遺物 ……62
第55図　Ｂ区第８号住居跡 ……63
第56図　Ｂ区第９号住居跡 ……64
第57図　Ｂ区第９号住居跡出土遺物 ……65
第58図　Ｂ区第10号住居跡 ……66
第59図　Ｂ区第10号住居跡出土遺物 ……66
第60図　Ｂ区第11号住居跡炭化材出土状況 ……67
第61図　Ｂ区第11号住居跡 ……68
第62図　Ｂ区第11号住居跡出土遺物 ……68
第63図　Ｂ区第12号住居跡 ……69
第64図　Ｂ区第12号住居跡出土遺物 ……69
第65図　Ｂ区第13・14号住居跡 ……70
第66図　Ｂ区第13号住居跡出土遺物 ……71
第67図　Ｂ区第14号住居跡出土遺物 ……72
第68図　Ｂ区第15号住居跡 ……73
第69図　Ｂ区第15号住居跡出土遺物 ……74
第70図　Ｂ区第16号住居跡 ……74
第71図　Ｂ区第16号住居跡出土遺物 ……75
第72図　Ｂ区第17号住居跡 ……76
第73図　Ｂ区第17号住居跡出土遺物 ……77
第74図　Ｂ区第18・19号住居跡 ……78
第75図　Ｂ区第18号住居跡出土遺物 ……79
第76図　Ｂ区第19号住居跡出土遺物 ……80
第77図　Ｂ区第20号住居跡出土遺物 ……81
第78図　Ｂ区第20号住居跡 ……82
第79図　Ｂ区第21号住居跡 ……83
第80図　Ｂ区第21号住居跡出土遺物 ……84
第81図　Ｂ区第22号住居跡・カマド ……85
第82図　Ｂ区第22号住居跡出土遺物 ……86
第83図　Ｂ区第23・24号住居跡 ……87
第84図　Ｂ区第25号住居跡 ……88
第85図　Ｂ区第25号住居跡出土遺物 ……89
第86図　Ｂ区第26号住居跡 ……89
第87図　Ｂ区第26号住居跡出土遺物 ……90
第88図　Ｂ区第27号住居跡 ……91
第89図　Ｂ区第28号住居跡 ……91
第90図　Ｂ区第28号住居跡出土遺物 ……92
第91図　Ｂ区第29号住居跡 ……93
第92図　Ｂ区第29号住居跡出土遺物(1) ……94

第93図　B区第29号住居跡出土遺物(2) ……95
第94図　B区第30号住居跡 ……96
第95図　B区第30号住居跡出土遺物 ……96
第96図　B区第31号住居跡 ……97
第97図　B区第31号住居跡出土遺物 ……98
第98図　B区第32・33号住居跡 ……99
第99図　B区第32・33号住居跡出土遺物 ……100
第100図 B区第34号住居跡 ……102
第101図 B区第34号住居跡出土遺物 ……103
第102図 B区第35・36号住居跡 ……104
第103図 B区第37号住居跡 ……105
第104図 B区第37号住居跡出土遺物 ……106
第105図 B区第38号住居跡 ……106
第106図 B区第38号住居跡出土遺物 ……107
第107図 B区第39号住居跡 ……108
第108図 B区第39号住居跡出土遺物 ……109
第109図 B区第40号住居跡 ……111
第110図 B区第40号住居跡出土遺物 ……113
第111図 B区第41号住居跡 ……115
第112図 B区第41号住居跡出土遺物 ……116
第113図 B区第42号住居跡 ……117
第114図 B区第42号住居跡出土遺物 ……118
第115図 B区第43号住居跡 ……119
第116図 B区第43号住居跡出土遺物 ……119
第117図 B区第44号住居跡 ……121
第118図 B区第44号住居跡出土遺物 ……121
第119図 B区第45号住居跡 ……122
第120図 B区第45号住居跡カマド ……123
第121図 B区第45号住居跡出土遺物 ……124
第122図 B区第46号住居跡 ……126
第123図 B区第46号住居跡出土遺物 ……127
第124図 B区第47号住居跡 ……129
第125図 B区第47号住居跡出土遺物 ……129
第126図 B区第48号住居跡 ……130
第127図 B区第48号住居跡出土遺物 ……131
第128図 B区第49号住居跡 ……133
第129図 B区第49号住居跡出土遺物 ……134
第130図 B区第50号住居跡 ……136
第131図 B区第50号住居跡出土遺物 ……137
第132図 B区第51号住居跡 ……138
第133図 B区第51号住居跡出土遺物 ……138
第134図 B区第52号住居跡 ……139
第135図 B区第52号住居跡出土遺物(1) ……140
第136図 B区第52号住居跡出土遺物(2) ……141
第137図 B区第53号住居跡 ……143
第138図 B区第53号住居跡出土遺物 ……144
第139図 B区第54・55号住居跡 ……146
第140図 B区第54号住居跡出土遺物 ……148
第141図 B区第56号住居跡 ……150
第142図 B区第56号住居跡出土遺物 ……151
第143図 B区第57・58号住居跡 ……153
第144図 B区第57・58号住居跡カマド ……154
第145図 B区第57号住居跡出土遺物 ……155
第146図 B区第58号住居跡出土遺物 ……157
第147図 B区第59号住居跡 ……158
第148図 B区第59号住居跡カマド ……159
第149図 B区第59～61号住居跡遺物分布図 ……160
第150図 B区第59号住居跡出土遺物(1) ……161
第151図 B区第59号住居跡出土遺物(2) ……162
第152図 B区第60・61号住居跡(1) ……164
第153図 B区第60・61号住居跡・カマド(2) ……165
第154図 B区第60号住居跡出土遺物 ……167
第155図 B区第61号住居跡出土遺物 ……169
第156図 B区第59～61号住居跡出土遺物 ……170
第157図 B区第62号住居跡(1) ……172
第158図 B区第62号住居跡・カマド(2) ……173
第159図 B区第62号住居跡出土遺物(1) ……174
第160図 B区第62号住居跡出土遺物(2) ……175
第161図 B区第63号住居跡・カマド ……177
第162図 B区第63号住居跡出土遺物 ……178
第163図 B区第64号住居跡 ……180
第164図 B区第64号住居跡出土遺物 ……181
第165図 B区第65・66号住居跡(1) ……182
第166図 B区第65・66号住居跡(2) ……183
第167図 B区第65号住居跡出土遺物 ……184
第168図 B区第66号住居跡出土遺物 ……185
第169図 B区第67号住居跡 ……186
第170図 B区第67号住居跡出土遺物 ……187
第171図 B区第68・69号住居跡 ……188
第172図 B区第68号住居跡出土遺物 ……189
第173図 B区第69号住居跡出土遺物 ……190
第174図 B区第70号住居跡 ……191
第175図 B区第70号住居跡カマド ……192
第176図 B区第70号住居跡出土遺物 ……193
第177図 B区第71号住居跡・カマド ……195
第178図 B区第71号住居跡出土遺物 ……196
第179図 B区第72号住居跡 ……197
第180図 B区第72号住居跡出土遺物 ……197
第181図 B区第73号住居跡 ……198
第182図 B区第73号住居跡出土遺物 ……199
第183図 B区第74号住居跡・カマド ……200
第184図 B区第74号住居跡出土遺物 ……201
第185図 B区第75号住居跡 ……202
第186図 B区第75号住居跡出土遺物 ……204
第187図 B区第76号住居跡 ……205
第188図 B区第76号住居跡出土遺物(1) ……206
第189図 B区第76号住居跡出土遺物(2) ……207
第190図 B区第77号住居跡 ……209

第191図　B区第77号住居跡出土遺物 ……210
第192図　B区第78・79号住居跡 ……212
第193図　B区第78・79号住居跡カマド ……213
第194図　B区第78号住居跡出土遺物 ……214
第195図　B区第79号住居跡出土遺物 ……215
第196図　B区第80・81号住居跡 ……217
第197図　B区第80・81号住居跡カマド ……218
第198図　B区第80号住居跡出土遺物 ……219
第199図　B区第81号住居跡出土遺物 ……220
第200図　B区第82号住居跡 ……221
第201図　B区第83・84号住居跡 ……222
第202図　B区第85号住居跡・カマド ……224
第203図　B区第85号住居跡出土遺物(1) ……225
第204図　B区第85号住居跡出土遺物(2) ……226
第205図　B区第86・87号住居跡 ……227
第206図　B区第86・87号住居跡出土遺物 ……228
第207図　B区第88号住居跡 ……230
第208図　B区第88号住居跡出土遺物 ……231
第209図　B区第89号住居跡 ……232
第210図　B区第1号掘立柱建物跡 ……233
第211図　B区第2号掘立柱建物跡 ……234・235
第212図　B区第3号掘立柱建物跡(1) ……236
第213図　B区第3号掘立柱建物跡(2) ……237
第214図　B区第4号掘立柱建物跡 ……238
第215図　B区第5号掘立柱建物跡 ……239
第216図　B区第6号掘立柱建物跡 ……241
第217図　B区第7号掘立柱建物跡 ……242
第218図　B区第1・3・6・9号掘立柱建物跡遺物 …243
第219図　B区第8号掘立柱建物跡 ……244
第220図　B区第9号掘立柱建物跡 ……245
第221図　B区第1号井戸跡 ……246
第222図　B区第1号井戸跡出土遺物(1) ……247
第223図　B区第1号井戸跡出土遺物(2) ……248
第224図　B区第1号井戸跡出土遺物(3) ……249
第225図　B区第2号井戸跡 ……250
第226図　B区第2号井戸跡出土遺物 ……251
第227図　B区第3号井戸跡 ……252
第228図　B区第3号井戸跡出土遺物(1) ……253
第229図　B区第3号井戸跡出土遺物(2) ……254
第230図　B区第4号井戸跡・出土遺物 ……255
第231図　B区第5号井戸跡・出土遺物 ……256
第232図　B区第61号土壙 ……257
第233図　B区第61号土壙出土遺物 ……258
第234図　B区土壙(1) ……259
第235図　B区土壙(2) ……260
第236図　B区土壙出土遺物(1) ……261
第237図　B区土壙出土遺物(2) ……262
第238図　B区包含層出土遺物 ……263
第239図　B区中・近世の遺構配置図 ……265
第240図　B区第10号掘立柱建物跡 ……266
第241図　B区第11号掘立柱建物跡 ……267
第242図　B区第12号掘立柱建物跡 ……268
第243図　B区第13号掘立柱建物跡 ……269
第244図　B区第14号掘立柱建物跡 ……270
第245図　B区第15号掘立柱建物跡 ……271
第246図　B区第12・13号掘立柱建物跡出土遺物…271
第247図　B区第6号井戸跡 ……272
第248図　B区第6号井戸跡出土遺物 ……273
第249図　B区第7号井戸跡・出土遺物 ……274
第250図　B区第8号井戸跡・出土遺物 ……275
第251図　B区第9号井戸跡 ……275
第252図　B区第9号井戸跡出土遺物 ……276
第253図　B区第10号井戸跡・出土遺物 ……276
第254図　B区第11号井戸跡・出土遺物 ……277
第255図　B区第12号井戸跡・出土遺物 ……278
第256図　B区中・近世の土壙 ……279
第257図　B区中・近世の土壙出土遺物 ……280
第258図　B区中・近世の溝跡(1) ……282
第259図　B区中・近世の溝跡(2) ……283
第260図　B区中・近世の溝跡(3) ……284
第261図　B区中・近世の溝跡土層図 ……285
第262図　B区中・近世の溝跡出土遺物(1) ……286
第263図　B区中・近世の溝跡出土遺物(2) ……287
第264図　B区第1・2号火葬墓 ……288
第265図　B区第1・2号火葬墓出土遺物 ……288
第266図　B区第13～17号井戸跡 ……289
第267図　B区時期不明の土壙 ……291
第268図　B区出土縄文土器 ……293
第269図　B区出土弥生土器 ……294
第270図　B区グリッド出土遺物(1) ……295
第271図　B区グリッド出土遺物(2) ……296
第272図　B区表採遺物 ……297

(第2分冊)

第273図　C区全測図(1/600) ……303・304
第274図　C区古墳時代前期の遺構配置図 ……306
第275図　C区第1号住居跡 ……307
第276図　C区第1号住居跡出土遺物 ……307
第277図　C区第2号住居跡 ……308
第278図　C区第2号住居跡出土遺物 ……308
第279図　C区第3号住居跡 ……309
第280図　C区第3号住居跡出土遺物 ……310
第281図　C区第4・5号住居跡 ……311
第282図　C区第4号住居跡出土遺物 ……312
第283図　C区第6号住居跡(1) ……314
第284図　C区第6号住居跡(2) ……315
第285図　C区第6号住居跡出土遺物(1) ……316
第286図　C区第6号住居跡出土遺物(2) ……317

第287図　C区第７号住居跡 ……318
第288図　C区第７号住居跡出土遺物 ……319
第289図　C区第８号住居跡 ……320
第290図　C区第８号住居跡出土遺物 ……321
第291図　C区第９号住居跡 ……322
第292図　C区第９号住居跡出土遺物 ……323
第293図　C区第10号住居跡 ……325
第294図　C区第10号住居跡出土遺物 ……326
第295図　C区第11号住居跡 ……327
第296図　C区第11号住居跡出土遺物 ……328
第297図　C区第12号住居跡出土遺物 ……329
第298図　C区第12号住居跡 ……330・331
第299図　C区第13号住居跡 ……332
第300図　C区第13号住居跡出土遺物 ……333
第301図　C区第14号住居跡 ……334
第302図　C区第14号住居跡出土遺物 ……334
第303図　C区第15号住居跡 ……335
第304図　C区第15号住居跡出土遺物 ……336
第305図　C区第１号方形周溝墓 ……338・339
第306図　C区第１号方形周溝墓出土遺物(1) …340
第307図　C区第１号方形周溝墓出土遺物(2) …341
第308図　C区第１号方形周溝墓出土遺物(3) …342
第309図　C区第１号方形周溝墓出土遺物(4) …343
第310図　C区第２号方形周溝墓 ……344
第311図　C区第２号方形周溝墓出土遺物 ……345
第312図　C区第３号方形周溝墓 ……346
第313図　C区第３号方形周溝墓出土遺物 ……347
第314図　C区第４号方形周溝墓 ……347
第315図　C区第４号方形周溝墓出土遺物 ……348
第316図　C区第５号方形周溝墓 ……350
第317図　C区第５号方形周溝墓出土遺物(1) …351
第318図　C区第５号方形周溝墓出土遺物(2) …352
第319図　C区第５号方形周溝墓出土遺物(3) …353
第320図　C区第６号方形周溝墓 ……354
第321図　C区第６号方形周溝墓出土遺物 ……355
第322図　C区第７号方形周溝墓 ……357
第323図　C区第７号方形周溝墓出土遺物(1) …358
第324図　C区第７号方形周溝墓出土遺物(2) …359
第325図　C区第８号方形周溝墓 ……361
第326図　C区第８号方形周溝墓出土遺物 ……362
第327図　C区第９号方形周溝墓 ……363
第328図　C区第９号方形周溝墓出土遺物 ……364
第329図　C区第10号方形周溝墓 ……366・367
第330図　C区第10号方形周溝墓出土遺物(1) …367
第331図　C区第10号方形周溝墓出土遺物(2) …368
第332図　C区第11号方形周溝墓 ……370・371
第333図　C区第11号方形周溝墓出土遺物(1) …371
第334図　C区第11号方形周溝墓出土遺物(2) …372
第335図　C区第12号方形周溝墓 ……374
第336図　C区第12号方形周溝墓出土遺物 ……375
第337図　C区第13号方形周溝墓 ……376
第338図　C区第14号方形周溝墓 ……377
第339図　C区第14号方形周溝墓出土遺物 ……377
第340図　C区第15号方形周溝墓・出土遺物 …378
第341図　C区第16号方形周溝墓 ……379
第342図　C区第16号方形周溝墓出土遺物 ……379
第343図　C区第17号方形周溝墓 ……380・381
第344図　C区第17号方形周溝墓出土遺物(1) …383
第345図　C区第17号方形周溝墓出土遺物(2) …384
第346図　C区第18号方形周溝墓 ……386
第347図　C区第18号方形周溝墓出土遺物 ……386
第348図　C区第19号方形周溝墓 ……387
第349図　C区第19号方形周溝墓出土遺物 ……388
第350図　C区第20・21号方土壙 ……389
第351図　C区第１号土壙墓 ……389
第352図　C区第１号土壙墓出土遺物 ……390
第353図　C区古墳後期～平安時代の遺構配置図 …391
第354図　C区第16号住居跡 ……392
第355図　C区第16号住居跡出土遺物 ……392
第356図　C区第17号住居跡 ……393
第357図　C区第17号住居跡出土遺物 ……393
第358図　C区第18号住居跡 ……394
第359図　C区第18号住居跡出土遺物 ……395
第360図　C区第19号住居跡 ……396
第361図　C区第19号住居跡出土遺物 ……397
第362図　C区第20号住居跡 ……398
第363図　C区第20号住居跡出土遺物 ……399
第364図　C区第21号住居跡・カマド ……401
第365図　C区第21号住居跡出土遺物 ……402
第366図　C区第22号住居跡 ……403
第367図　C区第23号住居跡 ……404
第368図　C区第23号住居跡カマド ……405
第369図　C区第23号住居跡出土遺物 ……406
第370図　C区第24号住居跡 ……407
第371図　C区第24号住居跡出土遺物 ……408
第372図　C区第25号住居跡 ……409
第373図　C区第25号住居跡出土遺物 ……410
第374図　C区第26号住居跡出土遺物 ……410
第375図　C区第26号住居跡 ……411
第376図　C区第27号住居跡出土遺物 ……412
第377図　C区第27号住居跡 ……412
第378図　C区第28号住居跡 ……413
第379図　C区第29号住居跡 ……414
第380図　C区第29号住居跡出土遺物 ……414
第381図　C区第30号住居跡・カマド ……415
第382図　C区第30号住居跡出土遺物 ……416
第383図　C区第31号住居跡 ……417
第384図　C区第31号住居跡出土遺物 ……418

第385図　C区第32号住居跡出土遺物 ……418
第386図　C区第32号住居跡 ……419
第387図　C区第33号住居跡 ……420
第388図　C区第33号住居跡出土遺物 ……420
第389図　C区第34号住居跡・カマド ……422
第390図　C区第34号住居跡出土遺物 ……423
第391図　C区第35号住居跡 ……424
第392図　C区第35号住居跡出土遺物 ……425
第393図　C区第36号住居跡 ……426
第394図　C区第36号住居跡出土遺物 ……427
第395図　C区第37・38号住居跡(1) ……428
第396図　C区第37・38号住居跡(2)・カマド …429
第397図　C区第37・38号住居跡出土遺物 ……430
第398図　C区第38号住居跡カマド ……431
第399図　C区第38号住居跡出土遺物(1) ……433
第400図　C区第38号住居跡出土遺物(2) ……434
第401図　C区第38号住居跡出土遺物(3) ……435
第402図　C区第39号住居跡・カマド ……437
第403図　C区第39号住居跡出土遺物 ……438
第404図　C区第40号住居跡 ……439
第405図　C区第40号住居跡出土遺物 ……440
第406図　C区第41号住居跡 ……441
第407図　C区第41号住居跡出土遺物 ……442
第408図　C区第42号住居跡 ……443
第409図　C区第43号住居跡 ……444
第410図　C区第43号住居跡出土遺物 ……444
第411図　C区第44号住居跡・カマド ……445
第412図　C区第44号住居跡出土遺物 ……446
第413図　C区第45号住居跡・カマド ……447
第414図　C区第45号住居跡出土遺物 ……448
第415図　C区第46号住居跡 ……449
第416図　C区第46号住居跡出土遺物 ……449
第417図　C区第47号住居跡 ……450
第418図　C区第47号住居跡出土遺物 ……451
第419図　C区第48号住居跡出土遺物 ……451
第420図　C区第48号住居跡 ……452
第421図　C区第49号住居跡・カマド ……453
第422図　C区第49号住居跡出土遺物 ……455
第423図　C区第50号住居跡 ……456
第424図　C区第50号住居跡出土遺物 ……457
第425図　C区第51号住居跡・カマド ……458
第426図　C区第51号住居跡出土遺物 ……459
第427図　C区第52号住居跡 ……460
第428図　C区第52号住居跡出土遺物 ……461
第429図　C区第53号住居跡 ……462
第430図　C区第53号住居跡出土遺物 ……463
第431図　C区第54号住居跡・カマド ……464
第432図　C区第54号住居跡出土遺物 ……464
第433図　C区第55号住居跡・カマド ……465
第434図　C区第55号住居跡出土遺物 ……466
第435図　C区第56号住居跡・出土遺物 ……467
第436図　C区第57・58号住居跡 ……468
第437図　C区第57・58号住居跡カマド ……469
第438図　C区第57号住居跡出土遺物 ……470
第439図　C区第58号住居跡出土遺物 ……471
第440図　C区第59号住居跡・カマド ……472
第441図　C区第59号住居跡出土遺物 ……473
第442図　C区第60号住居跡 ……473
第443図　C区第60号住居跡出土遺物 ……474
第444図　C区第61号住居跡・カマド ……475
第445図　C区第61号住居跡出土遺物 ……476
第446図　C区第62号住居跡 ……477
第447図　C区第62号住居跡出土遺物 ……478
第448図　C区第63・64号住居跡 ……479
第449図　C区第63号住居跡出土遺物 ……479
第450図　C区第63・64号住居跡カマド ……480
第451図　C区第64号住居跡出土遺物 ……482
第452図　C区第65号住居跡出土遺物 ……483
第453図　C区第65号住居跡・カマド ……484
第454図　C区第66号住居跡 ……486
第455図　C区第66号住居跡出土遺物(1) ……487
第456図　C区第66号住居跡出土遺物(2) ……488
第457図　C区第67号住居跡 ……489
第458図　C区第67号住居跡出土遺物 ……490
第459図　C区第68号住居跡 ……491
第460図　C区第68号住居跡カマド ……492
第461図　C区第68号住居跡出土遺物 ……492
第462図　C区第69・70号住居跡 ……494
第463図　C区第70号住居跡出土遺物(1) ……495
第464図　C区第70号住居跡出土遺物(2) ……496
第465図　C区第71号住居跡(1) ……498
第466図　C区第71号住居跡(2)・カマド ……499
第467図　C区第71号住居跡出土遺物(1) ……500
第468図　C区第71号住居跡出土遺物(2) ……501
第469図　C区第72号住居跡・カマド ……503
第470図　C区第72号住居跡遺物分布図 ……504
第471図　C区第72号住居跡出土遺物(1) ……505
第472図　C区第72号住居跡出土遺物(2) ……506
第473図　C区第72号住居跡出土遺物(3) ……507
第474図　C区第73号住居跡 ……508
第475図　C区第73号住居跡出土遺物 ……509
第476図　C区第74号住居跡・カマド ……510
第477図　C区第74号住居跡出土遺物 ……511
第478図　C区第75号住居跡・カマド ……512
第479図　C区第75号住居跡出土遺物 ……513
第480図　C区第76・77号住居跡 ……515
第481図　C区第76号住居跡出土遺物 ……516
第482図　C区第77号住居跡出土遺物 ……516

第483図　C区第78号住居跡・カマド　……517
第484図　C区第78号住居跡出土遺物　……518
第485図　C区第79号住居跡　……519
第486図　C区第79号住居跡出土遺物　……520
第487図　C区第80号住居跡　……521
第488図　C区第80号住居跡出土遺物　……522
第489図　C区第81号住居跡・カマド　……523
第490図　C区第81号住居跡出土遺物　……524
第491図　C区第82号住居跡　……525
第492図　C区第82号住居跡出土遺物　……525
第493図　C区第83号住居跡　……526
第494図　C区第83号住居跡出土遺物　……526
第495図　C区第84号住居跡　……527
第496図　C区第84号住居跡出土遺物　……528
第497図　C区第85号住居跡　……529
第498図　C区第85号住居跡出土遺物　……531
第499図　C区第86号住居跡・カマド　……532
第500図　C区第86号住居跡出土遺物　……533
第501図　C区第87号住居跡　……533
第502図　C区第87号住居跡出土遺物　……534
第503図　C区第１号掘立柱建物跡　……535
第504図　C区第２号掘立柱建物跡　……536
第505図　C区第３号掘立柱建物跡　……537
第506図　C区第４号掘立柱建物跡　……539
第507図　C区第５号掘立柱建物跡　……540
第508図　C区第１～７号掘立柱建物跡出土遺物　…541
第509図　C区第６号掘立柱建物跡　……542
第510図　C区第７号掘立柱建物跡　……543
第511図　C区第号竪穴状遺構　……544
第512図　C区第２号竪穴状遺構　……545
第513図　C区第２号竪穴状遺構出土遺物　……545
第514図　C区第３号竪穴状遺構　……546
第515図　C区第１号井戸跡・出土遺物　……547
第516図　C区第２号井戸跡・出土遺物　……548
第517図　C区第３号井戸跡・出土遺物　……549
第518図　C区第４号井戸跡・出土遺物　……550
第519図　C区第５号井戸跡・出土遺物　……551
第520図　C区第６号井戸跡・出土遺物　……552
第521図　C区第７号井戸跡・出土遺物　……552
第522図　C区第８号井戸跡・出土遺物　……553
第523図　C区第９号井戸跡・出土遺物　……553
第524図　C区第10号井戸跡・出土遺物　……554
第525図　C区第11～14号井戸跡　……555
第526図　C区土壙(1)　……557
第527図　C区土壙(2)　……558
第528図　C区土壙(3)　……559
第529図　C区土壙出土遺物(1)　……560
第530図　C区土壙出土遺物(2)　……561
第531図　C区土壙出土遺物(3)　……562
第532図　C区第１号円形周溝状遺構　……564
第533図　C区第２号円形周溝状遺構　……565
第534図　C区中・近世の遺構配置図　……566
第535図　C区第８号掘立柱建物跡　……568・569
第536図　C区第９号掘立柱建物跡　……570
第537図　C区第10号掘立柱建物跡　……571
第538図　C区第11号掘立柱建物跡　……572
第539図　C区第12号掘立柱建物跡　……573
第540図　C区第13号掘立柱建物跡　……574
第541図　C区第14号掘立柱建物跡　……575
第542図　C区第15号掘立柱建物跡　……576
第543図　C区第16号掘立柱建物跡　……577
第544図　C区第17号掘立柱建物跡　……578
第545図　C区第４号竪穴状遺構　……579
第546図　C区第４号竪穴状遺構出土遺物　……580
第547図　C区第５号竪穴状遺構　……580
第548図　C区第15号井戸跡・出土遺物　……581
第549図　C区第16号井戸跡　……582
第550図　C区第16号井戸跡出土遺物　……583
第551図　C区第17号井戸跡　……584
第552図　C区第17号井戸跡出土遺物(1)　……585
第553図　C区第17号井戸跡出土遺物(2)　……586
第554図　C区第18号井戸跡　……586
第555図　C区第18号井戸跡出土遺物　……587
第556図　C区第19号井戸跡　……588
第557図　C区第19号井戸跡出土遺物(1)　……589
第558図　C区第19号井戸跡出土遺物(2)　……590
第559図　C区第20号井戸跡・出土遺物　……591
第560図　C区第21号井戸跡・出土遺物　……592
第561図　C区第22号井戸跡・出土遺物　……593
第562図　C区第23号井戸跡・出土遺物(1)　……594
第563図　C区第23号井戸跡出土遺物(2)　……595
第564図　C区第24号井戸跡・出土遺物　……596
第565図　C区第25号井戸跡・出土遺物　……597
第566図　C区第26号井戸跡・出土遺物　……598
第567図　C区第27号井戸跡　……599
第568図　C区中・近世の土壙出土遺物　……599
第569図　C区中・近世の土壙(1)　……600
第570図　C区中・近世の土壙(2)　……601
第571図　C区中・近世の溝跡(1)　……602
第572図　C区中・近世の溝跡(2)　……603
第573図　C区中・近世の溝跡(3)　……604
第574図　C区中・近世の溝跡(4)　……605
第575図　C区第１～５・７号溝跡土層図　……606
第576図　C区第２号溝跡(部分)　……606
第577図　C区第６・８～11・17号溝跡土層図…607
第578図　C区第６・16号溝跡(部分)　……608
第579図　C区第９号溝跡(部分)　……609
第580図　C区第14・16号溝跡(部分)　……610

第581図　C区第12～16・24号溝跡土層図 ……611
第582図　C区第19～23・25～29号溝跡土層図…611
第583図　C区第30号溝跡(部分) ……612
第584図　C区第18・30・31号溝跡土層図 ……612
第585図　C区第中・近世の溝跡出土遺物(1) …613
第586図　C区第中・近世の溝跡出土遺物(2) …614
第587図　C区第1号敷石遺構 ……616
第588図　C区第1号敷石遺構出土遺物 ……616
第589図　C区第2号敷石遺構 ……617
第590図　C区第1・2号火葬墓 ……618
第591図　C区時期不明の土壙(1) ……619
第592図　C区時期不明の土壙(2) ……620
第593図　C区時期不明の土壙(3) ……621
第594図　C区第28～32号井戸跡 ……622
第595図　C区ピット出土遺物 ……623
第596図　C区グリッド出土遺物 ……625
第597図　C区表採遺物 ……627
第598図　A区出土遺物 ……628

(第3分冊)

第599図　土器分類図(1) ……637
第600図　土器分類図(2) ……638
第601図　土器分類図(3) ……639
第602図　土器分類図(4)……641
第603図　住居跡の主軸・規模 ……648
第604図　周溝墓の規模 ……649
第605図　周溝墓の主軸 ……650
第606図　鉄剣及び復元図 ……652
第607図　剣の佩用 ……653
第608図　埼玉県出土の鉄剣 ……654
第609図　Ⅰ～Ⅲ期の土器群 ……660
第610図　Ⅳ・Ⅴ期の土器群 ……661
第611図　Ⅴ・Ⅵ期の土器群 ……663
第612図　Ⅶ～Ⅸ期の土器群 ……665
第613図　Ⅹ～ⅩⅤ期の土器群 ……667
第614図　小型瓦の分布 ……669
第615図　B区Ⅰ～Ⅳ期の集落 ……672
第616図　C区Ⅰ～Ⅳ期の集落 ……673
第617図　B区Ⅴ・Ⅵ期の集落 ……674
第618図　C区Ⅴ・Ⅵ期の集落 ……675
第619図　B区Ⅶ～ⅩⅠ期の集落 ……676
第620図　C区Ⅶ～ⅩⅠ期の集落 ……677
第621図　B区ⅩⅡ～ⅩⅣ期の集落 ……678
第622図　C区ⅩⅡ～ⅩⅤ期の集落 ……679
第623図　胎土分析資料(土師器)と分析値 ……682
第624図　胎土分析比較資料 ……683
第625図　胎土分析資料(須恵器)と分析値 ……686

表　目　次

第1表　B区遺構新旧対照表 ……298
第2表　B区土壙一覧表(1) ……299
第3表　B区土壙一覧表(2) ……300
第4表　C区遺構新旧対照表 ……630
第5表　C区土壙一覧表(1) ……631
第6表　C区土壙一覧表(2) ……632
第7表　C区土壙一覧表(3) ……633
第8表　埼玉県内の鉄剣出土遺跡一覧表 ……652

付　図　目　次

付図1　稲荷前遺跡全側図(1/800)
付図2　稲荷前遺跡B区全側図(1/400)
付図3　稲荷前遺跡C区全側図(1/400)

写真図版目次

図版１　稲荷前遺跡遠景
稲荷前遺跡全景
図版２　稲荷前遺跡Ｂ・Ｃ区全景
稲荷前遺跡Ｂ区全景
図版３　稲荷前遺跡Ｃ区全景
稲荷前遺跡Ｃ区全景
図版４　Ｂ区第１号住居跡
Ｂ区第１号住居跡遺物出土状態
Ｂ区第２号住居跡
図版５　Ｂ区第３号住居跡
Ｂ区第５号住居跡
Ｂ区第５号住居跡カマド
図版６　Ｂ区第６号住居跡
Ｂ区第８号住居跡
Ｂ区第９号住居跡
図版７　Ｂ区第10号住居跡
Ｂ区第11号住居跡
Ｂ区第11号住居跡カマド
図版８　Ｂ区第11号住居跡遺物出土状態
Ｂ区第13・14号住居跡
Ｂ区第15号住居跡
図版９　Ｂ区第15号住居跡遺物出土状態
Ｂ区第15号住居跡遺物出土状態
Ｂ区第15号住居跡遺物出土状態
図版10　Ｂ区第16号住居跡
Ｂ区第17号住居跡
Ｂ区第18・19号住居跡
図版11　Ｂ区第18号住居跡遺物出土状態
Ｂ区第19号住居跡カマド
Ｂ区第20号住居跡カマド
図版12　Ｂ区第21号住居跡遺物出土状態
Ｂ区第22号住居跡
Ｂ区第22号住居跡遺物出土状態
図版13　Ｂ区第23・24号住居跡カマド
Ｂ区第25号住居跡
Ｂ区第25号住居跡カマド
図版14　Ｂ区第26号住居跡
Ｂ区第28号住居跡
Ｂ区第29号住居跡
図版15　Ｂ区第29号住居跡遺物出土状態
Ｂ区第29号住居跡遺物出土状態
Ｂ区第30号住居跡
図版16　Ｂ区第32・33号住居跡
Ｂ区第32号住居跡カマド
Ｂ区第32号住居跡遺物出土状態
図版17　Ｂ区第33号住居跡カマド
Ｂ区第35・36号住居跡
Ｂ区第38号住居跡
図版18　Ｂ区第39号住居跡
Ｂ区第40号住居跡
Ｂ区第40号住居跡遺物出土状態
図版19　Ｂ区第39～41号住居跡
Ｂ区第41号住居跡
Ｂ区第42号住居跡
図版20　Ｂ区第43号住居跡
Ｂ区第44号住居跡
Ｂ区第45号住居跡
図版21　Ｂ区第45号住居跡カマド
Ｂ区第45号住居跡遺物出土状態
Ｂ区第45号住居跡遺物出土状態
図版22　Ｂ区第48号住居跡
Ｂ区第49号住居跡
Ｂ区第49号住居跡遺物出土状態
図版23　Ｂ区第49号住居跡遺物出土状態
Ｂ区第50号住居跡
Ｂ区第52号住居跡
図版24　Ｂ区第53号住居跡
Ｂ区第53号住居跡遺物出土状態
Ｂ区第54・58号住居跡
図版25　Ｂ区第54号住居跡
Ｂ区第54・55号住居跡
Ｂ区第57・58号住居跡
図版26　Ｂ区第57号住居跡カマド
Ｂ区第59・61号住居跡
Ｂ区第59～61号住居跡
図版27　Ｂ区第59号住居跡カマド
Ｂ区第60・61号住居跡
Ｂ区第60号住居跡カマド
図版28　Ｂ区第62号住居跡
Ｂ区第62号住居跡遺物出土状態
Ｂ区第62号住居跡カマド
図版29　Ｂ区第63号住居跡
Ｂ区第63号住居跡遺物出土状態
Ｂ区第64号住居跡
図版30　Ｂ区第67号住居跡
Ｂ区第67号住居跡カマド
Ｂ区第68号住居跡
図版31　Ｂ区第70号住居跡２号カマド
Ｂ区第72号住居跡
Ｂ区第73号住居跡
図版32　Ｂ区第74号住居跡
Ｂ区第74号住居跡遺物出土状態

Ｂ区第75号住居跡
図版33　Ｂ区第75号住居跡カマド
Ｂ区第75号住居跡遺物出土状態
Ｂ区第76号住居跡
図版34　Ｂ区第76号住居跡カマド
Ｂ区第76号住居跡遺物出土状態
Ｂ区第76号住居跡遺物出土状態
図版35　Ｂ区第76号住居跡遺物出土状態
Ｂ区第77号住居跡
Ｂ区第78号住居跡
図版36　Ｂ区第78号住居跡遺物出土状態
Ｂ区第78・79号住居跡
Ｂ区第79号住居跡
図版37　Ｂ区第79号住居跡１号カマド
Ｂ区第80号住居跡
Ｂ区第80・81号住居跡
図版38　Ｂ区第81号住居跡カマド
Ｂ区第85号住居跡
Ｂ区第85号住居跡カマド
図版39　Ｂ区第85号住居跡貯蔵穴
Ｂ区第88号住居跡
Ｂ区第88号住居跡カマド
図版40　方形周溝墓群全景
Ｂ区第１号方形周溝墓
Ｂ区第２号方形周溝墓
図版41　Ｂ区第２号方形周溝墓遺物出土状態
Ｂ区第３号方形周溝墓
Ｂ区第４号方形周溝墓
図版42　Ｂ区第４号方形周溝墓遺物出土状態
Ｂ区第５号方形周溝墓
Ｂ区第５号方形周溝墓
図版43　Ｂ区第５号方形周溝墓陸橋部
Ｂ区第５号方形周溝墓遺物出土状態
Ｂ区第５号方形周溝墓遺物出土状態
図版44　Ｂ区第５号方形周溝墓遺物出土状態
Ｂ区第６号方形周溝墓
Ｂ区第７号方形周溝墓
図版45　Ｂ区第７号方形周溝墓遺物出土状態
Ｂ区第８号方形周溝墓
Ｂ区第８号方形周溝墓遺物出土状態
図版46　Ｂ区第９号方形周溝墓
Ｂ区第９号方形周溝墓遺物出土状態
Ｂ区第10号方形周溝墓
図版47　Ｂ区第８～10号方形周溝墓
Ｂ区第11号方形周溝墓
Ｂ区第13号方形周溝墓
図版48　Ｂ区第13号方形周溝墓遺物出土状態
Ｂ区第15号方形周溝墓
Ｂ区第15号方形周溝墓遺物出土状態
図版49　Ｂ区第１号掘立柱建物跡
Ｂ区第３号掘立柱建物跡Ｐ$_3$
Ｂ区第１号火葬墓
図版50　Ｂ区第１号土壙
Ｂ区第９号土壙
Ｂ区第20号土壙
Ｂ区第25号土壙
Ｂ区第28号土壙
Ｂ区第29号土壙
Ｂ区第30号土壙
Ｂ区第32号土壙
図版51　Ｂ区第33号土壙
Ｂ区第34号土壙
Ｂ区第35号土壙
Ｂ区第36号土壙
Ｂ区第38号土壙
Ｂ区第54号土壙
Ｂ区第61号土壙
Ｂ区第１号井戸跡井戸枠
図版52　Ｂ区第１号井戸跡遺物出土状態
Ｂ区第２号井戸跡
Ｂ区第２号井戸跡遺物出土状態
Ｂ区第５号井戸跡
Ｂ区第７号井戸跡
Ｂ区第８号井戸跡
Ｂ区第10号井戸跡
Ｂ区第９号溝跡遺物出土状態
図版53　Ｂ区第１～３号住居跡出土遺物
図版54　Ｂ区第５・６・８号住居跡出土遺物
図版55　Ｂ区第10・11・15・18・21・25・29号住居跡出土遺物
図版56　Ｂ区第29・32・33・39・40号住居跡出土遺物
図版57　Ｂ区第40号住居跡出土遺物
図版58　Ｂ区第42・43・45号住居跡出土遺物
図版59　Ｂ区第45・46・48・49号住居跡出土遺物
図版60　Ｂ区第49・53・54・56号住居跡出土遺物
図版61　Ｂ区第57・59～62号住居跡出土遺物
図版62　Ｂ区第62・63号住居跡出土遺物
図版63　Ｂ区第63～65・68号住居跡出土遺物
図版64　Ｂ区第70～72号住居跡出土遺物
図版65　Ｂ区第74～78号住居跡出土遺物
図版66　Ｂ区第78・79・81・85号住居跡出土遺物
図版67　Ｂ区第85～88号住居跡、第２・４号方形周溝墓出土遺物
図版68　Ｂ区第４・５号方形周溝墓出土遺物
図版69　Ｂ区第５・７号方形周溝墓出土遺物
図版70　Ｂ区第７～10・13・15号方形周溝墓出土遺物
図版71　Ｂ区第１・２・５・６・12号井戸跡、

第２号火葬墓出土遺物
図版72　Ｂ区第54･61号土壙・グリッド
出土遺物
小形軒丸瓦
図版73　小形丸瓦
図版74　小形平瓦
図版75　Ｃ区第１号住居跡
Ｃ区第３号住居跡
Ｃ区第４・５号住居跡
図版76　Ｃ区第６号住居跡
Ｃ区第６号住居跡遺物出土状態
Ｃ区第７号住居跡遺物出土状態
図版77　Ｃ区第８号住居跡
Ｃ区第９･34号住居跡
Ｃ区第９号住居跡遺物出土状態
図版78　Ｃ区第10号住居跡
Ｃ区第11号住居跡
Ｃ区第12号住居跡
図版79　Ｃ区第13号住居跡
Ｃ区第14号住居跡
Ｃ区第15号住居跡
図版80　Ｃ区第15号住居跡遺物出土状態
Ｃ区第16号住居跡
Ｃ区第19号住居跡
図版81　Ｃ区第20号住居跡
Ｃ区第21号住居跡
Ｃ区第21号住居跡カマド
図版82　Ｃ区第22号住居跡
Ｃ区第23号住居跡
Ｃ区第23号住居跡カマド
図版83　Ｃ区第30･31号住居跡
Ｃ区第32号住居跡
Ｃ区第33号住居跡
図版84　Ｃ区第33号住居跡カマド
Ｃ区第34号住居跡カマド
Ｃ区第35号住居跡
図版85　Ｃ区第36号住居跡
Ｃ区第38号住居跡
Ｃ区第38号住居跡カマド
図版86　Ｃ区第38号住居跡遺物出土状態
Ｃ区第39号住居跡
Ｃ区第41号住居跡
図版87　Ｃ区第44号住居跡
Ｃ区第45号住居跡
Ｃ区第45号住居跡カマド
図版88　Ｃ区第47号住居跡
Ｃ区第49号住居跡
Ｃ区第50号住居跡
図版89　Ｃ区第51号住居跡
Ｃ区第51号住居跡カマド
Ｃ区第52号住居跡
図版90　Ｃ区第52号住居跡カマド
Ｃ区第53号住居跡
Ｃ区第53号住居跡カマド
図版91　Ｃ区第54号住居跡
Ｃ区第54号住居跡カマド
Ｃ区第55号住居跡
図版92　Ｃ区第55号住居跡カマド
Ｃ区第56号住居跡
Ｃ区第59号住居跡
図版93　Ｃ区第60号住居跡
Ｃ区第60号住居跡カマド
Ｃ区第60号住居跡
図版94　Ｃ区第61号住居跡１号カマド
Ｃ区第61号住居跡２号カマド
Ｃ区第62号住居跡
図版95　Ｃ区第63号住居跡
Ｃ区第64号住居跡
Ｃ区第64号住居跡遺物出土状態
図版96　Ｃ区第66号住居跡
Ｃ区第67号住居跡
Ｃ区第68号住居跡
図版97　Ｃ区第70号住居跡
Ｃ区第71号住居跡遺物出土状態
Ｃ区第71号住居跡
図版98　Ｃ区第72号住居跡
Ｃ区第72号住居跡カマド
Ｃ区第73号住居跡
図版99　Ｃ区第74号住居跡
Ｃ区第75号住居跡
Ｃ区第75号住居跡カマド
図版100　Ｃ区第78号住居跡
Ｃ区第79号住居跡
Ｃ区第79号住居跡カマド
図版101　Ｃ区第79号住居跡遺物出土状態
Ｃ区第80号住居跡
Ｃ区第80号住居跡遺物出土状態
図版102　Ｃ区第81号住居跡
Ｃ区第81号住居跡カマド
Ｃ区第82号住居跡
図版103　Ｃ区第85号住居跡
Ｃ区第86号住居跡
Ｃ区第86号住居跡貯蔵穴遺物出土状態
図版104　Ｃ区方形周溝墓群全景（西から東）
Ｃ区方形周溝墓群全景（東から西）
Ｃ区方形周溝墓群全景（中央から西）
図版105　Ｃ区第１号方形周溝墓
Ｃ区第１号方形周溝墓遺物出土状態

C区第１号方形周溝墓遺物出土状態
図版106 C区第３号方形周溝墓
C区第４号方形周溝墓
C区第５号方形周溝墓
図版107 C区第５号方形周溝墓遺物出土状態
C区第５号方形周溝墓遺物出土状態
C区第５号方形周溝墓遺物出土状態
図版108 C区第６号方形周溝墓
C区第７号方形周溝墓
C区第７号方形周溝墓遺物出土状態
図版109 C区第７号方形周溝墓遺物出土状態
C区第８号方形周溝墓
C区第８号方形周溝墓遺物出土状態
図版110 C区第９号方形周溝墓
C区第９号方形周溝墓遺物出土状態
C区第10号方形周溝墓
図版111 C区第10号方形周溝墓遺物出土状態
C区第11号方形周溝墓
C区第11号方形周溝墓遺物出土状態
図版112 C区第12号方形周溝墓
C区第12号方形周溝墓遺物出土状態
C区第13号方形周溝墓
図版113 C区第14号方形周溝墓
C区第15号方形周溝墓
C区第16号方形周溝墓
図版114 C区第17号方形周溝墓
C区第17号方形周溝墓遺物出土状態
C区第17号方形周溝墓遺物出土状態
図版115 C区第18号方形周溝墓
C区第18号方形周溝墓遺物出土状態
C区第19号方形周溝墓
図版116 C区第１号掘立柱建物跡
C区第３・４号掘立柱建物跡
C区第３号掘立柱建物跡
図版117 C区第４号掘立柱建物跡
C区第５号掘立柱建物跡
C区第６号掘立柱建物跡
図版118 C区第12号掘立柱建物跡
C区第15号掘立柱建物跡
C区第16号掘立柱建物跡
図版119 C区第17号掘立柱建物跡
C区第２号竪穴状遺構
C区第２号竪穴状遺構遺物出土状態
図版120 C区第３号竪穴状遺構
C区第１号円形周溝状遺構
C区第２号円形周溝状遺構
図版121 C区第１号土壙墓検出状況
C区第１号土壙墓遺物出土状態
C区第１号土壙墓遺物出土状態
図版122 C区第１号火葬墓
C区第２号火葬墓
C区第１号敷石遺構
図版123 C区第５号土壙
C区第19号土壙
C区第22号土壙
C区第30号土壙
C区第38号土壙
C区第44号土壙
C区第45号土壙
C区第48号土壙
図版124 C区第63号土壙
C区第64号土壙
C区第69・70号土壙
C区第77号土壙
C区第79号土壙
C区第83号土壙
C区第92号土壙
C区第98・99号土壙
図版125 C区第１号井戸跡礫出土状態
C区第４号井戸跡
C区第４号井戸跡遺物出土状態
C区第８号井戸跡
C区第９号井戸跡
C区第10号井戸跡遺物出土状態
C区第12号井戸跡
C区第13号井戸跡
図版126 C区第17・18号井戸跡
C区第18号井戸跡遺物出土状態
C区第19号井戸跡
C区第20号井戸跡
C区第20号井戸跡遺物出土状態
C区第21号井戸跡
C区第23号井戸跡
C区第23号井戸跡礫出土状態
図版127 C区第23号井戸跡断面
C区第24号井戸跡
C区第29号井戸跡
C区第30号井戸跡
C区第31号井戸跡
C区第１号溝跡
C区第２号溝跡
C区第31号溝跡
図版128 C区第３・４・６号住居跡出土遺物
図版129 C区第６～９号住居跡出土遺物
図版130 C区第９・10・12・15・20号住居跡
出土遺物
図版131 C区第20・21・23号住居跡出土遺物
図版132 C区第23・24・27・29～31・34号住居跡

出土遺物
図版133 C区第35・36・38号住居跡出土遺物
図版134 C区第38・41・45・49・51号住居跡出土遺物
図版135 C区第51・52・54・58・61号住居跡出土遺物
図版136 C区第61・64・65号住居跡出土遺物
図版137 C区第66・68・70号住居跡出土遺物
図版138 C区第70・71号住居跡出土遺物
図版139 C区第72号住居跡出土遺物
図版140 C区第72・75・76・78号住居跡出土遺物
図版141 C区第78・80・84～87号住居跡出土遺物
図版142 C区第1号方形周溝墓出土遺物
図版143 C区第1号方形周溝墓出土遺物
図版144 C区第1・2号方形周溝墓出土遺物
図版145 C区第5号方形周溝墓出土遺物
図版146 C区第5号方形周溝墓出土遺物
図版147 C区第7号方形周溝墓出土遺物
図版148 C区第7～9号方形周溝墓出土遺物
図版149 C区第9・10号方形周溝墓出土遺物
図版150 C区第10～12号方形周溝墓出土遺物
図版151 C区第12・17号方形周溝墓出土遺物
図版152 C区第17号方形周溝墓、第2・5・15号井戸跡出土遺物
図版153 C区第10・17・21・22号井戸跡、第28・62・63号土壙出土遺物
図版154 C区第63・71・77号土壙出土遺物、ピット・グリッド出土遺物
図版155 C区表採・瓦・中世陶器・横櫛・玉類・紡錘車
図版156 C区出土板碑
図版157 B・C区出土鉄鎌・刀子・刀子柄・U字形鋤先・帯金具
図版158 C区第1号土壙墓出土鉄剣・兵庫鎖

Ⅰ　発掘調査の概要

1　発掘調査に至る経過

首都圏における人口増加の波は著しく、全国の三分の一の人口が集中している。埼玉県ではそれに対応するため、住宅・都市整備公団を中心に住宅政策及び地域環境整備計画が進められている。坂戸市入西(西部)地区については、住宅・都市整備公団により区画整理方式による宅地開発事業が計画された。

住宅・都市整備公団では文化庁との間で取り交わされた『住宅・都市整備公団の事業施行に伴う埋蔵文化財包蔵地の取り扱いに関する覚書』に基づき、埼玉県教育委員会へ「坂戸市入西(西部)地区における埋蔵文化財の取り扱いについて」照会した。

県教育委員会では、埋蔵文化財遺跡地名表等に基づき、昭和56年1月20日付け教文第918号をもって次のとおり回答した。

記

1．文化財の所在

名　　称	所 在 地	種 別	時　　期
坂戸市 No.99	坂戸市大字堀込	古　墳	古墳時代後期
柊 塚 古 墳	字桑原157		

上記の他に条里遺跡及び畑地部分に集落遺跡の存在が予想される。

2．取り扱いについて

(1)　開発予定地内は事前の遺跡分布調査及び必要に応じて試掘調査を実施して、遺跡の所在を確認する必要がある。

(2)　上記の結果をもとに埋蔵文化財ができるだけ現状保存できる開発計画を策定することが望ましい。

(3)　計画上、やむを得ず現状変更する場合は、文化財保護法第57条3の規定により、事前に文化庁長官あて埋蔵文化財発掘通知を提出して、記録保存のための発掘調査を実施すること。

住宅・都市整備公団と県教育委員会では開発地域内に所在する遺跡の取り扱いについて協議を重ねた結果、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団に委託して昭和59年度から発掘調査を実施することに決定した。

文化財保護法に基づき、住宅・都市整備公団からは埋蔵文化財発掘通知、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団からは埋蔵文化財発掘調査届が文化庁長官へ提出され、稲荷前遺跡の発掘調査は昭和61年4月1日から平成元年3月31日まで実施された。

(文化財保護課)

2　発掘調査・報告書刊行事業の組織

主体者　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

(1) 発掘調査(昭和61～63年度)

理事長	長井五郎
副理事長	岩田　明(S61)
	百瀬陽二(S62・63)
常務理事 兼管理部長	町田勝義(S61)
常務理事 兼調査研究部長	早川智明(S62・63)
管理部	
管理部長	原田家次(S62・63)
主査	関野栄一
主事	江田和美
主事	岡野美智子
主事	福田　浩(S61・62)
主事	本庄朗人
主事	斉藤勝秀(S63)
調査研究部	
部長	中島利治(S61)
副部長	小川良祐(S61)
副部長	塩野　博(S62・63)
第二課長	駒宮史朗(S61)
第二課長	昼間孝次(S62・63)
主任調査員	小野義信(S62)
主任調査員	村田健二(S61・62)
主任調査員	中村倉司(S61)
主任調査員	昼間孝志(S61・62)
主任調査員	富田和夫(S63)
調査員	西口正純(S63)
調査員	細田　勝(S62)
調査員	黒坂禎二(S61)
調査員	大谷　徹(S61・62)

(2) 整理・報告書刊行事業(平成4・5年度)

理事長	荒井修二(H4)
理事長	荒井　桂(H5)
副理事長	早川智明(H4)
副理事長	富田真也(H5)
専務理事	横川好富(H5)
常務理事 兼管理部長	倉持悦夫(H4)
常務理事 兼管理部長	柴崎光生(H5)
理事兼 調査部長	栗原文蔵(H4)
理事兼 調査部長	中島利治(H5)
管理部	
庶務課長	萩原和夫
主査	贄田　清
主事	菊池　久
経理課長	関野栄一
主任	江田和美
主事	長滝美智子
主事	福田昭美
主事	腰塚雄二
資料部	
部長	中島利治(H4)
部長	小川良祐(H5)
副部長兼 資料整理第一課長	増田逸朗(H4)
副部長兼 資料整理第一課長	谷井　彪(H5)
主任調査員	富田和夫

3　発掘調査・報告書作成の経過

稲荷前遺跡の調査は昭和61年4月から平成元年3月31日までの3ヶ年にわたって実施された。調査対象面積は48,000㎡に及ぶ。遺跡内は谷地形により大きく4地点に分かれそれぞれA～D区と呼称した。A区は昭和61年度と昭和63年度に、B区は昭和61・62年度、C区は62年度、D区は61年度に調査を行なった(但し、D区は整理段階でA区に含めた)。調査は多年度に及び検出された遺構数も膨大であるため細かい経過は省略し、本書に関るB・C区の調査経過の概要を年度毎に記すこととにする。

発掘調査

昭和61年度　10月、B区の遺構確認に着手する。方形周溝墓と古代の住居跡が存在することが判明した。11月、B区西端部から調査を開始する。住居跡は奈良時代から平安時代のもので、遺存状

態はかなり悪い。周溝墓は冬場にも拘らず水が涌き、調査は難航した。第５号方形周溝墓は北側周溝の中央部をブリッジ状に掘り残し、前方後方形周溝墓の一種と考えることもできる特殊なタイプであった。３月までに住居跡20軒、方形周溝墓７基、溝跡５条、井戸跡５基等の調査を終了した。

昭和62年度　４月、調査員を５名に増強して、Ｂ区・Ｃ区の調査を平行して進めた。Ｂ区では方形周溝墓が16基、住居跡が80軒を超えることが確認され、急ピッチで調査を進めた。本年度調査された周溝墓は遺存状態の悪いものが多く、出土遺物も比較的少なかった。住居跡は新たに古墳時代前期のものも確認された。調査区中央部から東寄りにかけて激しく重複した状態で検出され、新旧関係の確認が難しいものもかなり存在した。Ｃ区では方形周溝墓が19基と80軒を超える住居跡、中世の堀等多数の遺構が確認された。周溝墓は大型のものが多いうえに湧水が激しく、調査は難渋した。第１号土壙墓からは鉄剣が出土し、方形周溝墓との関連の有無についても慎重に調査を進めた。９月までに住居跡50軒、周溝墓16基他の調査を終了した。11月、調査がある程度進展したため一般市民を対象にした現地説明会を開催した。当日は300名を超える多数の人々が来跡し、調査員の説明に熱心に耳を傾けていた。３月までにＢ区では住居跡89軒、方形周溝墓16基等、Ｃ区では住居跡87軒、方形周溝墓19基を始め、多数の遺構の調査を終了した。

整理・報告書作成事業

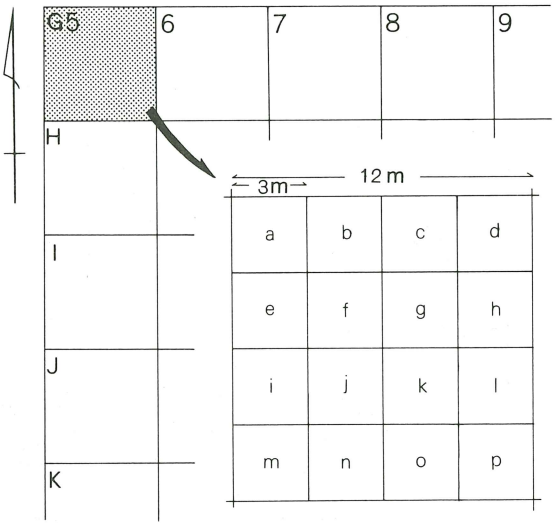
平成４年度　稲荷前遺跡Ｂ・Ｃ区の整理に着手。４月から10月、遺物接合と図面整理、遺物実測を並行して進める。11月以降、遺物復元・遺物実測・トレース、各遺構図の作成と仮版組、トレースを開始する。

平成５年度　５月～８月各遺構図の作成と遺物実測終了。版組を開始する。９月～１月、遺物版組と遺構原稿の執筆を行なう。２～３月、遺物写真撮影と割付け・編集作業。

平成６年度　６月印刷業者決定。７～10月校正・報告書の刊行。

4　発掘調査の方法

発掘調査はＡ・Ｂ・Ｃ区と各地区単位に行なったため、遺構番号は地点毎に附した。また地点の呼称方法は遺跡全体を包含する12ｍグリッドを切り、北西隅を起点に南北にＡ・Ｂ・Ｃ…、東西に１・２・３…とし交差する位置を、例えばＧ－５区と呼称した。12ｍ方眼内の分割は３ｍ×３ｍを小区画としａ・ｂ・ｃ…と表わした。遺物の取り上げ方法は基本的に遺構単位とした。可能な限りドット処理を行い、水平位置、および垂直位置を数値で残す方向で進めた。



第１図　グリッドの名称と分割

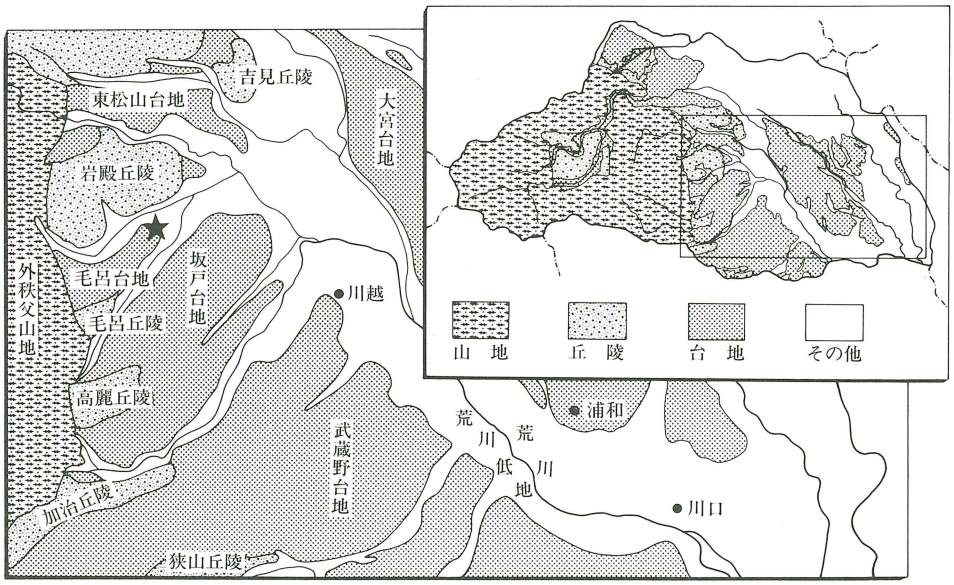
II　立地と環境

立地

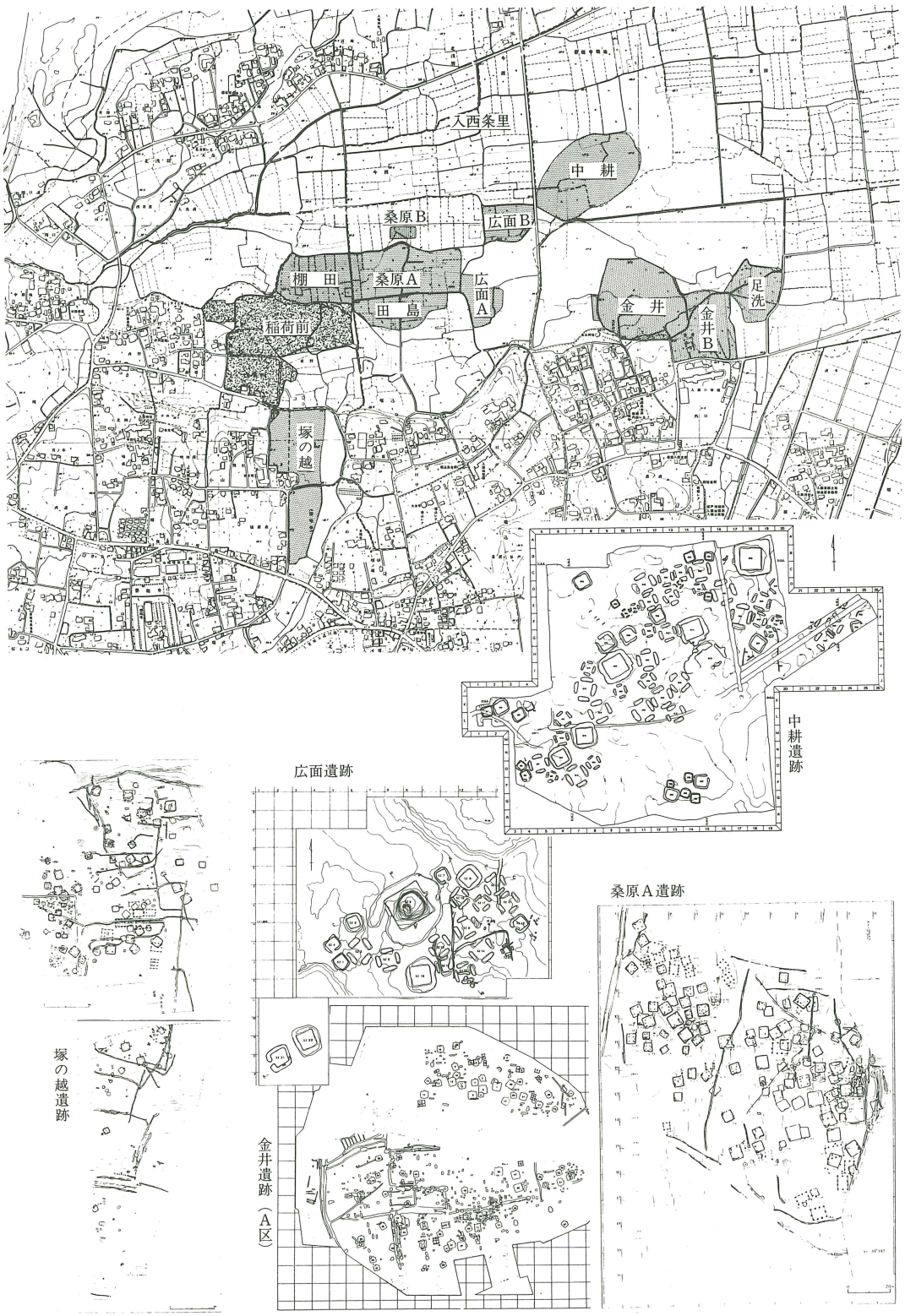
稲荷前遺跡は埼玉県坂戸市大字竹之内に所在する。位置的には東武東上線北坂戸駅の西約３㎞、越辺川を臨む毛呂台地の北東部先端の低台地上に立地し、標高約31ｍを測る。遺跡北側には越辺川によって形成された後背湿地(沖積地)が広がり、肥沃な水田地帯を形成している。水田面との比高差は1.0～1.5ｍ程である。遺跡の立地する毛呂台地は広義の入間台地に含まれ西側は毛呂山丘陵を経て外秩父山地に続き、北側は越辺川を挟んで岩殿丘陵と対峙する。東側と南側は高麗川に画されそれぞれ坂戸台地、入間台地に移行する。この毛呂台地は越辺川、高麗川を始め、台地内を貫流する葛川等の中小河川とその支流の侵蝕を受け、起伏に富んだ複雑な地形を形成している。一方、高麗川以東の坂戸台地は毛呂台地と対照的に比較的平坦な扇状地性地形が広がり、勝呂廃寺、若葉台遺跡はこの台地上に形成されている。毛呂台地と坂戸台地を取り巻くように広がる広大な沖積地は越辺川とその支流たる高麗川・葛川・飯盛川等の小河川により形成されたもので、本遺跡も含めた越辺川右岸に形成された遺跡群成立の母胎であると言えよう。

周辺遺跡の概観

先ず、坂戸入西地区土地区画整理事業地内に位置する遺跡群の様相を概観しておきたい。当事業地内は越辺川中流域右岸にあたり、稲荷前遺跡の他に塚の越遺跡、棚田遺跡、田島遺跡、桑原遺跡(Ａ・Ｂ区)、広面Ａ遺跡、広面Ｂ遺跡、中耕遺跡、金井遺跡(Ａ・Ｂ区)、足洗遺跡が所在する。稲荷前遺跡は古墳時代前期の周溝墓群と古墳時代後期～平安時代の集落、塚の越遺跡は前方後円墳と古墳時代後期～平安時代の集落、棚田遺跡は古墳時代後期初頭の集落、田島遺跡は古墳時代後期～平安時代の集落、桑原Ａ遺跡は古墳時代後期初頭の集落と平安時代の集落、桑原Ｂ遺跡は古墳時代後



第２図　埼玉県の地形区分



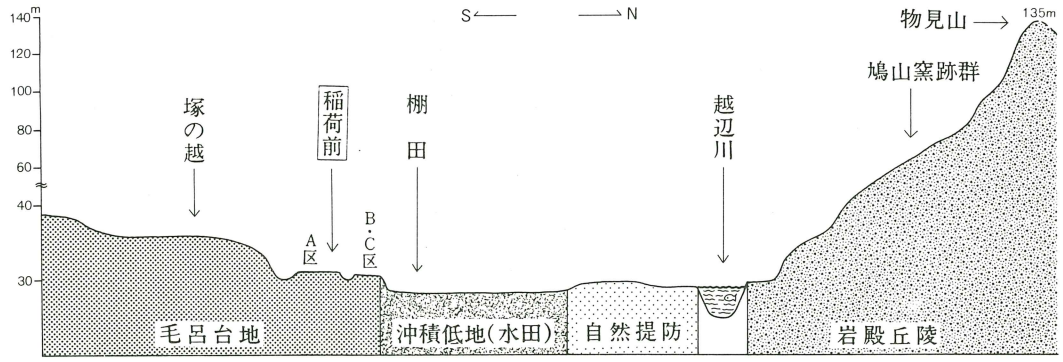
第3図　事業地内の遺跡分布

期と推定される水田状遺構、広面遺跡は弥生時代終末期～古墳時代初頭の周溝墓群、中耕遺跡は同時期の集落と周溝墓群、金井遺跡は古墳時代後期～奈良時代の集落、金井遺跡Ｂ区は古墳時代後期～平安時代の集落と中世の鋳造遺跡、足洗遺跡は古墳時代後期～平安時代の集落である。

これらの遺跡群は立地面から大きく４つに分けられ、稲荷前遺跡よりも一段高い高燥な台地上に位置する塚の越・金井遺跡Ｂ区、沖積低地に面した低台地上に立地する稲荷前・田島・桑原・金井遺跡Ａ区・足洗遺跡、沖積面下に埋没したローム台地上に立地する広面・中耕遺跡、水田下の沖積地に立地する棚田遺跡である。こうした立地上の差異は遺跡形成の時期的な相違をも微妙に反映していることが次第に解ってきた。すなわち、最も低位な現水田下に位置する棚田・中耕・広面Ｂ遺跡には７世紀以降集落は形成されず、沖積地に面した稲荷前・桑原Ａ・金井Ｂ・足洗・田島・塚の越遺跡といった台地部に集落域が限定される傾向が認められる。恐らく、古墳時代後期を画期とするこうした集落の高位面への移動という背景には第一義的には河川の氾濫による堆積作用が挙げられるが、それとともに可耕地の拡大を意図した積極的な水田開発があったものと推測される。現に桑原遺跡北側の沖積面には７世紀頃と推定される水田状遺構が検出され(桑原Ｂ遺跡)、６世紀前半代と推定される棚田遺跡の消滅後、さほどの期間を経ないで水田化された状況を読み取ることができる。棚田・桑原Ｂ両遺跡はこの地に形成されたとされる「入西条里」水田推定域内の一角に位置し、入西条里の施行時期を検討する際の貴重な情報を提供しているといえる。入西条里の施工時期を巡る問題はひとまず置くにしても、稲荷前遺跡が古墳時代後期～平安時代まで連綿と継続し得た背景には、条里推定地内の水田経営を想定せざるを得ないであろう。

さて、周辺地域を含めた歴史的環境に目を転じてみよう。各時代の主な遺跡や歴史的環境に関しては既に「金井遺跡」(昼間1989)、「広面遺跡」(村田1990)、「塚の越遺跡」(昼間1991)、「中耕遺跡」(杉崎1993)の各報告書によって網羅的に詳述されており、また稲荷前遺跡Ａ区の報告の中でも古代入間・高麗郡の遺跡様相に関して概観した(富田1992)。本稿では稲荷前遺跡Ｂ・Ｃ区の存続期間である古墳時代前期と古墳時代後期(鬼高期)～奈良・平安時代の遺跡様相について概括するに留めたい。

弥生時代終末～古墳時代前期に関る遺跡は入西遺跡群のなかでは中耕遺跡、広面遺跡がある。坂戸市内では長岡遺跡(住居跡11軒)、勇福寺遺跡(方形周溝墓５基)、附島遺跡(方形周溝墓２基)、木



第４図　地形断面模式図

鳩山窯跡群
稲荷前
小用廃寺
勝呂廃寺
若葉台
出雲伊波比神社
太寺廃寺
霞ヶ関
上組
高麗神社
高岡廃寺
女影廃寺
宮ノ越
城ノ越
小山ノ上
揚植木
張摩久保
八幡宿
宮地
広瀬神社
東金子窯跡群

第5図　周辺の遺跡分布

曽免遺跡(住居跡５軒)が本遺跡と同様に越辺川右岸の沖積地に面した低台地先端部に形成されている。また、越辺川支流の高麗川右岸には宮裏遺跡(住居跡11軒・周溝墓９基以上)、谷治川左岸には石井前原遺跡(住居跡６軒)が存在し、台地先端からは奥まった位置に占地する。坂戸台地南部の大谷川南岸には上谷遺跡、金山遺跡、北岸には高窪遺跡(住居跡８軒)、小畔川流域には登戸遺跡、霞ヶ関遺跡が存在する。何れも台地先端部付近に立地している。また、弥生時代終末段階の遺跡には坂戸市新しき村遺跡で吉ヶ谷式土器、川越市鶴ヶ丘遺跡では前野町式土器と吉ヶ谷系土器が検出され、吉ヶ谷文化圏と南関東文化圏の錯綜した状況が窺える。

附島遺跡、勇福寺遺跡、宮裏遺跡では方形周溝墓が検出されているが、当地域の伝統的な形態である四隅切れタイプのものは影を潜め、全周形系統に変化している。器種組成をみると、小形器台、小形坩、東海系の高坏、いわゆる二重口縁壺など非在地系土器群が器種組成に参画すること、また煮沸形態として南関東系の台付甕が一般化するなど墓制から器種組成、あるいは住居形態に至るまで弥生時代的様相が大きく変化した段階といえる。入間北部から比企郡にかけて主体的に分布した弥生時代後期の吉ヶ谷式土器はほとんど消滅している。

越辺川左岸の比企丘陵では、五領式土器のタイプサイトである五領遺跡が挙げられる。畿内・北陸・東海各地域の強い影響を受けた土器群が見られ、本地域の中核的集落と考えられる。番清水遺跡では大型方形周溝墓が単独で検出されている。下道添遺跡は弥生時代終末段階～古墳時代初頭の集落と前方後方形周溝墓を含む周溝墓が13基検出された。また、高坂丘陵では吉ヶ谷式土器に台付甕や小形器台を伴った根平遺跡、前野町式的な装飾壺をもつ桜山遺跡、吉ヶ谷式土器を主体とする住居と前野町式土器を主体とする住居の双方が存在する代正寺・大西遺跡など遺跡様相は様々で、弥生時代から古墳時代に転換する段階の複雑な様相を凝縮しているかのようである。

次に古墳時代後期以降の遺跡分布を概観すると、古代入間郡及び高麗郡域には中核となる集落群が幾つか抽出される。例えばＡ稲荷前遺跡周辺、Ｂ勝呂廃寺周辺、Ｃ若葉台・山田・脚折遺跡群、Ｄ霞ヶ関・河越館跡内遺跡、Ｅ日高市若宮遺跡周辺、Ｆ飯能市張摩久保遺跡周辺、Ｇ狭山市宮の越遺跡から宮地遺跡までの集落群、Ｈ揚櫨木遺跡周辺、Ｉ東の上遺跡周辺、Ｊ荒川右岸地域の富士見市、上福岡市周辺地域である。

これらの集落群の時期的消長を大摑みにみると、Ａ・Ｂの地域は７世紀以降10世紀に至るまで遺跡がほぼ継続する長期継続型の集落群である。その背景には越辺川右岸の広大な可耕地の存在が大きく、それを生産基盤とした相対的に安定した集落群といえる。特にＢの地域では７世紀後半段階で勝呂廃寺を造立し得た有力な勢力が成長していたことが窺え、入間郡内でも屈指の遺跡群といえよう。

Ｄ・Ｉ・Ｊの地域は７世紀代から集落形成はなされるが、集落規模や集落数が増加するのは８世紀以降のようである。対してＣ・Ｅ・Ｆ・Ｇの地域は古墳時代後期の遺跡がほとんどないか、あっても一定の断絶期間を挟んで８世紀前半頃新たに集落が形成されたと推定される。若葉台を中核とするＣの遺跡群は可耕地からもかなり隔たった内陸部に位置すること、和同開珍や奈良三彩、最近では漆紙文書が発見されるなど、直接生産に携わった集落というよりも、別の目的をもって政治的に成立せしめられた遺跡の可能性があろう。Ｅの遺跡群に抱摂される光山遺跡群では集落の形成時

期が７世紀中葉前後まで遡ることが明らかとなった。以後８世紀後半段階まで集落は連続するようである(註１)。この遺跡群は高麗建郡との関りのなかで捉えられてきたが、光山遺跡群と同様なあり方が他の高麗郡推定地内の遺跡でも認められるのか、今後慎重に見極める必要がありそうである。逆にそれによって同遺跡群の位置付けも決まってくるものであろう。何れにせよ入間郡と高麗郡の遺跡様相を理解するに当たって鍵を握る遺跡の一つである。

一方坂戸市上谷遺跡や川越市上組Ⅰ・Ⅱ遺跡、越辺川の対岸にある舞台遺跡等のように古墳時代後期(６・７世紀)に営まれた大集落が律令期には断絶するか極端に勢力を弱めてしまう例もみられ、律令期形成段階の社会的変動の大きさを物語っている。先に摘出した集落群が古代入間郡・高麗郡を構成する郷の中心的な位置を占めていたことは疑いない。当然文献に記されている古代入間郡における郷名と遺跡群の対比という作業も射程に入るが、郡域が未確定な状況下では、比企郡域を含めた遺跡内容の吟味や土器様相の相互比較などまず検討すべき課題が山積している。

最近の調査で注目を集めた遺跡としては川越市八幡前・若宮遺跡がある。８世紀初頭前後の土師器皿に「驛長」と記された墨書が残されていた。所沢市東の上遺跡で確認された武蔵国府から上野に至る古代東山道武蔵路の推定ルート沿いにあたり、驛家との関連性が指摘されている。調査では関連する遺構は検出されていない。また、同遺跡から数百メートル隔てて位置する東下川原遺跡では、８世紀初頭を前後する段階の多量の土師器が集積した遺構が調査された。いわゆる土師窯及至、それに関連する施設の可能性があり、比企型坏衰退後の土師器生産を考える際に無視できない遺跡といえる(註２)。両遺跡は霞ヶ関遺跡とも至近距離にあり、相互に有機的な関係をもつものと考えられる。

須恵器窯跡は稲荷前遺跡対岸の比企丘陵を主要な舞台として、６世紀代から断続的に操業されている。７世紀代の窯跡は根平、小用、舞台遺跡で検出されているが、いずれも個性の強い土器群で系統的な連続性は追えないようである。８世紀になると南比企窯跡群の中核である鳩山窯跡群の生産が開始され、以後10世紀初頭前後まで安定的な生産体制が維持されたことが判明している。また、最近では国分寺瓦窯で知られる赤沼支群から７世紀代に遡る可能性をもつ須恵器窯(石田窯)が調査された。７世紀後半段階の立野遺跡、８世紀初頭頃の山下６号窯との関係を窺う資料としても注目される(註３)。周辺地区では坂戸台地南端の平谷窯跡が発見されているが、７世紀代の単独窯で継続的な操業は行われなかったものと推定される。

また、鳩山窯跡群の工人集落では小鍛冶遺構が発見され、須恵器工人が鉄生産にも関与していた可能性が指摘されている。鉄生産に関して言えば、最近大井町東台遺跡から８世紀代に遡る製鉄遺跡が発見された。調査によって炭焼き窯を伴う製錬炉が数基発掘され大規模な生産体制であったことが判明した。入間郡内の製鉄遺跡としては最初の例であるばかりか、県内の製鉄遺跡としても最古段階に位置付けられるもので注目される遺跡である。

註１　昨年度当事業団で整理を実施した。

註２　鶴ヶ島市遺跡調査会で整理中。早川由利子女史のご厚意で実見させていただいた。

註３　渡辺 一氏のご教示による。

第5図　掲載遺跡一覧

1	稲荷前	28	出雲伊波比神社	54	登戸	82	西原古墳群
2	塚の越	29	越生五領	55	河越館跡内・龍光他	83	青塚古墳
3	棚田	30	新しき村	56	霞ヶ関	84	附川
4	桑原	31	花影	57	八幡前・若宮	85	鳩山窯跡群
5	田島	32	芦山	58	東下川原	86	沢口
6	広面B	33	相撲場	59	鶴ヶ丘	87	岩鼻
7	広面A	34	金内山	60	上組Ⅰ・Ⅱ	88	観音寺
8	中耕	35	新山古墳群	61	登野山	89	かぶと塚古墳
9	金井A	36	山田	62	光山	90	山の根古墳
10	金井B	37	若葉台	63	新宿	91	五領
11	足洗	38	宮裏	64	女影廃寺・若宮	92	番清水
12	北浦西峰(古墳群)	39	勇福寺	65	大寺廃寺	93	山王裏・中原
13	長岡	40	勝呂廃寺・勝呂遺跡群	66	高岡廃寺	94	野本将軍塚古墳
14	稲荷森	41	石井前原	67	張摩久保	95	下道添
15	三福寺古墳群	42	附島	68	旭原	96	古凍・根岸裏
16	善能寺古墳群	43	明泉	69	宮ノ越	97	根岸稲荷神社古墳
17	苦林古墳群	44	青木堀ノ内	70	城ノ越	98	諏訪山古墳群
18	大河原遺跡(古墳群)	45	住吉中学校	71	小山ノ上	99	代正寺・大西
19	成願寺古墳群・若宮遺跡	46	宮町	72	今宿	100	舞台
20	神明台	47	清進場	73	宮地	101	桜山
21	明神台	48	駒方	74	東金子窯跡群	102	根平
22	川角古墳群	49	小沼堀ノ内・牛塚山古墳群	75	仙波	103	緑山
23	西戸古墳群	50	木曽免	76	南大塚古墳群	104	駒堀
24	西戸丸山窯跡	51	丸山	77	揚櫨木	105	立野
25	小用窯跡	52	高窪	78	滝・祇園	106	脚折遺跡群
26	小用廃寺	53	上谷・金山	79	稲荷山公園古墳群	107	羽折
27	伴六			80	寺谷		
				81	羽尾		

III　遺跡の概観

稲荷前遺跡は入西遺跡群の西端に位置する。調査区は東西500ｍ、南北250ｍの広がりをもち調査面積は48,000㎡に及ぶ。遺跡は西側の調査区域外にも連続し、竹之内の集落を経ておそらく谷を隔てた長岡遺跡と隣接するものと推定される。地形的には北側に広がる沖積低地に面した低ローム台地先端に位置し、南側は塚の越遺跡、東側は田島遺跡・桑原遺跡、北側は棚田遺跡が隣接する。

調査区は浅い谷状地形によりＡ～Ｃ区に区分される。遺跡全体にわたって古墳時代後期から奈良・平安時代の集落と中世遺構が全面に展開する他、Ｂ・Ｃ区では古墳時代前期の集落と方形周溝墓群が帯状に累々と営まれていた。検出された遺構の内訳は以下のとおりである。

Ａ区　竪穴住居跡135軒、掘立柱建物跡52棟、井戸跡46基、溝跡39条、土壙296基、ピット756基、竪穴状遺構５基、小鍛冶遺構１基、火葬墓１基

Ｂ区　竪穴住居跡89軒、掘立柱建物跡６棟、井戸跡14基、溝跡12条、土壙59基、方形周溝墓16基、火葬墓２基、ピット群

Ｃ区　竪穴住居跡87軒、掘立柱建物跡11棟、井戸跡30基、溝跡30条、土壙115基、方形周溝墓19基、竪穴状遺構５基、敷石遺構２基、土壙墓１基、火葬墓２基、ピット群

このほかＢ区とＣ区を分かつ谷部には須恵器を多量に含む包含層が形成されていた（扱いはＢ区包含層とした）。合計すると竪穴住居跡311軒、掘立柱建物跡69棟、井戸跡90基、溝跡81条、土壙470基、方形周溝墓35基、土壙墓１基、火葬墓５基、竪穴状遺構10基、小鍛冶遺構１基、敷石遺構２基のほか、多数のピット群と遺物包含層が検出されたことになる。

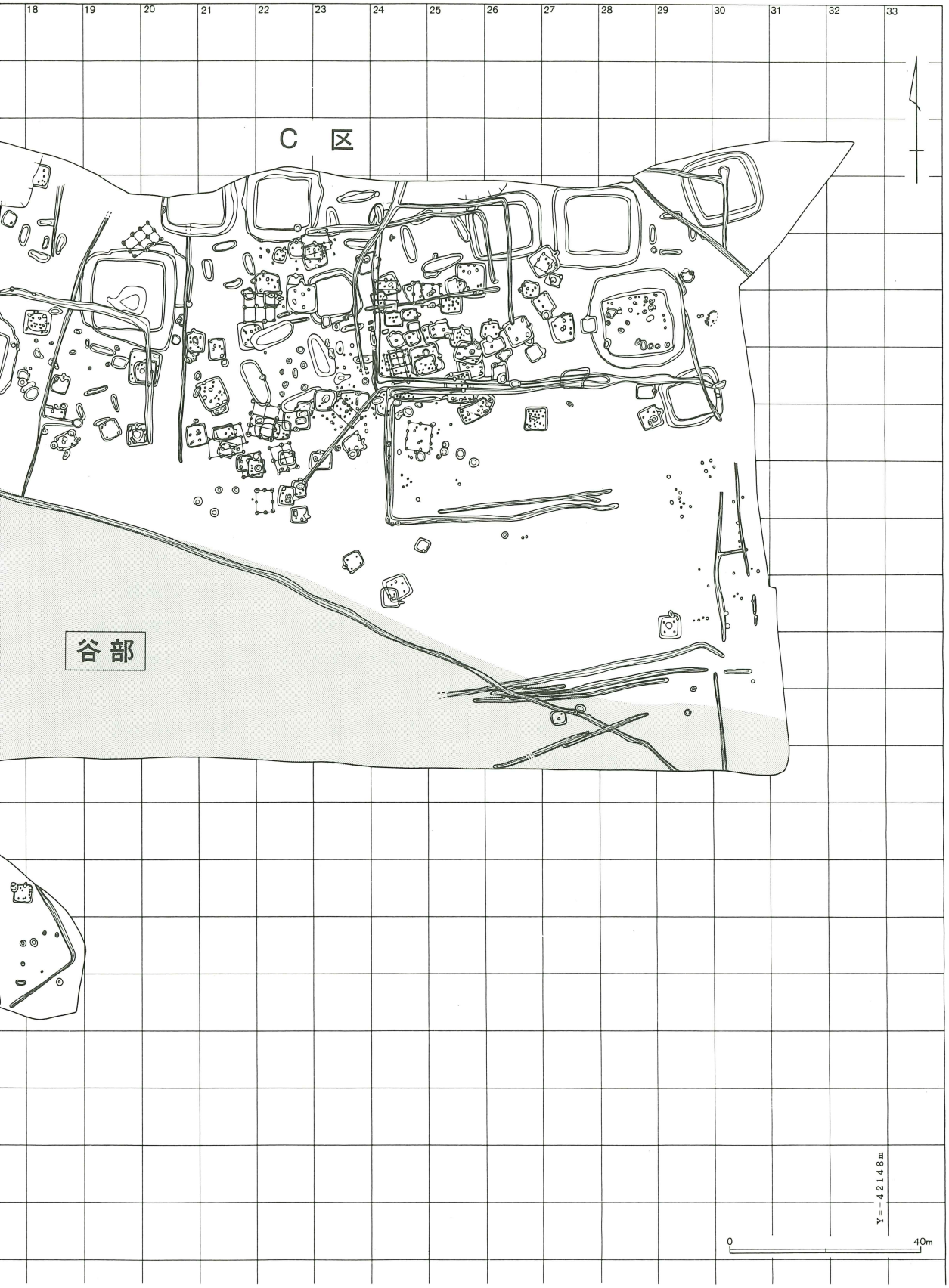
Ａ区は調査区南西部にあたり、７世紀中葉から10世紀初頭頃までに営まれた135軒の住居跡ほかが検出された。第１号住居跡からは円面硯が１点、第１号井戸跡からは２点の墨書土器が発見された。墨書土器のうち１点は須恵器蓋で「多磨郡男川」、「□（大カ）里郡」、「□尺本」等と記されている。他の１点は須恵器坏の底部に「多カ」と記されている。武蔵国の郡名が複数記載されており注目に値する資料といえよう。

掘立柱建物跡は52棟検出された。出土遺物から７世紀代と推定されるものも発見された（ＳＢ14・15）。また８・９世紀代の建物も特に第Ⅰ・Ⅱ群では配置にかなり規格性が認められる例、３×３間の総柱建物の周囲に３面乃至４面の庇を設けた大規模な建物が検出されている。その他、中世と推定される建物群も併存するため時期的な弁別作業は困難なものも多く認められた。

出土遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、青磁、瀬戸美濃系陶器、在地産陶器、瓦類、鉄器、青銅器、木製品、石製品、瓦塔、土製品等が検出された。

Ｂ区は調査区北西部にあたる。東西に入り込む浅い谷によりＡ区と区画され、南北に抜けるやや深い谷によりＣ区と区分される。調査区北側は未調査区の墓地を介して沖積地と接する。標高は約30～31ｍ。古墳時代前期の遺構は住居跡４軒、方形周溝墓16基が検出された。周溝墓は調査区でも北側の台地縁辺部に帯状に構築され、第５号周溝墓は北溝中央部に陸橋部が残されていた。四隅切れの周溝墓が少なく、全周形系統のそれが主体となる。集落は周溝墓と直接切り合うことはなく、台地内陸部に立地する傾向が認められる。

第6図



稲荷前遺跡全測図(1/1200)

古墳時代後期～平安時代の住居跡は85軒検出された。６世紀前半頃の住居跡が１軒、その後断絶期間を経て、６世紀末～７世紀初頭に再び集落域となる。以後10世紀代に至るまでほぼ継続して集落が営まれていた。集落は調査区のほぼ全面に展開するが、中央から東側にかけて激しく重複していた。掘立柱建物跡もそれに加わり、遺構の把握はかなり困難な状況であった。

出土遺物は土師器、須恵器を主体とする。特筆されるものとしては小形瓦が挙げられる。稲荷前タイプとして設定できるもので、通常の瓦に比して小形である。瓦当文様も特殊で類例がないものである。出土数は100点を超え、おそらく調査区内またはその周辺部に瓦葺きの建物が存在したものと推定される。

中世の遺構は溝・井戸などが検出され、凡そ13～15世紀にかけて集落域として使用されたものと考えられる。特に西域の第３号溝周辺は屋敷の区画溝の可能性がある。

Ｃ区は調査区北東部にあたり、北側に棚田遺跡、東側に田島遺跡が隣接する。標高は29～30ｍである。基本的な遺跡様相はＢ区と同様であり、古墳時代前期の集落と周溝墓群、古墳時代後期から平安時代の集落、そして中世の遺構群によって構成されている。周溝墓はＢ区同様、北側の台地縁辺部を中心に展開していた。Ｂ区に比べると四隅切れ周溝墓が相対的に多い点が指摘できる。ほぼ同時期の集落は15軒検出された。一部は周溝墓とも切り合い、調査の結果、住居跡の方が古いことが確認された。基本的には集落域から墓域に転化したものと捉えられるが全ての住居が周溝墓よりも古い段階に留まるかどうかは検討を要する事項である。また、土壙墓からほぼ完形の鉄剣が一振出土した。長剣に分類されるもので、出土状態から土壙墓に伴う副葬品と考えられる。時期を特定することは難しいが、おそらく５世紀代のものと推定される。

古墳時代後期～平安時代の住居跡は73軒検出された。調査区の全域に営まれ、重複する例も多い。特に羽釜を伴う住居跡と思われる遺構が検出されたことは集落の下限を示す新たな知見である。

中世の遺構は井戸跡と溝跡が主なものである。溝跡には大きく３つの区画溝が認められ、屋敷を区画する堀的な機能を果たしたものと推定される。井戸跡からは鎌倉時代末期から室町時代にかけての青磁、瀬戸美濃系陶器、常滑焼の甕、在地産の軟質陶器類の他、板碑片、石臼などが検出された。該期の建物は６棟確認された。いずれも屋敷推定地外にあり時期的な相違があるのかもしれない。

稲荷前遺跡B区

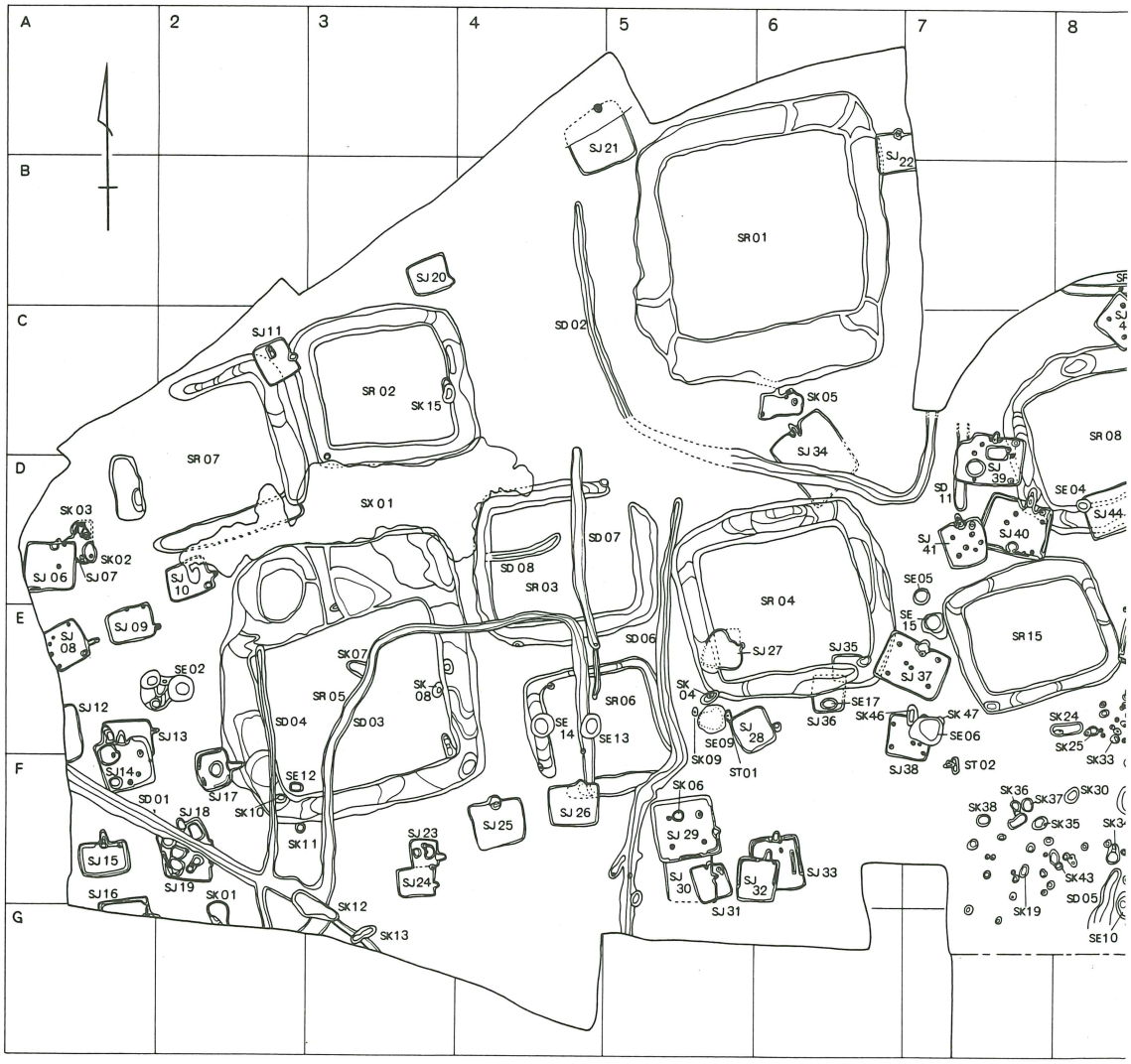
B区　方形周溝墓群

Ⅳ　B区の遺構と遺物

1　B区の概観

B区で検出された遺構は古墳時代前期の住居跡４軒、方形周溝墓16基、土壙２基、古墳時代後期～平安時代の住居跡85軒、掘立柱建物跡９棟、井戸跡５基、土壙32基、中世以降の遺構としては掘立柱建物跡６棟、井戸跡12基、土壙11基、溝跡15条がある。

古墳時代前期の周溝墓は調査区北側の台地縁辺部に分布している。四隅切れと思われるものが１基、その他は全周形または一部に陸橋を有するタイプである。特に第５号方形周溝墓は北溝中央に幅の狭い陸橋部が形成されており、前方後方形周溝墓の亜型とも捉えられるものである。周溝墓数に比して住居跡は少なく４軒に留まる。周溝墓との直接的な切り合い関係はなく、台地縁辺から奥



第７図　B区全測図(1/600)

部に立地する。

古墳時代後期～平安時代の住居跡は調査区全域に広がっているが、特に台地中央部の平坦地に集中して構築されていた。６世紀初頭前後の住居跡が１軒検出されたほかは、６世紀末以降の住居跡群で10世紀初頭前後まで継続する。掘立柱建物跡は９棟検出され、第２号掘立柱建物跡は５×３間と大型である。また、Ｂ区からは小形の瓦が多量に検出され、周辺に瓦葺き建物が存在した可能性がある。出土状況から９世紀後半以前に機能していた可能性もある。また、Ｂ区東端の谷部には８世紀から９世紀代の須恵器を含む遺物包含層が形成されていた。

中・近世の遺構は溝跡、井戸跡、掘立柱建物跡などが検出された。溝跡のうち、調査区西側の第３号溝跡を中心とする一群は「コ」の字形に巡り、中世の屋敷地を区画する溝と推定される。その他、遺構そのものは検出されなかったが縄文時代の土器と石器、弥生時代の土器が少量検出された。

2　古墳時代前期の遺構と遺物

(1)　住居跡

第1号住居跡(第9図)

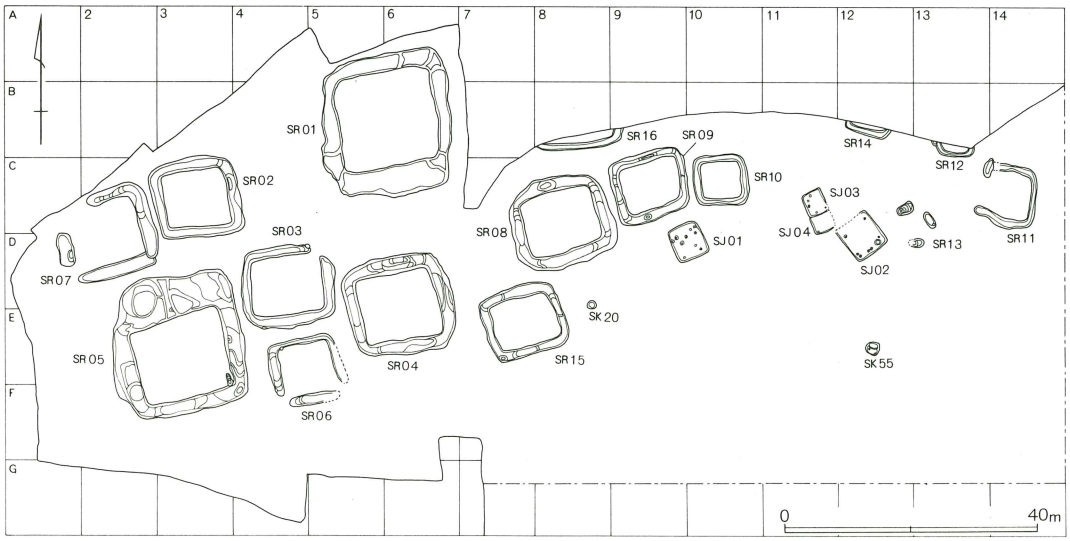
C・D-9・10区に位置し、北側に第9・10号方形周溝墓が近接する。第53号住居跡に南壁を切られているが、本住居の方が深いために規模は確定できる。形態は隅丸長方形を呈し、規模は長軸5.46m、短軸5.06m、深さ24cmを測る。主軸方位はN-22°-Wを示す。

床面はほぼ平坦である。火災により焼失した住居跡と考えられ、床面には炭化材片が散在し、覆土中層以下、特に第3層には焼土と炭化物が多く含まれていた。覆土上層には部分的に土層の乱れがあり(第6層)、住居埋没後に攪乱を受けた様相が窺える。

炉跡は住居中央やや北寄りに設けられる。形態は楕円形で、規模は長径54cm、短径34cmを測る。底面が皿状に凹む地床炉で、南側には棒状礫を2個配した炉石が埋設されていた。

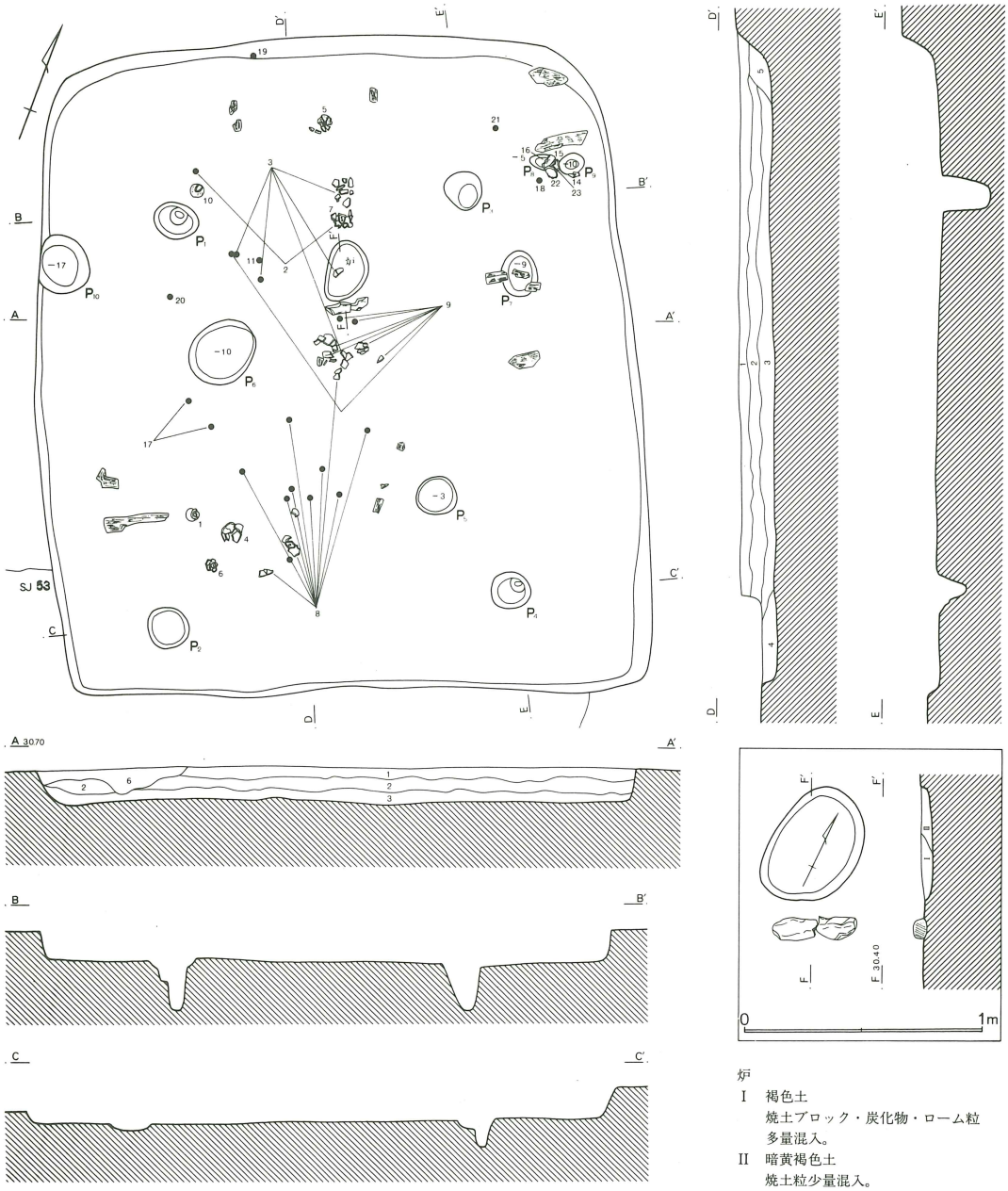
ピットは10本検出された。このうち、P_1～P_4が主柱穴に相当するものと考えたが、P_2・P_3は南壁に寄った位置にあり、深度が浅いことから疑問がないわけではない。P_5～P_7は伴う可能性があるが、何れも深度が浅いため柱穴としての機能には疑問符がつく。P_8～P_{10}については後世の掘り込みと考えられる。貯蔵穴、壁溝は確認されなかった。

出土遺物は少なく、壺、台付甕、高坏が床面、または覆土でも中層以下から出土した(第10図1～10)。ロクロ整形の土師質土器(第11図11)と瓦(12～23)は床から20cm前後浮いた位置から出土したものが多く、直接遺構に伴うものではない。一部床面の高さから出土しているが、P_8・P_9内に落ち込んだものと理解できる。瓦は総数17点出土しているが、散在的で特にまとまる様相はみられない。3点を除き特異な小形製品である。図示した以外に灰釉陶器の椀の胴部小片があるがやはり混入品である。



第8図　B区古墳時代前期の遺構配置図

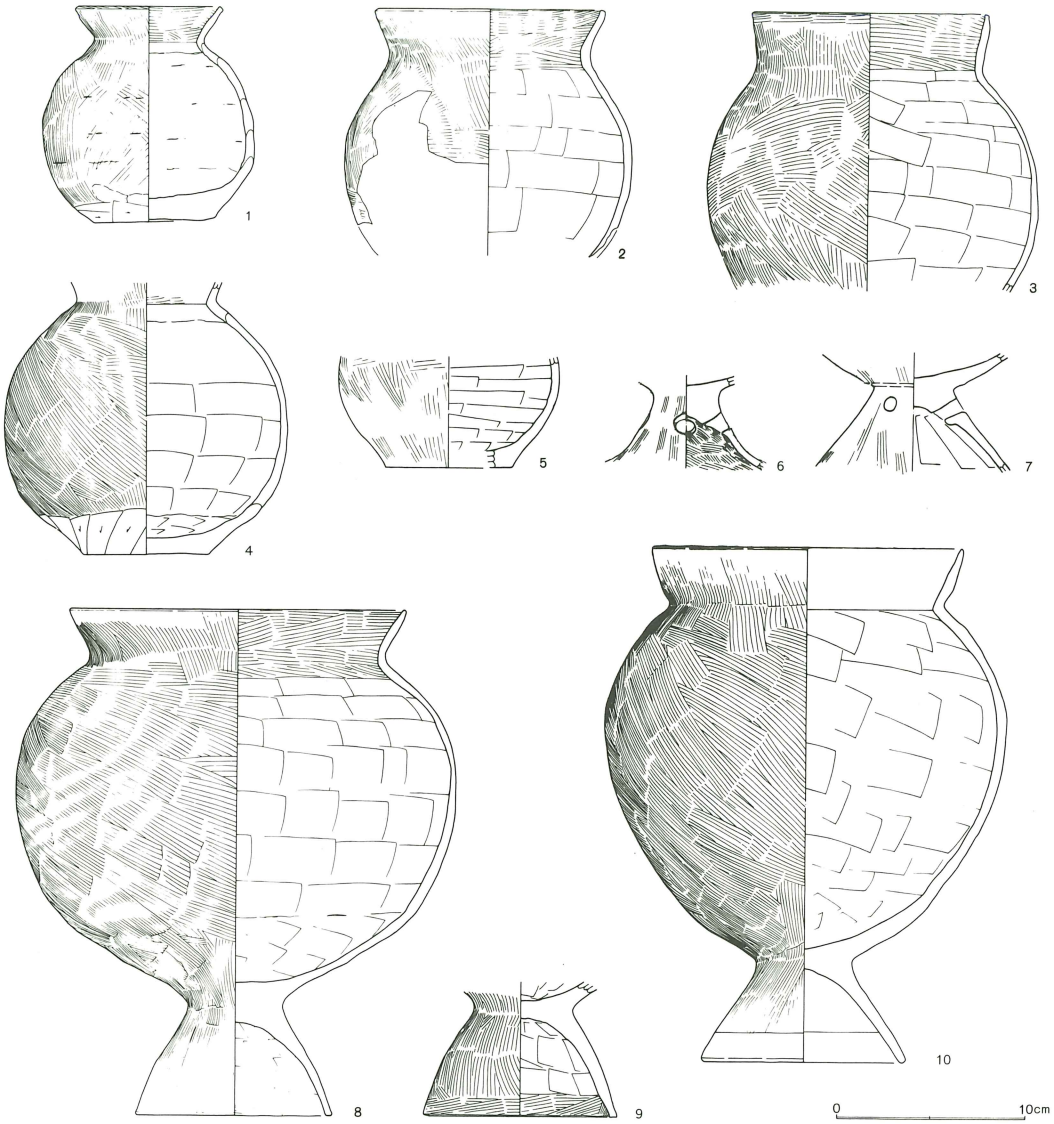
第10図１・４は外面刷毛目調整された小形壺で、胴部下端がヘラ削り。２・３はやや小形の台付甕か。口縁部は軽いナデ調整が加わる。６・７は高坏脚部。６は透穴４孔、７は３孔が穿たれる。７は坏部内面に赤彩されるが外面は不明である。８・９の台付甕口縁部外面には刷毛目後ナデ。



1　暗褐色土　ローム粒少量混入。
2　褐色土　ローム粒・焼土粒多量混入。
3　暗黄褐色土　ロームブロック・焼土粒・炭化物多量混入。
4　暗褐色土　ローム粒少量混入。
5　褐色土　ローム粒多量・焼土粒・炭化物少量混入。
6　暗褐色土　ローム粒焼土粒少量混入。

0　2m

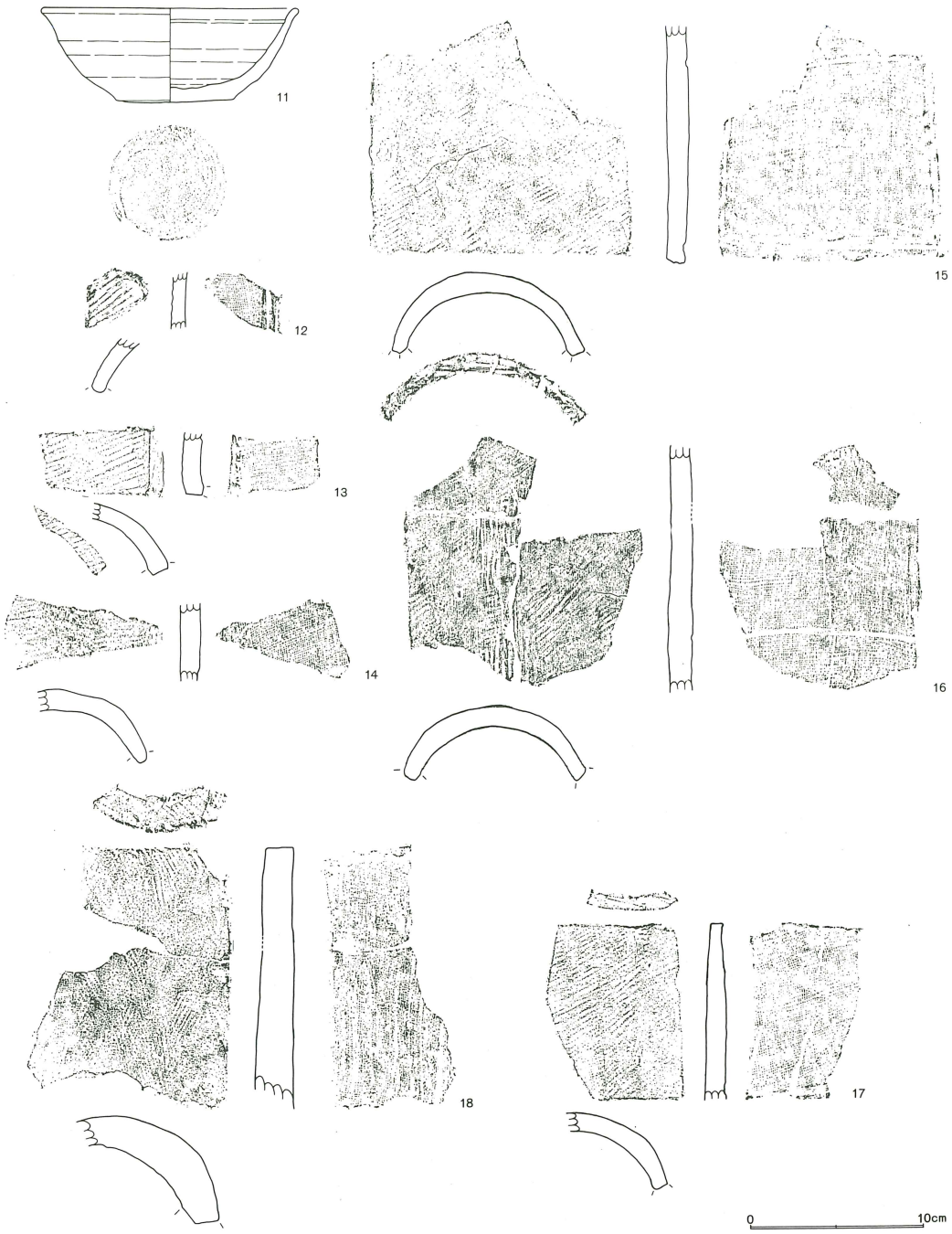
第９図　Ｂ区第１号住居跡



第10図　B区第１号住居跡出土遺物(１)

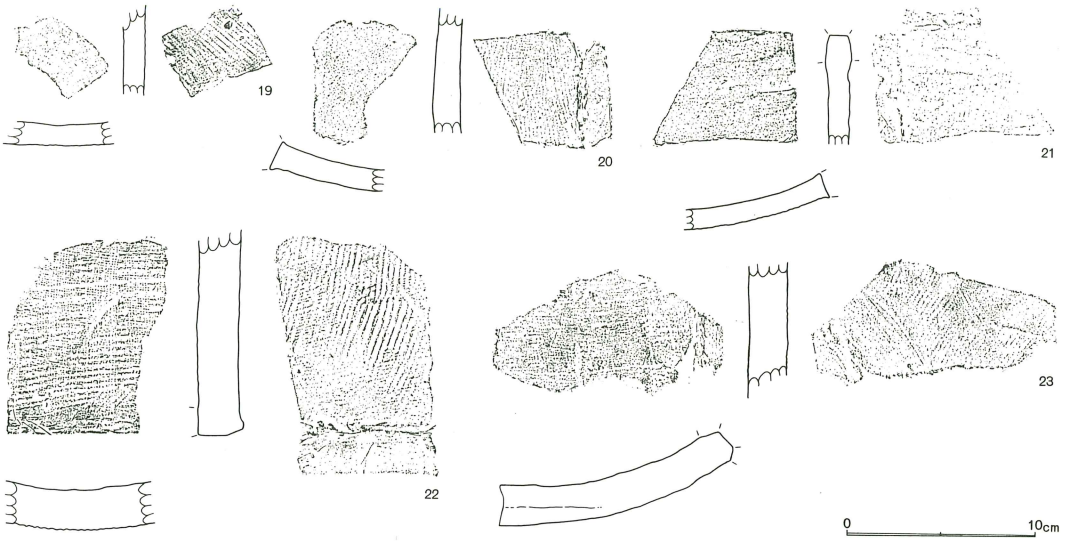
B区第１号住居跡出土遺物観察表(第10～12図)

番号	器　種	口　径	器高	底　径	胎　　土	焼成	色　調	残存	出土位置・その他
1	小形壺	7.4	11.3	6.4	ＡＢＣＥ	Ａ	にぶい黄橙	80%	No.62　覆土
2	台付甕	(11.8)	12.9		ＡＢ	Ａ	にぶい黄橙	35%	No.61,47　覆土(＋1～13cm)
3	台付甕	12.2	14.5		ＡＢＥ	Ａ	にぶい黄橙	80%	No.29,30　覆土(0～＋10cm)
4	小形壺		14.2	6.6	ＡＢＣＥ	Ａ	にぶい黄橙	60%	No.81　床面
5	小形壺		5.8	6.6	Ａ	Ａ	にぶい黄橙	55%	No.57　覆土(＋6cm)
6	高　坏		4.8		ＡＢＣ	Ａ	にぶい橙	80%	No.83　床面
7	高　坏		6.3		ＡＣ	Ａ	にぶい橙	60%	No.61　床面　赤彩
8	台付甕	17.5	26.5	10.2	ＡＢＣＥ	Ａ	にぶい橙	70%	No.82,100,105,109他　覆土(0～＋10cm)
9	台付甕	16.2	27.0	10.4	ＡＣＥ	Ａ	にぶい橙	60%	No.29,89,93,96,95他　覆土(＋1～10cm)
10	台付甕		7.0	9.6	ＡＢＣ	Ａ	にぶい橙	95%	No.62　床面
11	坏	14.5	5.4	6.8	ＡＣ	Ａ	灰褐	75%	No.28　覆土(＋20cm)



第11図　B区第１号住居跡出土遺物（２）

番号	器　種	口　径	器高	底　径	胎　　土	焼成	色　調	残存	出土位置・その他
12	丸　瓦				ＡＢＣ	Ａ	淡黄		覆土
13	丸　瓦				ＡＢＣ	Ａ	淡黄		覆土
14	丸　瓦				ＡＢＣ	Ａ	淡黄		No.51　床面
15	丸　瓦				ＡＢＣ	Ａ	にぶい黄橙		No.8　覆土（＋16cm）
16	丸　瓦				ＡＢＣ	Ａ	淡黄		SJ76-No.49床面とSJ78-No.79他覆土接合



第12図　B区第1号住居跡出土遺物(3)

番号	器　種	口　径	器高	底　径	胎　土	焼成	色　調	残存	出土位置・その他
17	丸　瓦				ABC	A	灰		No.32,33　覆土(+18～24cm)
18	丸　瓦				ABC	A	灰白		No.48　床面
19	平　瓦				ABC	B	灰白		No.26　覆土(+16cm)
20	平　瓦				ABC	B	灰白		No.31　覆土(+19cm)
21	平　瓦				ABC	A	緑灰		No.4　覆土(+17cm)
22	平　瓦				ABC	C	にぶい黄橙		No.7　覆土(+18cm)
23	平　瓦				ABC	C	淡黄		No.50　床面

第2号住居跡(第13図)

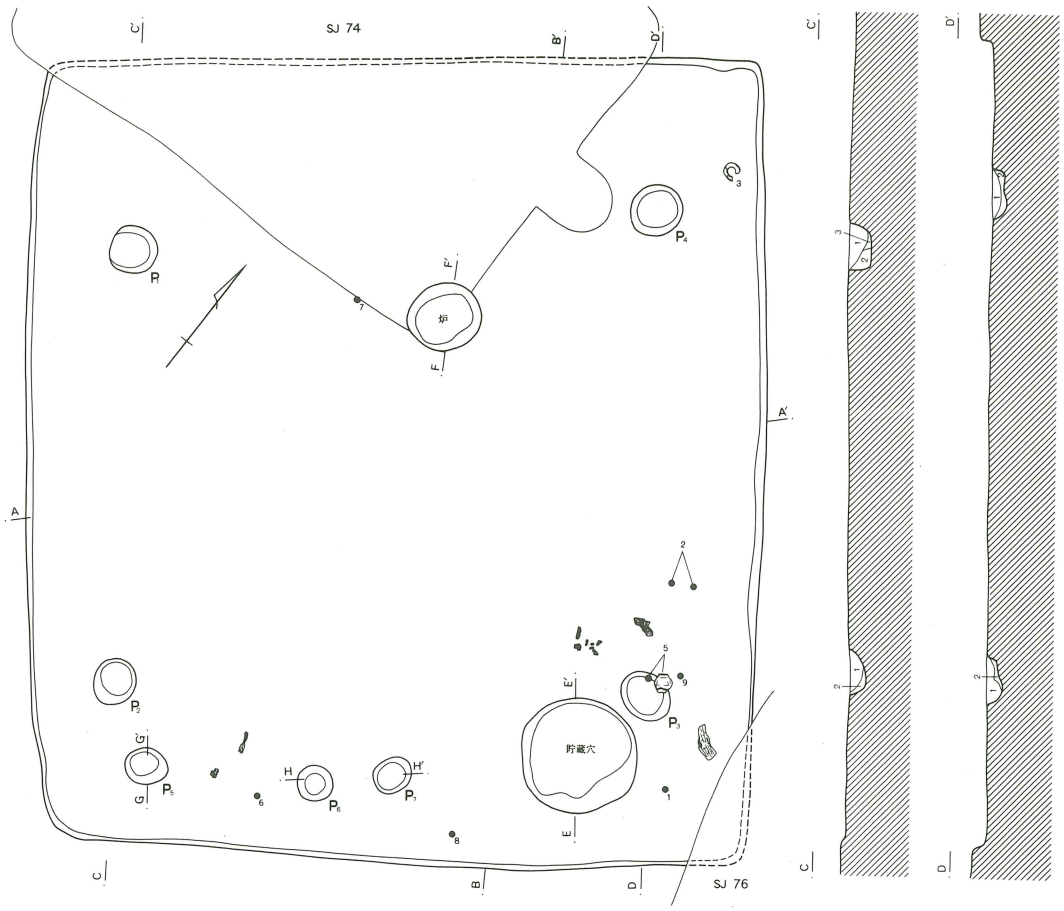
C・D-11・12区に位置する。第74・76号住居跡に切られているが、規模はほぼ確定できる。形態は整った方形を呈し、規模は長軸6.30m、短軸5.86m、深さ14cmを測る。主軸方位はN－38°－Wを示す。

床面は住居北西側が残存しない。他は概ね平坦である。覆土の堆積環境は不明であるが、床面に炭化材片が散在し焼失住居であった可能性も否定できない。

炉跡は住居中央やや北寄りに設けられる。径54cmの円形を呈し、皿状に凹む。覆土には焼土とローム粒子が含まれていた。ピットは7本検出された。P_1～P_4が主柱穴と考えられるが、深度が浅い。P_6・P_7については出入り口部に関係する施設かもしれない。貯蔵穴は南壁際の東コーナーに寄った位置に設置される。径90cm前後の円形を呈し、深さ12cmを測る。壁溝は存在しない。

出土遺物は少ないが、壺類、小形鉢、台付甕、小形高坏の各器種がある(第14図1～9)。このうち、1・3・5・7・8は床面出土、4は貯蔵穴内から出土した。須恵器坏(10)は覆土から出土し明らかに混入品である。

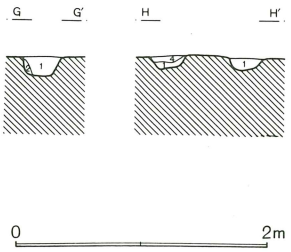
壺類は何れも刷毛目調整され、1の小形壺は口縁部に小孔が2個穿たれている。3の複合口縁壺は頸部が「く」の字状に屈曲し有段部も刷毛目調整される。4は広口壺であろう。6の小形鉢は体部刷毛目調整後ナデられている。



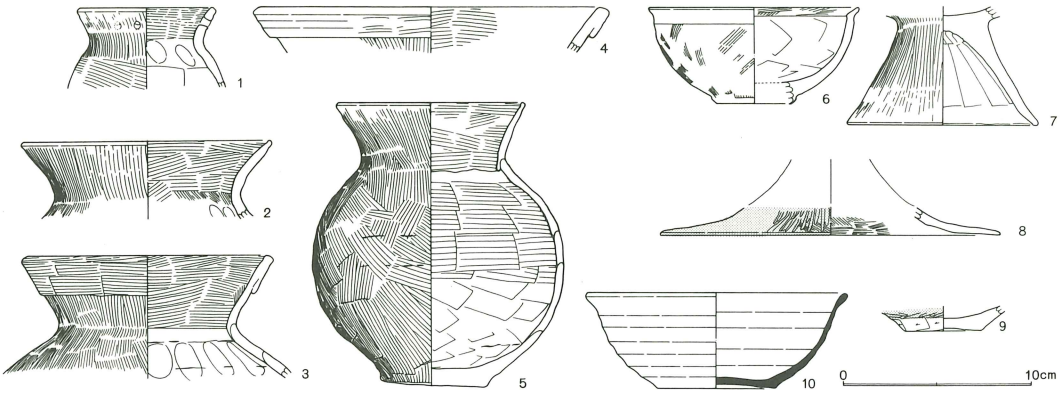
1　暗褐色土　ローム粒多く含む。
2　淡褐色土　ローム粒多く含む微量の焼土粒混じり。
3　暗褐色土　1層よりも色調暗いローム粒少量含む。
4　暗褐色土　ロームブロックを含む微量の焼土粒・炭化物混じり。
5　暗褐色土　ローム粒小量。焼土粒・焼土小ブロック多く含む。

炉跡
1　暗褐色土　焼土粒・ローム粒を多く含む。
2　暗褐色土　径1～2㎝下の焼土ブロック・焼土粒を多量に含む。
3　明黄褐色土　少量の焼土粒を含む。

ピット
1　暗褐色土　小量のローム粒・焼土粒・炭化物含む。
2　暗黄褐色土　くすんだローム質土、暗褐色混じりで粘性しまり強。
3　黒褐色土　少量のローム粒含む。
4　暗黄褐色土　ロームブロック主体層。



第13図　B区第2号住居跡



第14図　B区第２号住居跡出土遺物

B区第２号住居跡出土遺物観察表(第14図)

番号	器　種	口　径	器高	底　径	胎　土	焼成	色　調	残存	出土位置・その他
1	小形壺	(7.0)	4.2		ＡＢＣ	Ａ	にぶい橙	25%	No.60　床面
2	壺	(13.0)	4.1		ＡＢＣ	Ａ	黄褐	25%	No.13,15　覆土(＋8cm)
3	壺	12.6	6.4		ＡＢＥ	Ａ	にぶい橙	70%	No.1　床面
4	壺	(18.0)	2.4		ＡＢＣＥ	Ａ	にぶい橙	5%	No.4　貯穴内覆土
5	壺	(9.6)	14.9	5.6	ＡＢＣ	Ａ	にぶい黄橙	90%	No.50,52　床面
6	鉢	(11.0)	5.1	(4.0)	ＡＢＣ	Ａ	橙	20%	No.62　覆土(＋5cm)
7	台付甕		6.2	9.8	ＡＢＣＥ	Ａ	にぶい橙	90%	No.3　床面
8	高　坏		1.5	(18.0)	ＡＢＣ	Ａ	にぶい橙	10%	No.35　床面　赤彩
9	壺		1.3	4.0	ＡＢＣＥ	Ａ	にぶい橙	50%	No.49　覆土(＋4cm)　赤彩
10	坏	(13.6)	5.0	6.2	ＡＢＣＥ	Ｄ	にぶい黄橙	50%	覆土　底部完存

第３号住居跡(第16図)

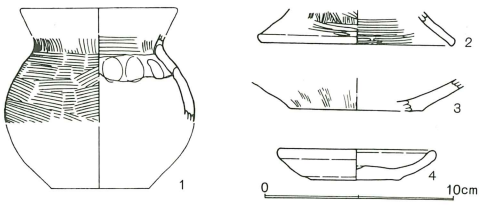
Ｃ-11区に位置する。第４号住居跡及び第73号住居跡と重複するが、断面観察によれば前者よりも新しく後者よりも古いものと考えられる。また、第18号土壙による攪乱を受けており遺存状態はあまりよくない。形態は長方形を呈し、規模は長軸3.66ｍ、短軸3.24ｍ、深さは残りのよいところでも10cmに満たない。該期としては比較的小形の住居跡である。主軸方位はＮ－26°－Ｗを示す。

床面はやや凹凸を有する。覆土の堆積状況は壁高が浅いために明確にはできないが、ロームの含有量が多く完全な自然堆積とは思われない。

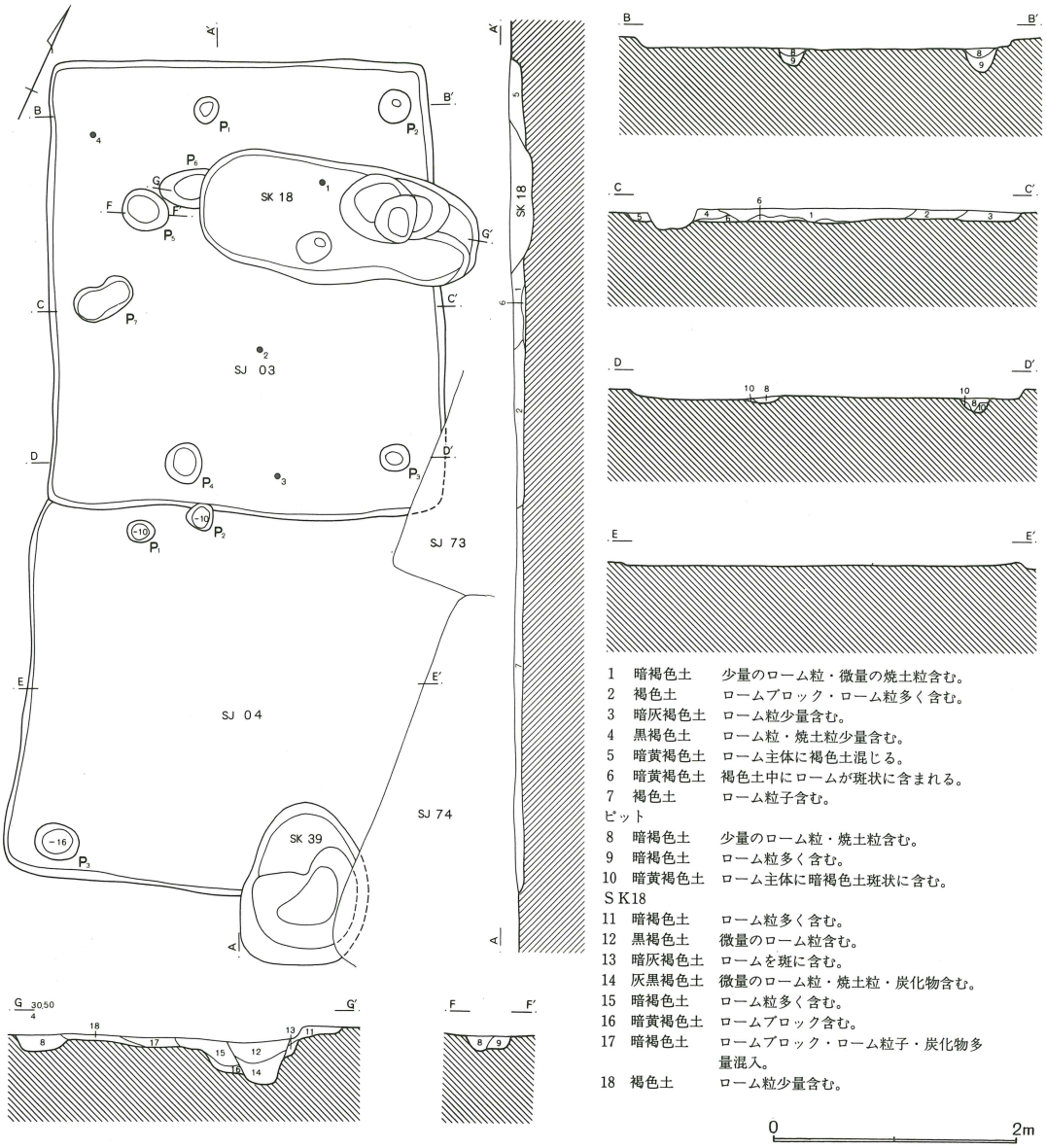
炉跡は現状では残存しない。位置的にみると、第18号土壙によって破壊されたものと考えることもできる。貯蔵穴は確認されなかった。

ピットは７本検出されたが、主柱穴は明確ではない。P_1～P_4をそれとすると、柱穴配置が壁際に寄り過ぎ、またP_3の深度が浅いという難点がある。P_7については確実に後世の掘り込みで、P_5・P_6は住居に伴う可能性はあるが少なくとも柱穴とはならない。

出土遺物は極めて少ないうえ、すべて小片で器形の判明する資料はない(第15図１～４)。住



第15図　B区第３号住居跡出土遺物



第16図　B区第3・4号住居跡

居に伴うと考えられる遺物は1～3である。1は刷毛目調整の小形壺と思われ、18号土壙内に落ち込んだ状態で検出された。2は小形器台の脚部と推定される破片で外面刷毛目調整後ミガキを施す。3は壺底部、4は中世の土師質小皿で明らかに混入品である。

B区第3号住居跡出土遺物観察表(第15図)

番号	器　種	口　径	器高	底　径	胎　土	焼成	色　調	残存	出土位置・その他
1	小形壺		4.6		ABC	A	にぶい黄橙	25%	No.3　覆土(+6cm)
2	小形器台		1.8	(10.0)	AB	A	にぶい橙	10%	No.18　床面
3	壺		1.7	(7.0)	ABC	A	にぶい黄橙	15%	No.11　覆土(+4cm)
4	小　皿	8.1	1.7	4.7	AB	A	橙	70%	No.4　覆土(+8cm)　混入

第４号住居跡（第16図）

Ｃ-11区に位置する。第３号住居跡の南側に壁ラインをほぼそろえて重複する。住居東側は第73・74号住居跡、南壁部は第39号土壙が重複し、何れの遺構よりも本住居が古い。正確な規模は不明であるが、形態は方形もしくは長方形を呈するものと推定される。規模は残存値で長軸3.54ｍ、短軸3.04ｍ、深さは約３㎝と非常に浅い。主軸方位は西壁を基準にするとＮ－20°－Ｗを示す。

床面はほぼ平坦で、重複する第３号住居跡とは段差がみられずに移行する。覆土はローム混じりの褐色土で構成されるが、壁高が浅いために堆積状況は不明とせざるを得ない。

ピットは３本検出されているが、住居に伴う可能性は低い。その他、炉跡や貯蔵穴等の付属施設も確認されておらず、通常の住居とするには問題も残る。

出土遺物は土師器壺底部小片と甕胴部片があるのみで、時期を限定するには材料不足である。重複関係から第３号住居跡よりも古いが、主軸が近く壁ラインがほぼ揃うこと、また、弥生時代後期の住居跡が確認されていないことからみて、時期的に大きく隔たることはないであろう。

（２）　方形周溝墓

Ｂ区では16基の方形周溝墓が検出され、狭長な調査区の北側の台地縁辺に沿って帯状に分布する。調査によって墓域が完全に把握されたわけではなく、調査区中央北側に残される未調査区と調査区西側に延びる同一台地上にも、周溝墓の存在することは十分予想される。沖積地に面した台地縁辺部を東に辿ると中耕遺跡、広面遺跡が所在し、やはり多数の周溝墓群が検出されている。中耕・広面遺跡を一方の核とすれば、稲荷前遺跡Ｂ・Ｃ区をもう一つの中心と見ることができる。Ｂ区は稲荷前グループの一支群として位置付けられるものと考える。

16基の周溝墓中、完掘できたものは13基ある。形態は周溝が全周するタイプが８基、周溝の一隅が切れるものが２基、１辺が独立し、他の３辺が「コ」の字状に連結するもの２基、四隅切れの可能性をもつもの１基となり、四隅切れの周溝墓が少なく、全周型系統が主体となることはＢ区の特色といえよう。また、全周型に含めたが、第５号周溝墓は北溝中央にブリッジ状の高まりを作り出しており、前方後方形周溝墓の一種と捉えることもできる。各周溝墓は相互に近接して構築されるものは多いが、直接的に切り合い関係を有するものは存在しない。また、近接した時期と思われる４軒の住居跡とも重複するものは見られなかった。方台部盛土の遺存する例は皆無である。墓域の大部分は古墳時代後期以降の集落域と重なり、ほとんどの周溝墓では周溝上部に住居跡が進出している。重複住居の年代から７世紀～８世紀頃までには周溝は埋没していたと考えられる。墓域としての意識も既に失われていたものであろう。第10号周溝墓には９世紀段階の住居跡が、第16号周溝墓では７世紀段階の住居跡がそれぞれ方台部上に大部分掛かる形で検出され、おそらく住居跡が方台部内に営まれる段階までには墳丘が削平、或いは崩壊したものと推定されるが、他の周溝墓、特に規模の大きい周溝墓であっても方台部内に納まる住居跡の検出例はなく、墳丘盛土がいつまで残存したのかについては決定的な証拠は見出せなかった。盛土の規模や位置、後世の土地利用形態によって異なる場合があったと考えた方が自然かもしれない。現状では墓域全体の盛土が消滅するのは、方台部上に溝跡が掘削される中世段階以前とするしかなさそうである。

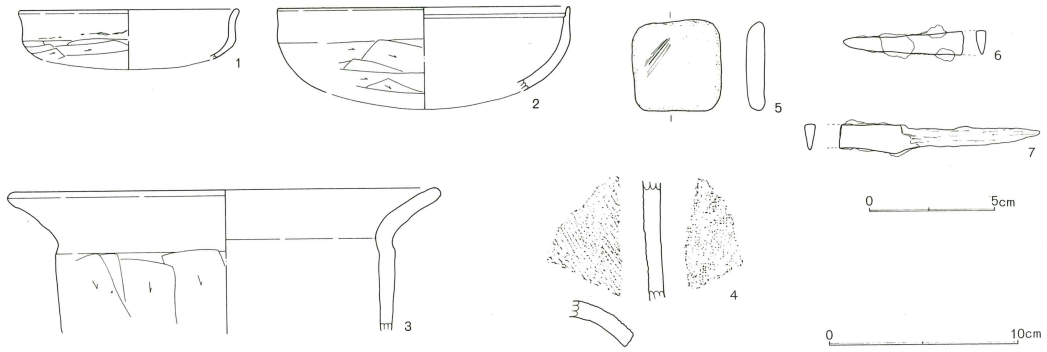
B区第１号方形周溝墓(第18図)

調査区北西寄りのA～C-５～７区に位置する。B区でも最大規模の周溝墓であるが、残念ながら上部は削平され、遺存状態は極めて悪い。また、東溝外縁部には第22号住居跡が僅かに掛かっていた。平面形態は全周型で、方台部上面の形状は方形に近いが各辺に歪みが見られた。また、方台部の各コーナーは丸みをもっている。方台部の規模は東西長15.28ｍ、南北長14.96ｍを測り僅かに東西に長い。主軸方位はN－９°－Wを示す。

周溝外縁部は北溝が比較的整った形態を示すが、他の溝では歪みが激しく溝幅も一定しない。特に南溝が際立って幅広く掘削されていた。底面はローム層下の砂礫漸移層に達しているためか凹凸が比較的顕著に見られた。溝深度は南北の周溝は比較的深く、東西のそれは浅い。壁の立上がりは基本的に逆台形で、方台部側の立上がり角度は外縁部側に比してより鋭い傾向が認められた。周溝規模は北溝が最大幅2.76ｍ、深さ0.40ｍ、東溝が最大幅2.80ｍ、深さ0.20ｍ、南溝が最大幅5.00ｍ、深さ0.50ｍ、西溝が最大幅3.28ｍ、深さ0.25ｍを測る。

周溝深度が浅いこともあり、覆土の様相を明確に捉えることはできなかった。第３層は方台部盛土に由来する一次堆積土と推定される。第１層及び２層には小礫が多量に含まれていた。礫層そのものは周溝基底面以下に堆積するもので、その多くは盛土の崩壊に伴って流入したと見るのが自然かもしれない。

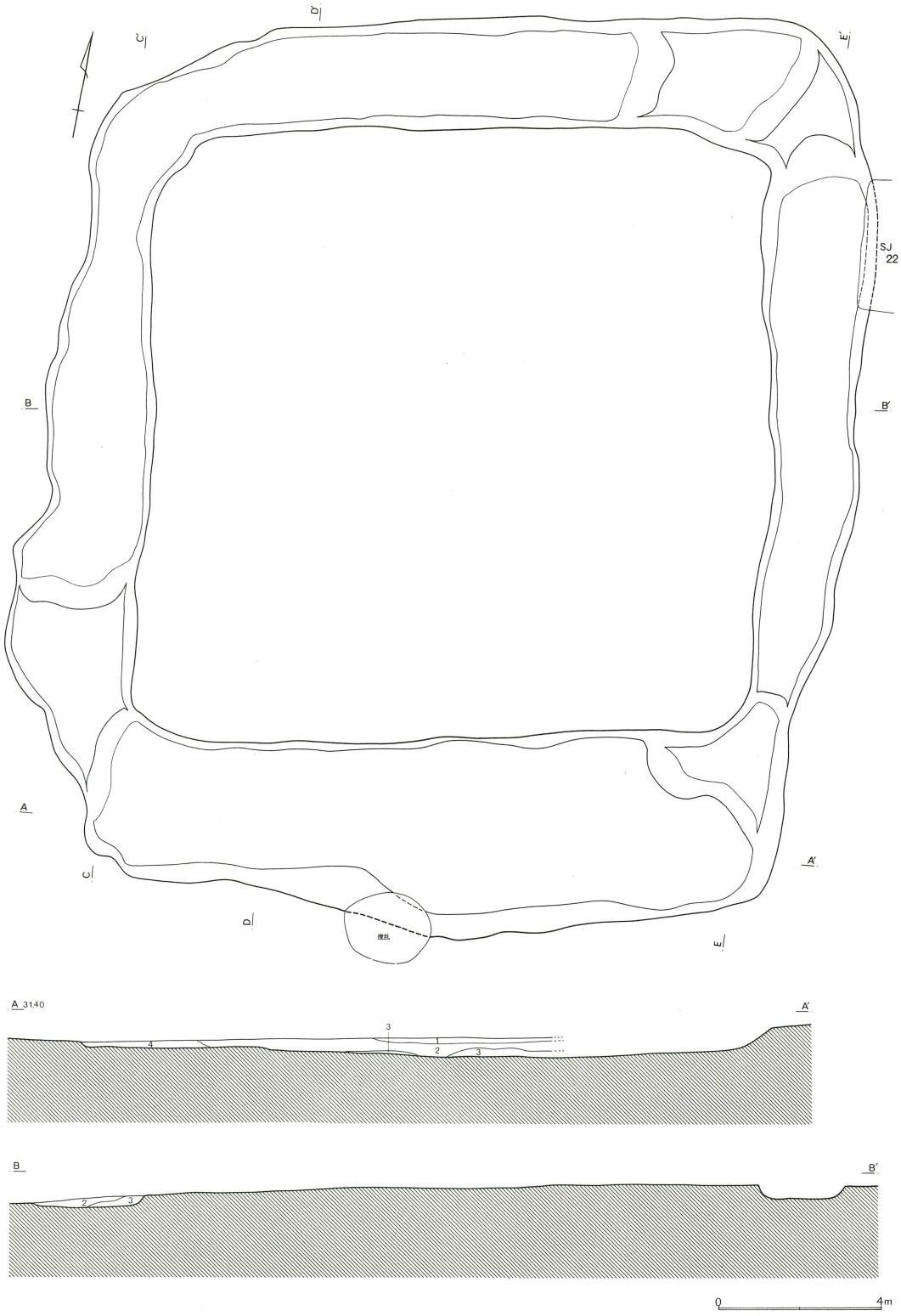
出土遺物は極めて少なく、確実に本周溝墓に帰属すると思われる遺物は皆無であった。第17図は全て混入遺物と考えられる。１～３は７世紀段階と推定される土師器坏と甕。４は須恵質の小形瓦で凸面平行叩き、凹面は布目(１㎠あたり経９本、緯10本)。５は方形の板状石製品。表面と側面を磨って平滑に仕上げ、裏面は自然面を残す。６・７は刀子。



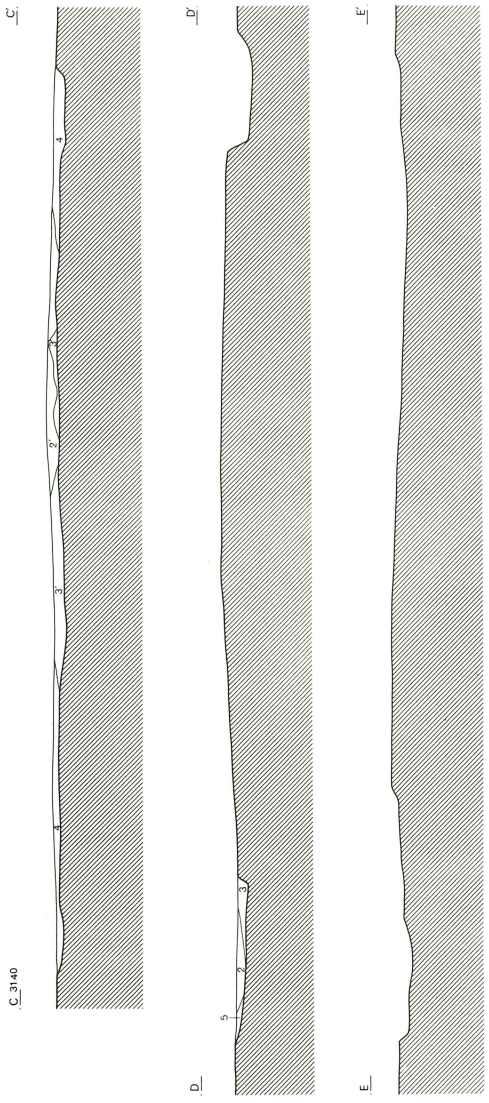
第17図　B区第１号方形周溝墓出土遺物

B区第１号方形周溝墓出土遺物観察表(第17図)

番号	器　種	口　径	器高	底　径	胎　土	焼成	色　調	残存	出土位置・その他
1	坏	(11.4)	2.6		ABC	B	褐灰	25%	北溝覆土　模倣坏　無彩
2	椀	(15.4)	4.4		AC	A	灰褐	10%	北溝覆土　無彩
3	甕	(22.2)	7.5		ACJ	C	橙	10%	北溝覆土
4	丸　瓦				AC	A	灰		北溝覆土　須恵質の小型瓦
5	石製品								北溝　縦4.8,横4.7,厚さ1cm
6	刀　子								北溝覆土　残長4.8,幅1.9,厚さ0.4cm
7	刀　子								東溝　残長8.0,最大幅1.2,厚さ0.4cm



第18図　B区第１号方形周溝墓



1　暗茶褐色土　ローム粒子・焼土粒子を比較的多量に含む。炭化物粒子少量混じる。
2　暗褐色土　色調はやや褐色味が強い。小礫をやや多く、ローム粒子、焼土粒子を少量混入する。
2′　暗褐色土　2層類似。小礫の混入量が多く、一部に攪乱を受ける。
3　暗黄褐色土　くすんだ色調のロームブロック・ローム粒子を主体とし、暗褐色土がブロック状に混入する。
3′　暗黄褐色土　3層に類似。焼土粒子を少量混入する。
4　暗黄褐色土　多量のローム粒子を含み、部分的に黒褐色土がブロック状に混じる。
5　黄褐色土　暗褐色土をブロック状に含む。

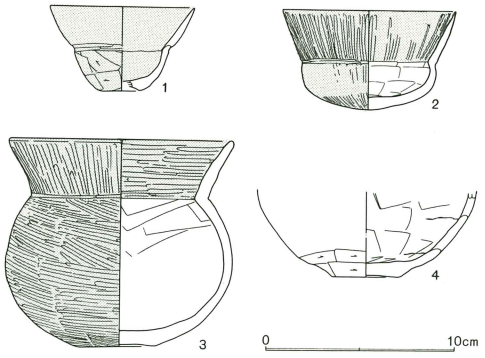
0　4m

B区第2号方形周溝墓(第20図)

調査区北西部のC・D-2～4区にあり、西側に第7号周溝墓が隣接し、南側に第3号、5号周溝墓が位置する。西周溝は第15号住居跡、方台部東辺上は第15号土壙、南周溝外縁は土壙群(SX01)の攪乱を受けていた。平面形態は全周型に属し、方台部は南東コーナーが外に張り出すため東辺と南辺に歪みがみられ、全体的には台形状を呈する。方台部の規模は東西長10.20m、南北長9.20m、主軸方位は西辺を基軸に据えるとN－11°－Wを示す。

周溝は全周するが、北東コーナーが極めて浅く、確認面が現状よりも10cm低ければ一隅に陸橋部をもつ形態と認識されたであろう。周溝幅はほぼ一定で、あまり大きな差はない。南溝の底面はかなり凹凸が顕著で一定した面を形成していない。底面は深度の浅い北東コーナーから東溝北半部が礫層に達し、その他の部分はローム層中に留まっていた。周溝規模は北溝が幅2.12m、深さ0.72m、東溝が幅1.96m、深さ0.65m、南溝が幅2.00m、深さ0.60m、西溝が幅1.72m、深さ0.40mを測る。

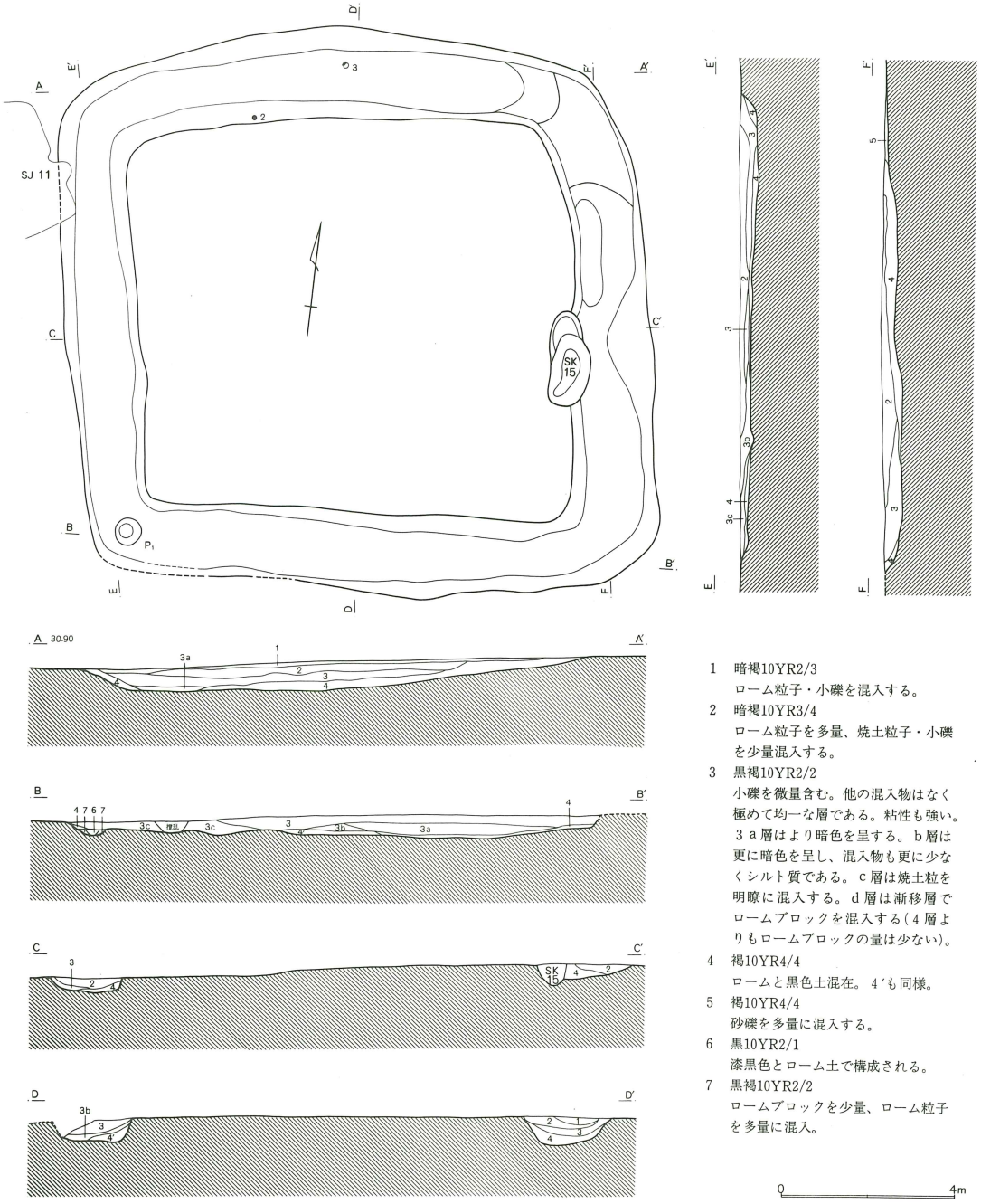
周溝覆土は基本的に5層に分かれる。第4層はローム混じりの黒色土で、堆積状態から方台部側盛土の崩落した第一次堆積土と考えられる。その後に堆積する第3層には混入物があまり含まれず、比較的長期にわたって堆積が進んだものと推定される。



第19図　B区第2号方形周溝墓出土遺物

B区第２号方形周溝墓出土遺物観察表（第19図）

番号	器　種	口　径	器高	底　径	胎　　土	焼成	色　調	残存	出土位置・その他
1	小形坩	(7.6)	4.4	2.0	ＡＢＣＪ	Ｂ	橙	45%	東溝覆土　赤彩は部分的に残る
2	小形坩	9.1	5.2		ＡＢＣＥ	Ａ	橙	100%	北溝覆土中層　体部整形不明瞭　赤彩
3	小形壺	11.8	10.9	4.0	ＡＢＣ	Ａ	にぶい黄橙	95%	No.1　北溝覆土（＋15cm）　赤彩
4	小形壺		5.1	3.6	ＡＢＣＪ	Ｂ	浅黄橙	80%	西溝覆土上層（＋22cm）　外面風化

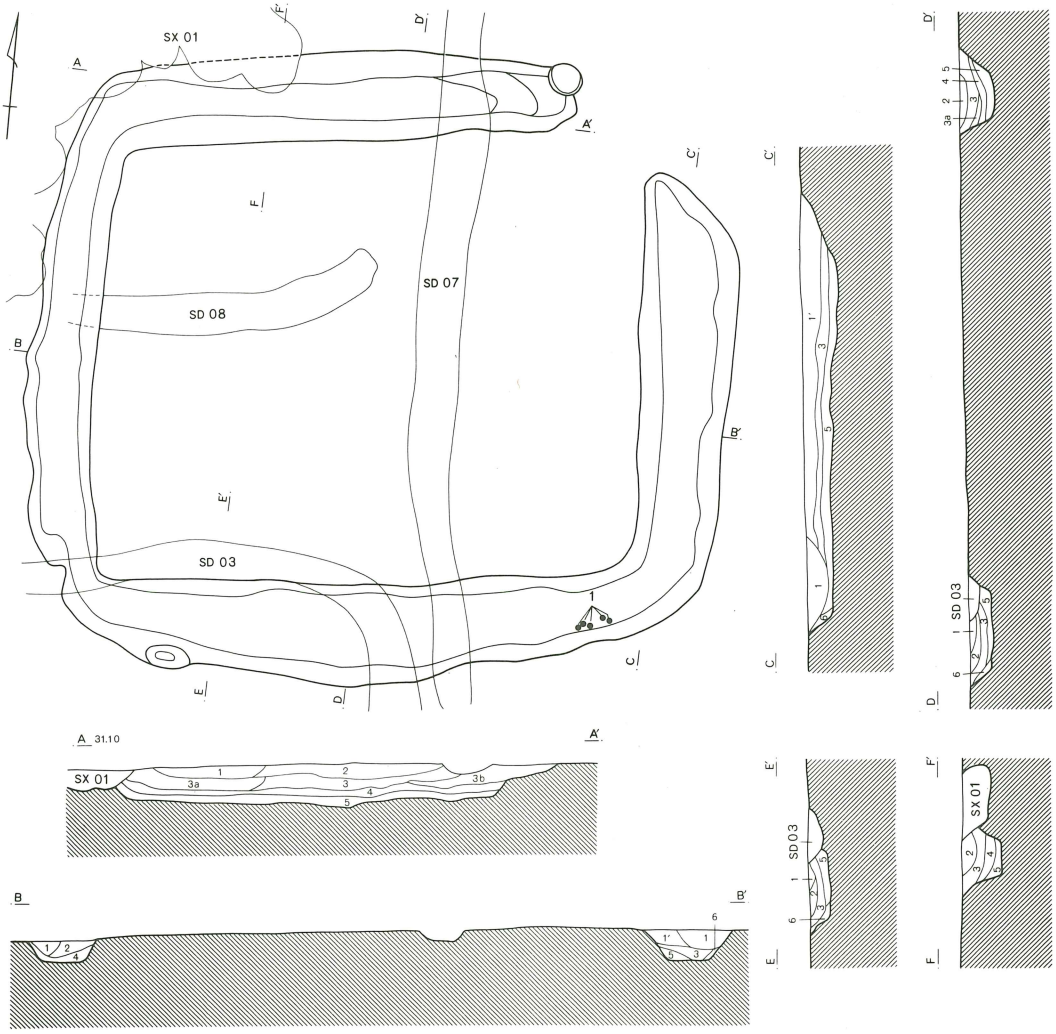


第20図　Ｂ区第２号方形周溝墓

出土遺物は小形の坩と壺が４点検出された。第19図１は小形坩で、底部は凹んでいる。風化が進みヘラミガキ痕は不明瞭、部分的に赤彩痕残る。体部下位はヘラケズリと思われる。東溝覆土出土。２は完形の小形丸底壺で、北溝覆土中層から出土。口縁下に弱い段が付き、口縁部及び体部外面は赤彩される。３は北溝中央部から出土した坩で、赤彩される。４は西溝外縁部の肩部付近から出土した小形壺の底部片。風化により胴部整形は不明瞭である。

Ｂ区第３号方形周溝墓（第21図）

調査区北西寄りのＤ・Ｅ－４・５区にあり、周囲には第１・２・４～６号周溝墓が取り囲むように分布



1　黒褐10YR3/1　ローム粒子をほとんど混入せず、比較的均一な層である。1′層はローム粒子を僅かに含み1層に酷似する。

2　にぶい黄褐10YR4/3　ロームブロックを主体とする。

3　黒10YR2/1　ローム粒子を少量混入。３ａ層はローム粒子の量がより多い。３ｂ層は砂礫を混入する。

4　暗褐10YR3/3　ロームブロックを多量に混入する。

5　黒褐10YR2/2　4層に粒子の細かい黒色土が斑状に混じる。5層の方がロームブロックの量が多い。

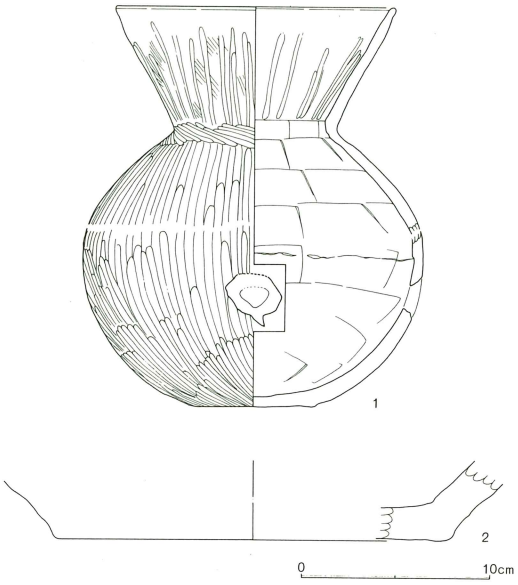
6　黒褐10YR2/3　褐色化したロームブロックを混入する。

0　4m

第21図　Ｂ区第３号方形周溝墓

していた。周溝及び方台部は性格不明の土壙群(ＳＸ01)や中世の溝跡による攪乱を受けているが、掘り込みが深いために遺存状態は比較的良好であった。平面形態は北東コーナーに陸橋部を残すタイプである。方台部は東西に長軸をもつ長方形を呈し、上面の規模は東西長11.48ｍ、南北長9.28ｍ、主軸方位はＮ－５°－Ｗを示す。

周溝幅には極端な差はなく、外縁部は南溝及び西溝の中央部が外側に張り出し気味となっている。底面は小さな凹凸は随所に認められるが、壙内土壙と思われるような凹みは検出されなかった。溝の横断面形は総じて逆台形を呈し、方台部側、外縁部側共に壁の立上がりは鋭い。溝の規模は北溝が幅1.84ｍ、深さ0.97ｍ、東溝が幅2.04ｍ、深さ0.80ｍ、南溝が幅2.16ｍ、深さ0.60ｍ、西溝が幅1.44ｍ、深さ0.52ｍである。



第22図　Ｂ区第３号方形周溝墓出土遺物

周溝覆土は大きく６層に分かれる。第４層及び５層はロームブロックを多量に含み、内区から埋没した状況が窺われ、方台部盛土に起因する堆積土と考えられる。覆土最上層に堆積する第１層及び１′層はロームの混入が極めて少ない黒色土で、比較的安定した環境下で自然に堆積したものと推定される。

陸橋部は全周型の一隅が浅いために陸橋部をもつかのようにみえるものとは異なり、両端の溝深度が深いことからみて、築造当初から意識的に形成されたものと考えられる。幅は2.08ｍで北東に開いている。

出土遺物は極めて少なく、周溝墓に伴う可能性をもつものは図示した坩以外には幅狭の複合口縁を有する壺が１点あるのみである。

第22図１は坩で、南溝の東コーナー付近から出土した。推定口径14.6㎝、器高21.0㎝、底径6.6㎝。胎土に石英、白色粒子、白色針状物質を含み、焼成は良好。色調は浅黄橙で約80％残存。口縁部と胴部外面はヘラミガキで、一部刷毛目が残る。また、胴部中位には内側から外側に向かって焼成後の穿孔が施されていた。底面から35㎝浮いたレベルから出土。註記№１～５。２は常滑系の甕底部でおそらく溝跡に伴う遺物と思われる。底径20.4㎝で約15％残存する。周溝覆土出土。

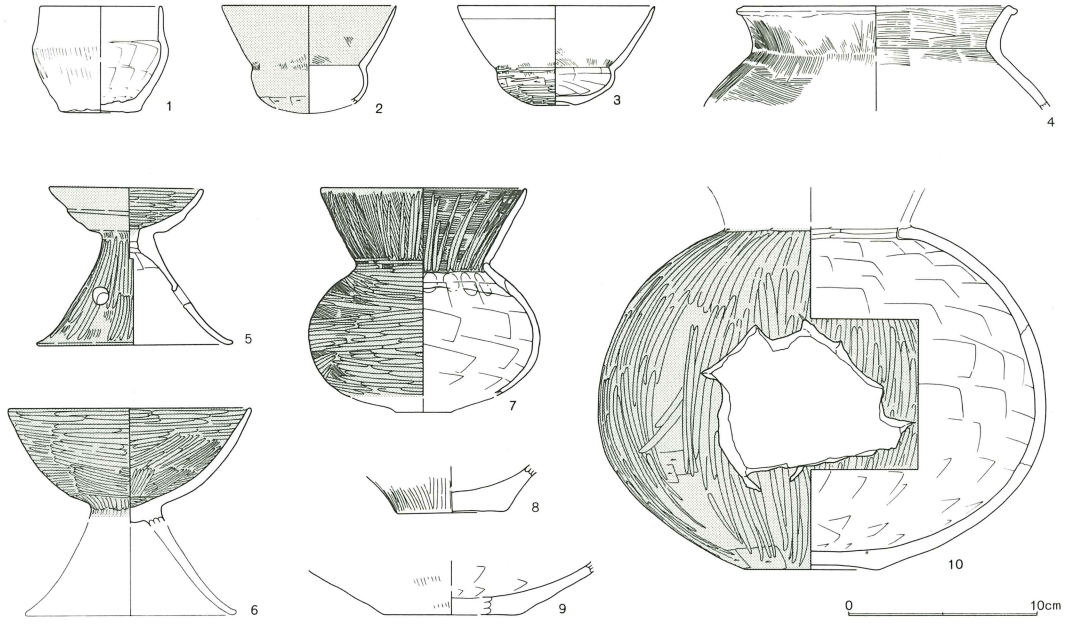
Ｂ区第４号方形周溝墓(第24図)

調査区西寄りのＤ・Ｅ－５・６区にあり、北側に第１号、西側に第６・７号、東側に15号周溝墓が近接する。周溝墓上面には第27号・第34～37号住居跡が構築されており、部分的に攪乱を受けていた。形態は全周型で、方台部は概ね長方形としてよいが、南東コーナーが外に張り出すために東辺は中央が膨らみ、南辺は全体に東に向かって開き気味となっていた。方台部の規模は東西長が12.40ｍ、

南北長は中軸線上で10.68m、主軸方位はN－12°－Wを示す。

周溝外縁部は西溝が直線的だが、他の周溝では中央が若干幅広く、全体にやや弧状を呈していた。底面は凹凸が比較的顕著に見られ、北溝と西溝は中央付近が長楕円形の土壙状に凹んでいた。深さは東溝と南溝が浅く、西溝と北溝が深い傾向にある。周溝の横断面形は総じて逆台形を呈する。周溝の規模は北溝が最大幅2.88m、深さ0.92m、東溝が幅2.52m、深さ0.50m、南溝が幅2.40m、深さ0.40m、西溝が2.28m、深さ0.72mを測る。

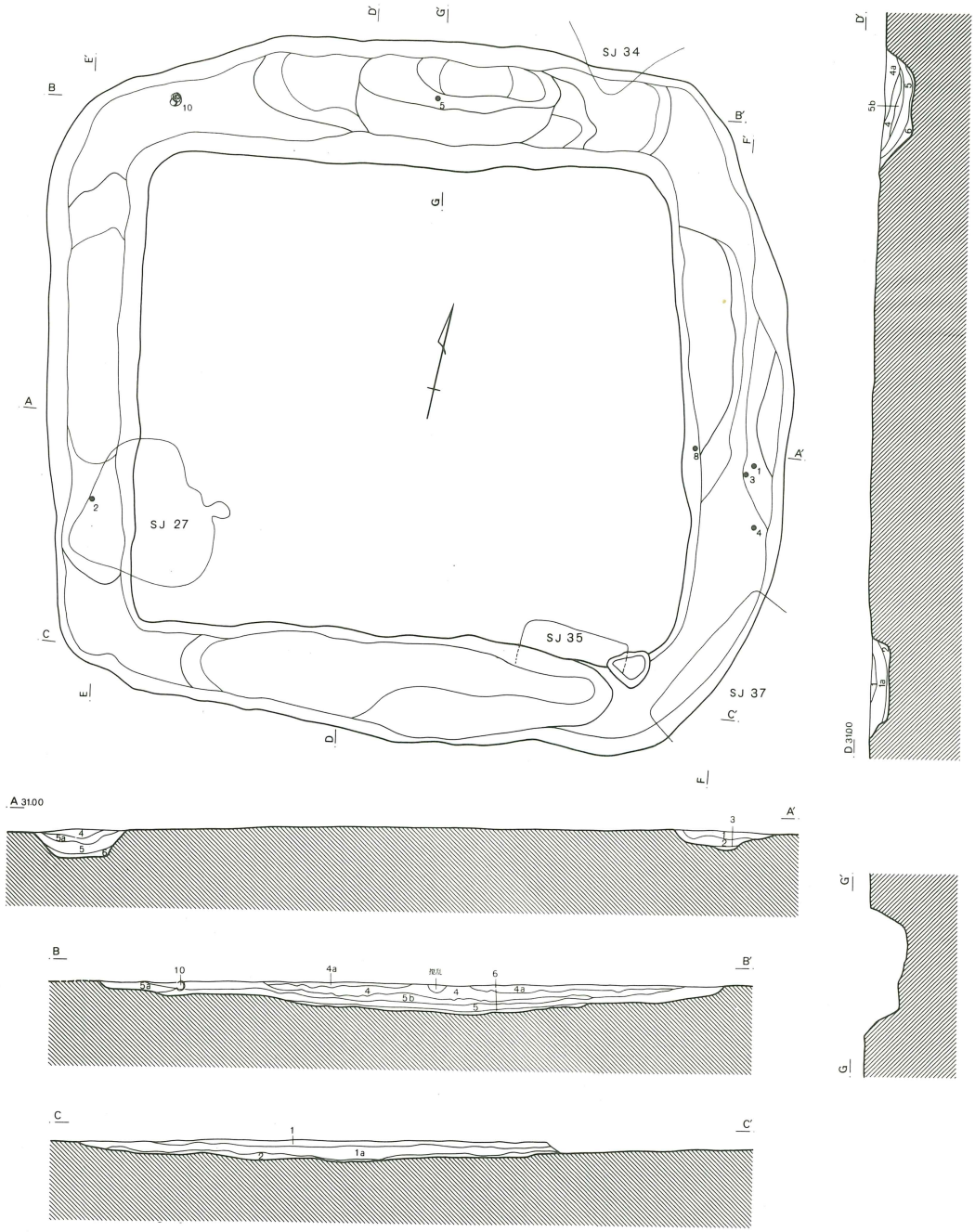
周溝覆土は基本的に7層に分かれる。溝毎に堆積状況はやや異なり、南溝には小礫の混入が目立った。第3層、6層が方台部盛土に由来する第一次堆積土と思われ、第4層を除く他層についても概ね自然堆積によるものと推定される。第4層は北溝と西溝の最上層に堆積していた。土質は地山かとも思われる未風化の褐色土で、混入物をほとんど含まないことから方台部盛土から崩落したものとは考え難い。堆積要因は不明である。



第23図　B区第4号方形周溝墓出土遺物

B区第4号方形周溝墓出土遺物観察表(第23図)

番号	器　種	口　径	器高	底　径	胎　　土	焼成	色　調	残存	出土位置・その他
1	小形鉢	6.4	5.6	4.4	AC	A	にぶい褐	35%	No.8　東溝壙底　無彩
2	小形坩	9.2	5.4		ABEJ	C	浅黄橙	70%	No.1　西溝覆土下層(＋5cm)　赤彩
3	小形坩	10.4	5.2	2.0	ACE	A	にぶい橙	60%	No.12　東溝覆土下層(＋13cm)　無彩
4	甕	14.0	5.5		ACE	A	橙	20%	No.9　東溝壙底
5	小形器台	8.0	8.3	10.2	ACE	A	浅黄橙	80%	No.3　北溝(＋7cm)　赤彩　透孔は3ヶ所
6	高　坏	12.8	6.2		ABCE	A	にぶい橙	95%	覆土　赤彩　口縁部内外面へラミガキ
7	坩	10.8	10.9		ABC	A	にぶい黄橙	70%	東溝覆土　赤彩　底部穿孔の有無不明
8	壺		2.4	(5.7)	ABC	A	橙	25%	No.10　東溝覆土上層
9	壺		2.8	(7.0)	AB	A	橙	30%	南溝覆土
10	壺		18.0	(7.0)	AB	A	浅黄橙	100%	No.2　北溝下層(＋10cm)　赤彩痕残る



1　黒褐10YR2/3　小礫を多量に混入する。1ａ層はより暗色を呈する。焼土粒子も極少量混入する。

2　黒褐10YR3/2　小礫を主体に構成する。

3　黒褐10YR3/3　比較的大きなローム(粘土)をブロック状に混入する。

4　暗褐10YR3/4　地山(褐10YR4/6)がそのまま埋没したような土で混入物はほとんど含まずしまりは極めて強い。4ａ層は僅かに黒色土粒子を混入。

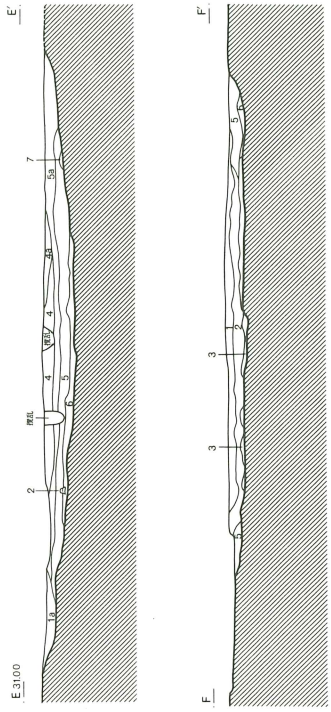
5　黒10YR2/1　黒色土中にローム微粒子を少量含みしまりは弱い。5ａ・5ｂ層はロームブロックを混入。

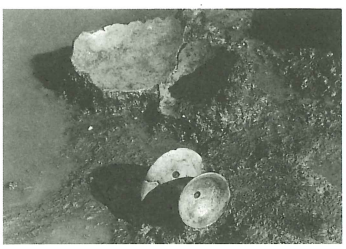
6　黒褐10YR2/2　地山の粘質ロームをブロック状に混入する。これは覆土との同化が進行し斑点状となる。

7　暗赤褐10YR3/3　黒褐色土中に赤色物を混入。「朱」か。

0　4m

第24図　Ｂ区第４号方形周溝墓



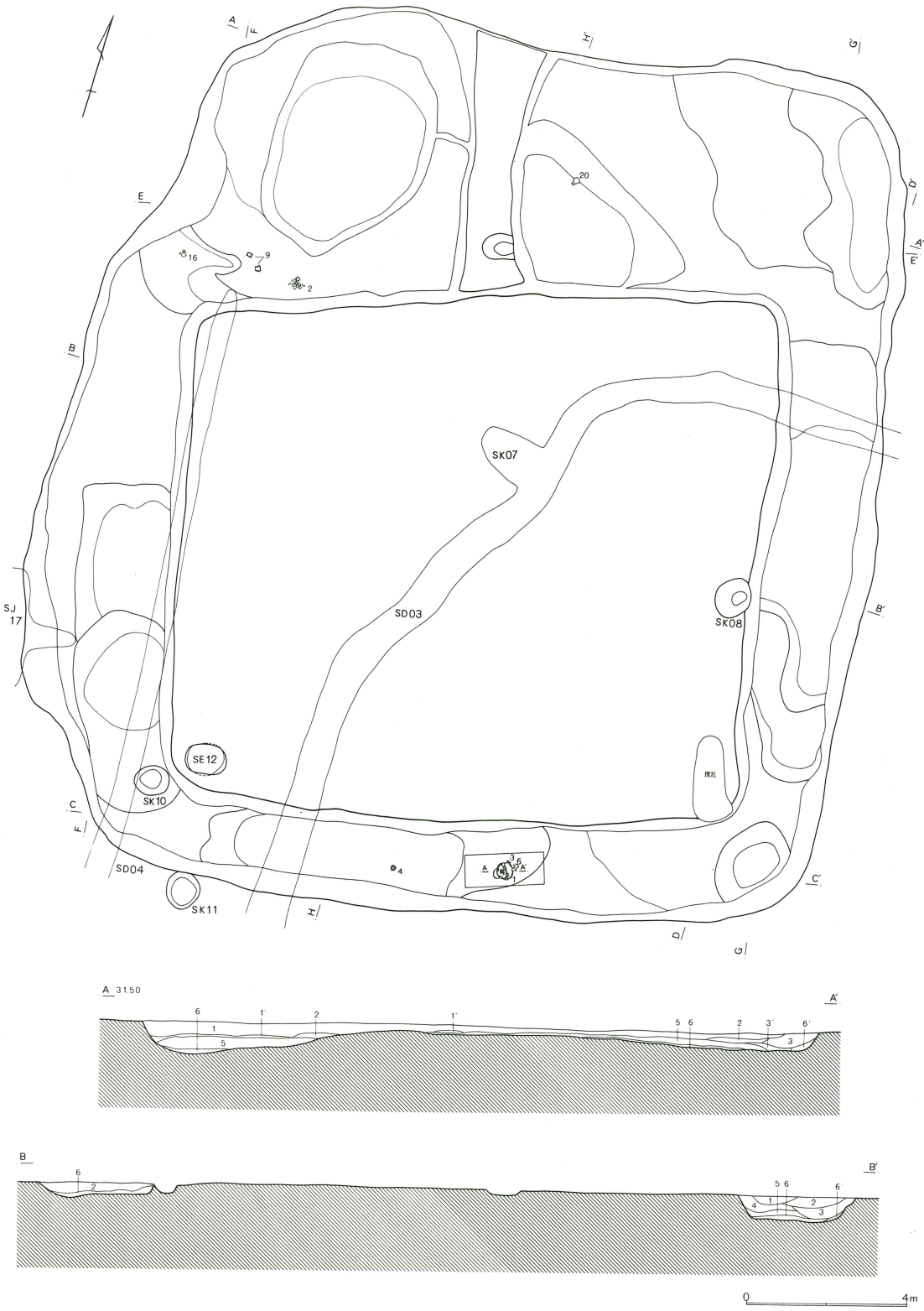


出土遺物は少なく、器種としては小形鉢(第23図１)、小形坩(２・３)、甕(４)、小形器台(５)、小形高坏(６)、坩(７)、壺(８～10)がある。出土位置の判明するものは全て覆土下層から検出されている。１は小形の鉢。口縁部はヨコナデされ、体部は刷毛目調整、下半はナデ。２は底部を欠く。風化が著しく調整は不明瞭。赤彩痕は僅かに残る。３は口縁に比して体部が小さい。底部は上げ底。口縁部はヨコナデされ、赤彩は施されない。４は口縁部が「く」の字状に折れ口唇部に平坦面を作る。外面は刷毛目で一部ナデ消す。５の小形器台は北溝最下層から出土した。受部外面は風化により調整不明瞭である。６の小形高坏は口縁部が椀状に開く。７の坩は刷毛目後へラミガキ調整される。底部全体を欠く。10の壺は口縁部を欠く。底部は完存。胴部中位の孔は内部から外面に向かって穿たれており、焼成後、故意に穿孔された可能性もある。

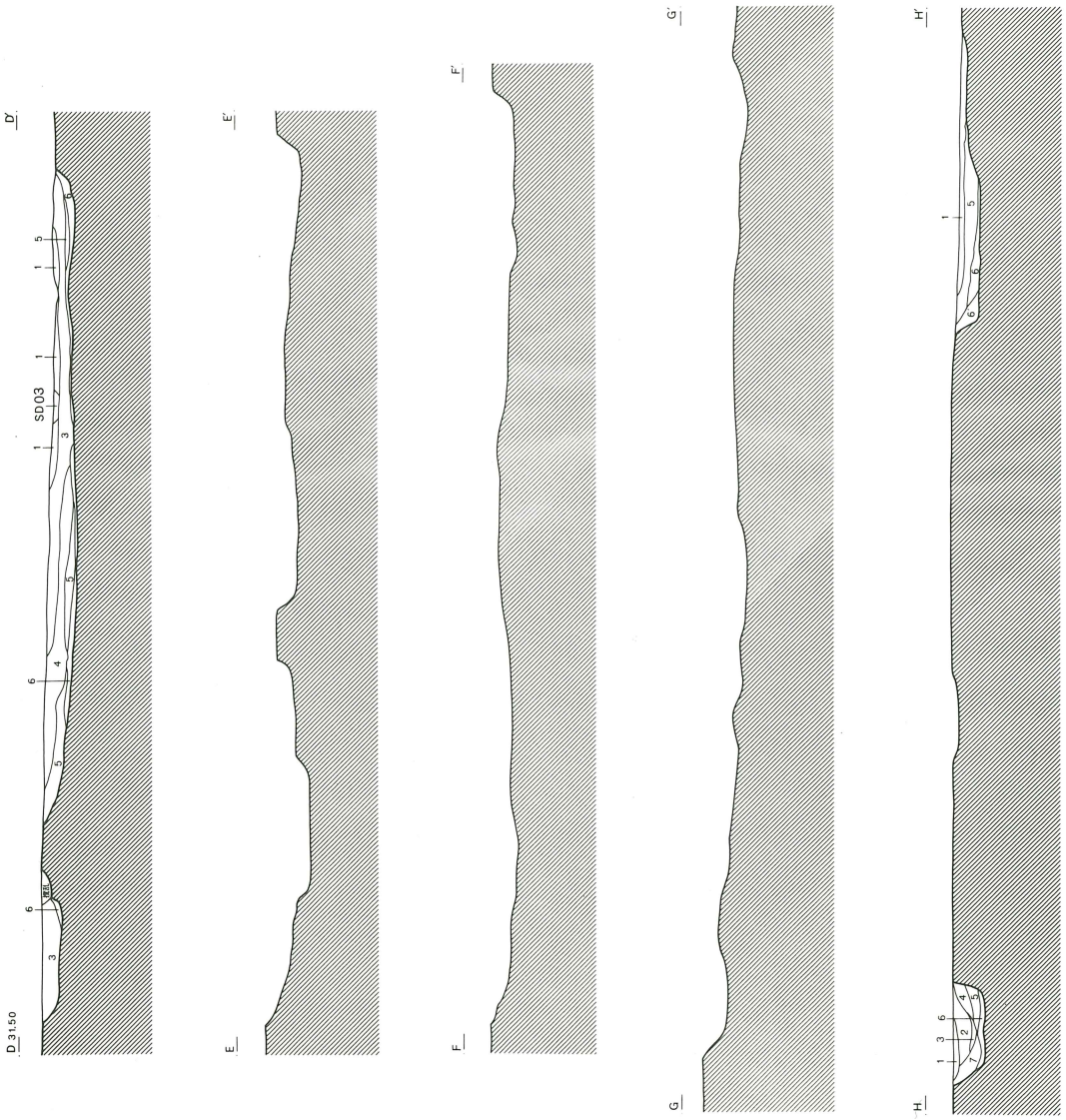
Ｂ区第５号方形周溝墓(第25･26図)

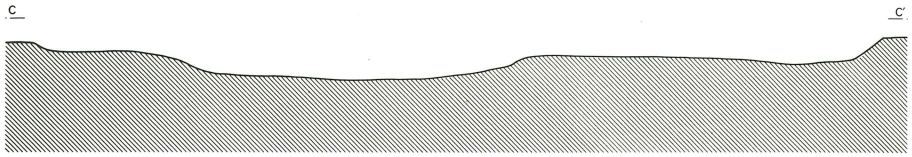
Ｄ～Ｆ－２～４区にあり、第７号周溝墓と共に周溝墓群の中で最も西寄りに位置する。北溝上面は土壙群(ＳＸ01)に削平されていた。また、17号住居跡、12号井戸跡や溝、土壙の攪乱を受け遺存状態はあまり良いとはいえない。形態は全周型で、方台部は方形というよりも平行四辺形状に歪んでいる。南辺は中央部が外に張り出し気味となっていた。方台部の規模は東西長13.80ｍ、南北長13.28ｍを測り、Ｂ区の周溝墓中、第１号周溝墓に次いで規模が大きい。主軸方位は北辺に直交するラインに求めるとＮ－18°－Ｗを示す。

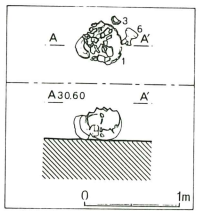
周溝は東溝と南溝がほぼ一定の幅であるのに対し、西溝は外縁部が部分的に膨らみ、北溝は他の溝に比して非常に幅広く、北西コーナーはやや括れていた。底面は全体に凹凸が激しく一定しない。特に北溝では方台部直下の左右が土壙状に深く掘り込まれ、結果的に中央部がブリッジ状の高まりとなって残されていた。このブリッジ状の高まりは方台部にほぼ直角に取り付き、北溝外縁部に向かって延びている。ブリッジ上面と方台部との段差は10～15cm、ブリッジ幅は60～80cmを測る。確認面が現状よりも20cm低ければ前方後方形周溝墓と認識されたに相違なく、北溝の広さとブリッジ状の高まりを積極的に評価すれば、前方後方形周溝墓、またはその亜種として把握することもでき



第25図　B区第５号方形周溝墓（１）







1　褐色土　比較的均一な層で、ロームの混入は少ない。1′はより暗色を呈し、白色粘土を一部混入する。

2　褐色土　ローム粒子混入する。

3　暗褐色土　ローム粒子多量に混入。3′はよりローム粒子の混入量が多い。

4　黄褐色土　ロームブロックを多量混入する。

5　黒褐色土　漆黒土で部分的にロームブロックとローム粒を混入する。シルト質。

6　黄褐色土　ロームブロックを多量に混入する。6′はロームブロックの混入量が極めて多い。

7　暗褐色土　ローム粒子微量混入。

0　4m

第26図　B区第5号方形周溝墓(2)

よう。周溝横断面形は逆台形で、総じて方台部側の方が外縁部に比して鋭く立上がる傾向にある。周溝規模は北溝が最大幅7.48m、深さ0.90m、東溝が最大幅3.00m、深さ0.75m、南溝が最大幅2.52m、深さ0.82m、西溝が最大幅3.76m、深さ0.58mである。

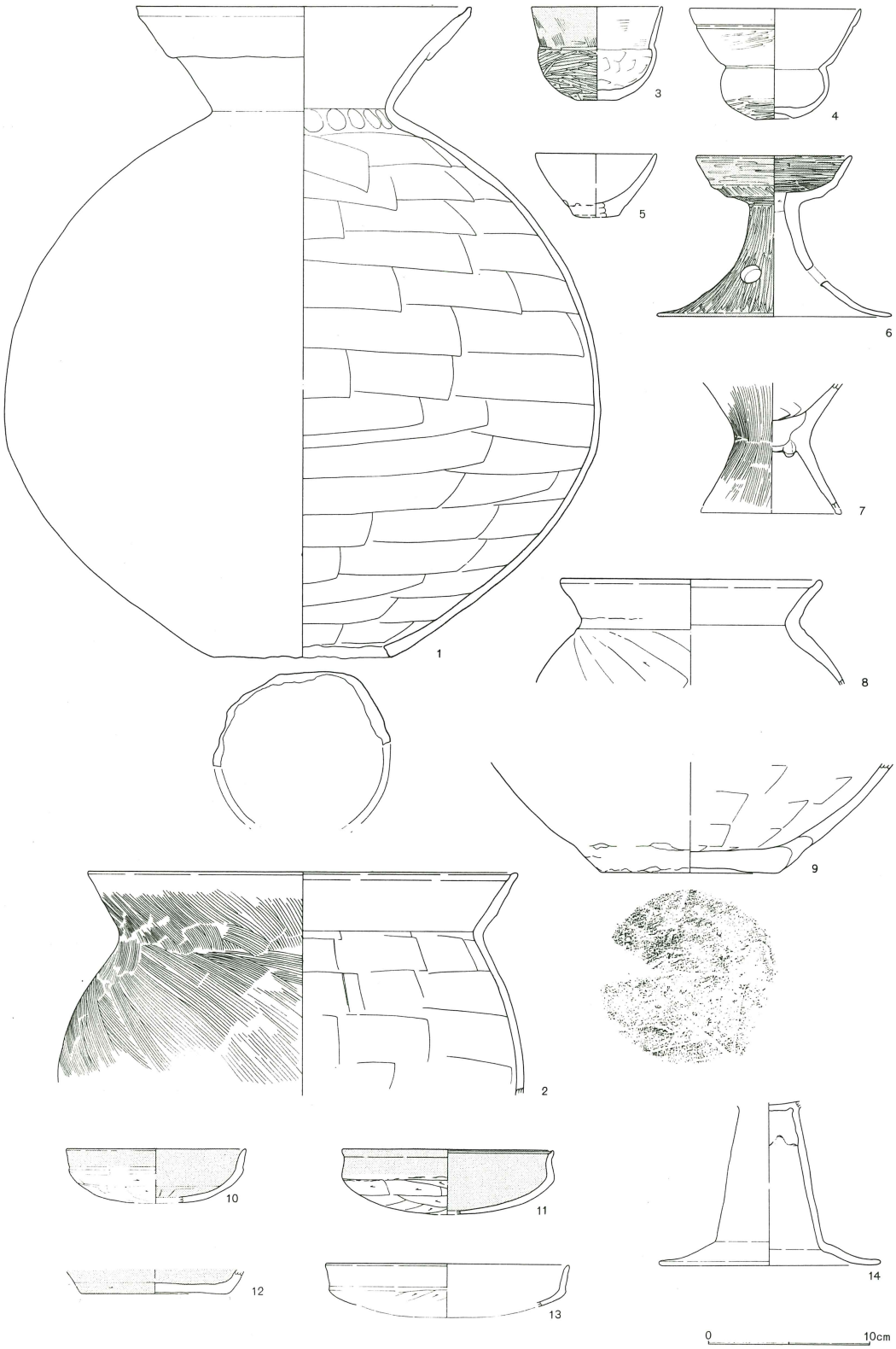
覆土は8層に分かれる。第1層中には7世紀から8世紀、一部は9世紀代の土器が多量に含まれていた。特に遺構が切り込んでいるという状況は認められず、周溝の一部は9世紀頃まで窪地として残っていた可能性がある。基本的に第一次堆積層はロームが多量に含まれること、方台部側から流入していることから方台部盛土の崩落土と推定される。

出土遺物は壺、小形坩、小形鉢？、小形器台、台付甕、高坏の他、第1層及び重複遺構から出土した古墳時代後期以降の土器がある(第27・28図)。周溝墓に伴う可能性のある土器は主に南溝から出土し、北溝のブリッジ部の周囲からは検出されなかった。第27図1の壺と3・4の小形坩、6の小形器台は南溝から出土した。

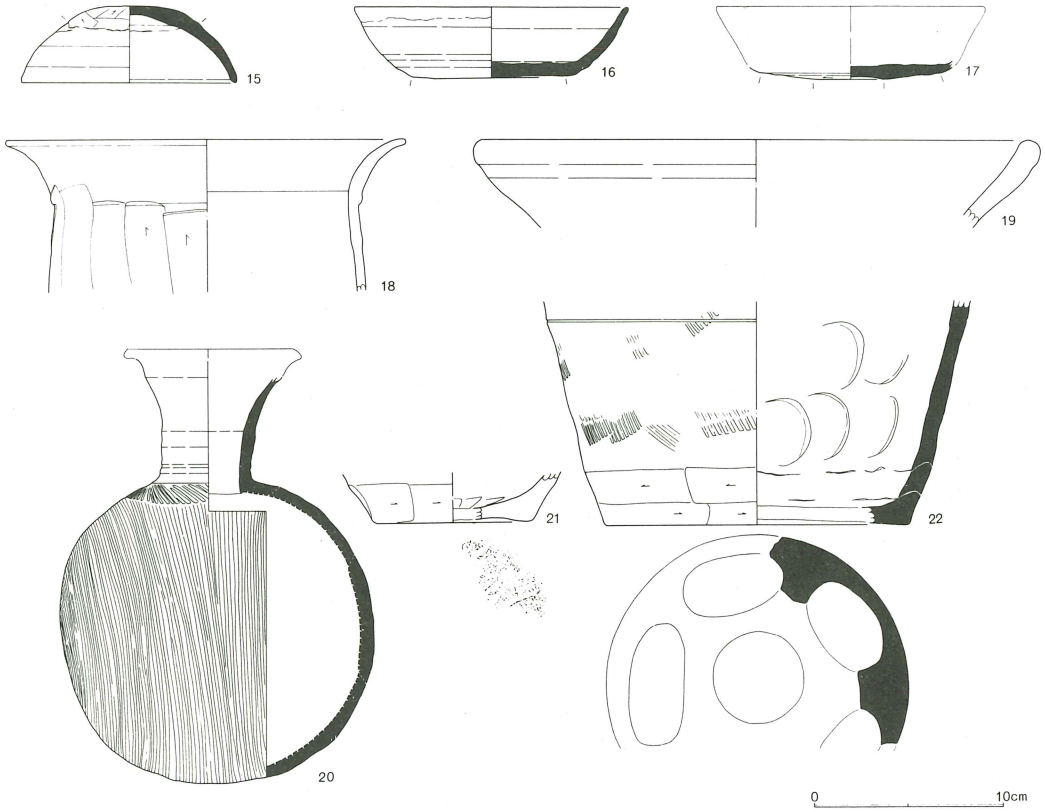
第27図1は南溝底面から出土した複合口縁の壺で、底部は焼成後、筒抜け状に穿孔されていた。全体に風化が激しく外面の調整は不明。2の甕は口縁から胴部にかけて刷毛目整形、口縁部上半はヨコナデにより刷毛目を消している。3・4は小形坩で、前者は口縁部が直立気味、後者の口縁部は大きく開き、一条の沈線が巡る。7は台付甕か。脚部は矮小化している。14の高坏は器壁が薄く裾部は強く屈曲する。12は土師器坏か。底部及び体部下端は回転ヘラケズリされ、内外面、底面は赤彩。胎土には白色針状物質が多量に含まれる。15は須恵器蓋で、天井部は手持ちヘラケズリ、口唇部は内傾する面をもつ。20は北溝第1層出土のフラスコ形瓶。南比企窯跡群産である。

B区第5号方形周溝墓出土遺物観察表(第25・26図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	壺	20.7	40.0		ABCJ	C	にぶい黄橙	70%	No.4 南溝壙底 底部穿孔
2	甕	26.4	13.7		AEJ	B	浅黄橙	60%	No.10 北溝壙底
3	小形坩	(8.0)	5.7	2.5	ABC	A	橙	50%	No.3 南溝覆土(+10cm) 赤彩外面のみ
4	小形坩	10.4	6.8	2.3	ABC	B	橙	90%	No.5 南溝覆土(+25cm) 底部上げ底
5	小形鉢	(7.4)	3.9	(2.8)	ABC	B	明黄褐	20%	南溝覆土 外面風化 内面ナデか
6	小形器台	9.4	6.0	14.1	AB	A	にぶい黄橙	60%	No.6 南溝壙底 赤彩 全体に風化
7	台付甕		7.6		ABC	B	にぶい橙	40%	南溝覆土 脚部内面雑なナデ
8	壺	(16.0)	6.5		ABC	C	橙	20%	覆土 風化により整形不明瞭
9	壺		6.7	11.7	ABC	B	浅黄橙	70%	北溝壙底 底部木葉痕残る
10	坏	(11.0)	3.0		ABC	A	橙	40%	北溝覆土 赤彩
11	坏	(13.0)	4.0		ABC	A	にぶい橙	40%	北東隅部覆土 赤彩 沈線あり
12	盤状坏		1.5	9.0	AC	A	淡橙	60%	覆土 ロクロ整形 残存部全面赤彩
13	坏	(15.0)	2.6		AC	A	にぶい橙	10%	無彩 北溝覆土
14	高坏		10.0	(13.2)	ABJ	C	橙	35%	北西隅部覆土 整形不明瞭
15	蓋	11.2	4.0		AB	B	灰	90%	西溝覆土 産地不明
16	坏	14.4	3.8	8.1	ABC	B	灰	80%	No.2 北西隅部覆土上層(+40cm)
17	坏		0.9	9.4	ABC	A	灰	50%	覆土 底部中央糸切り痕残る
18	甕	(21.0)	8.0		ABC	B	橙	30%	北溝北西隅部覆土
19	鉢	(28.9)	4.6		AI	A	灰白	5%	北溝覆土 風化により整形不明瞭
20	フラスコ瓶		22.3		ABC	B	灰	95%	No.1 北溝覆土(+17cm)
21	甕		2.6	(8.0)	ABCJ	A	浅黄橙	35%	北溝覆土 底部木葉痕
22	甑		11.7	(8.0)	ABC	B	灰白	25%	北溝覆土



第27図　B区第５号方形周溝墓出土遺物（１）



第28図　B区第５号方形周溝墓出土遺物（２）

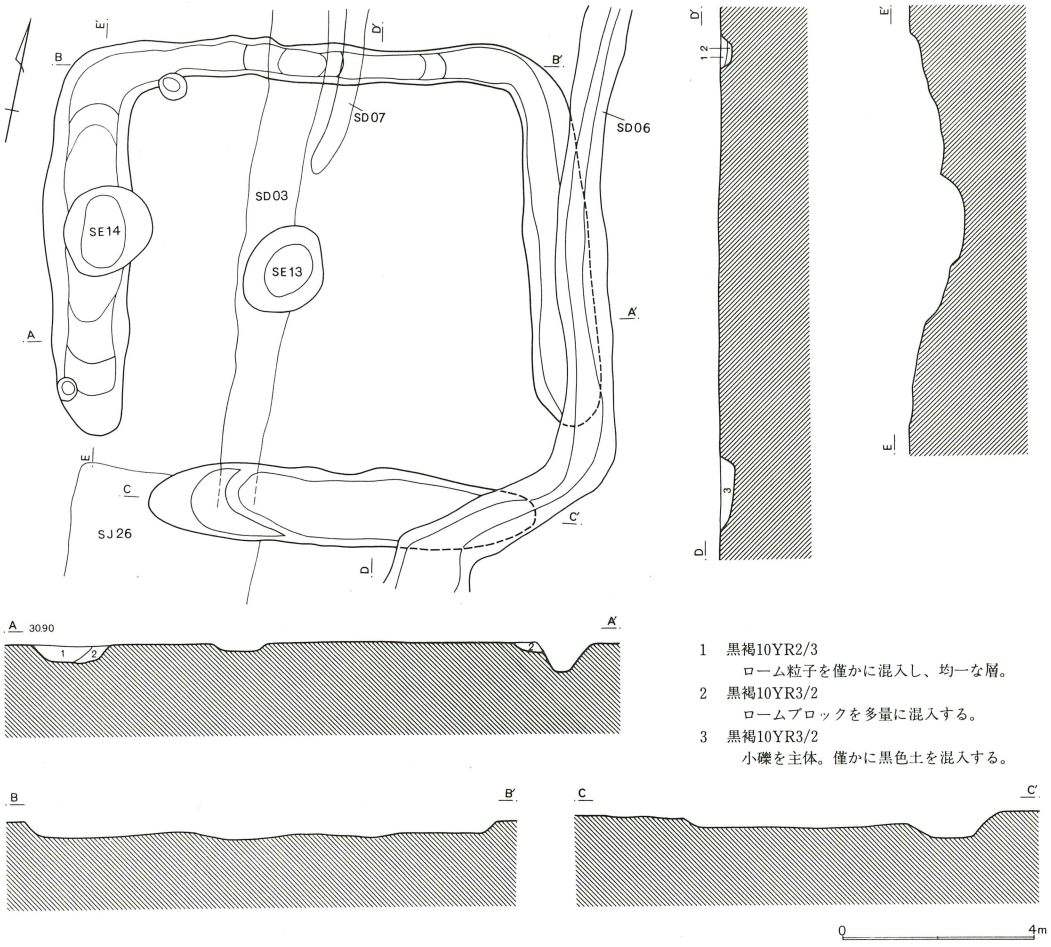
B区第６号方形周溝墓（第29図）

調査区西寄りのE・F-4・5区に位置し、東西及び北側に第３～５号周溝墓が近接して構築されていた。第26号住居跡を始め、井戸跡や溝跡の攪乱を受け遺存状態はあまり良くない。周溝形態は南西コーナーにブリッジをもつ。南東コーナーは第６号溝跡が周溝に沿うようにクランクしていたために正確な形態を捉えることはできなかったが、東溝方台部上面が丸みをもっていることから同様に溝が途切れる可能性がある。ここでは、一応南溝が独立し、南東コーナーと南西コーナーにブリッジをもつタイプと考えておきたい。方台部は方形を呈し、規模は東西長、南北長ともに8.04ｍと小形の周溝墓で、主軸方位はN－10°－Wを示す。

周溝は全体に幅狭で外縁部の膨らみはあまり目立たない。底面は中央部が一段深く掘り込まれている。横断面形は逆台形を基本とし、方台部側の立上がりが外縁部に比してより鋭い傾向にある。周溝規模は北溝が幅1.00ｍ、深さ0.35ｍ、東溝が幅1.04ｍ、深さ0.23ｍ、南溝が残存長7.40ｍ、幅1.64ｍ、深さ0.30ｍ、西溝が幅1.88ｍ、深さ0.70ｍを測る。

周溝覆土は黒褐色土を基調としていた。深度が浅いために詳細な堆積環境は明らかにできないが、南溝には小礫が多量に混入していた。

出土遺物は検出されなかった。



第29図　B区第6号方形周溝墓

B区第7号方形周溝墓(第30図)

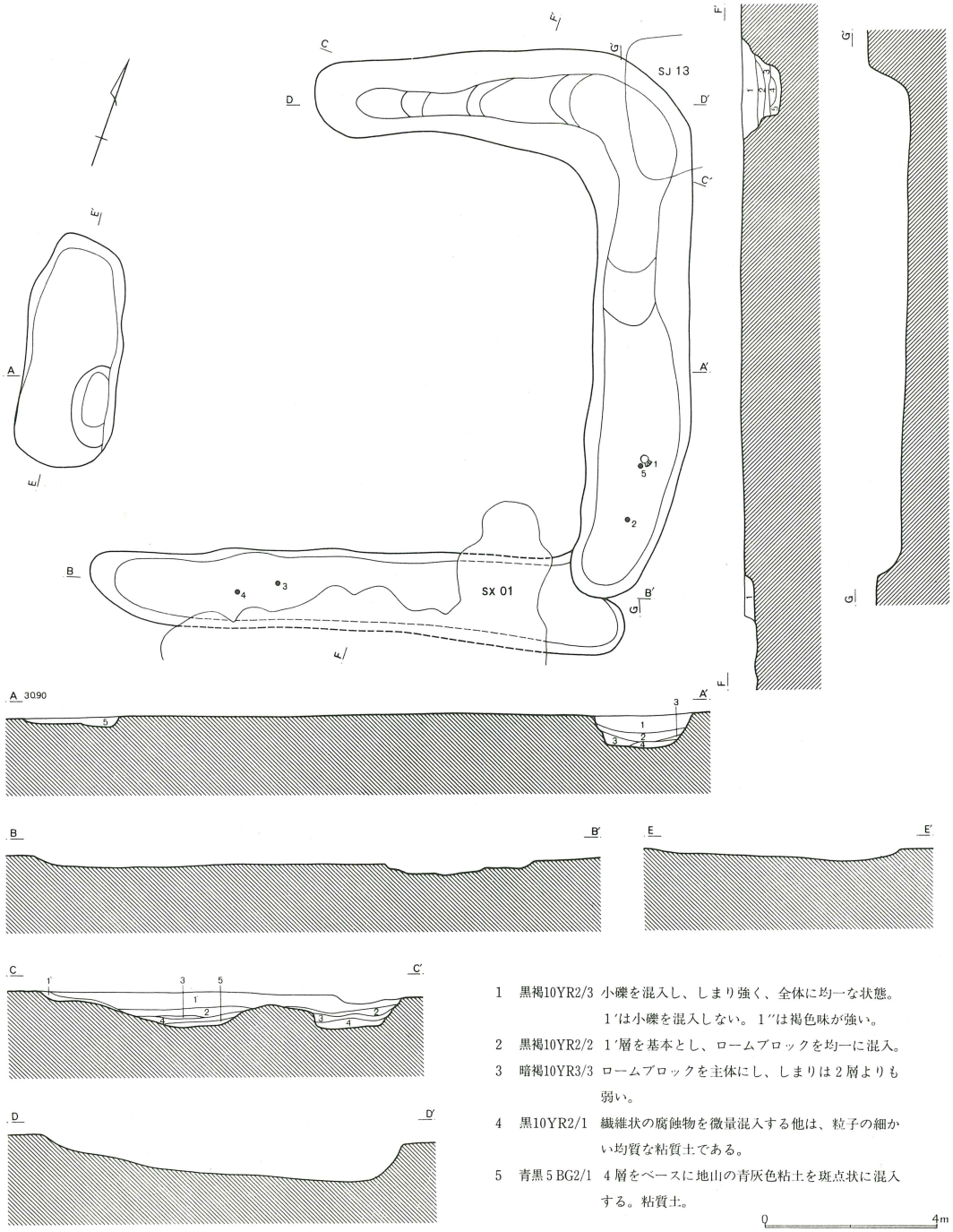
調査区西端のC・D-1～3区に位置し、東側1mには第2号周溝墓が隣接していた。北東コーナーは第11号住居跡、南溝上部は土壙群(SX01)に攪乱されていた。形態は一辺が独立し、3辺が「コ」の字状に連結するタイプで、方台部は東西に長軸を有する長方形を呈する。方台部の規模は東西長11.04m、南北長9.60m、主軸方位はN－19°－Wを示す。

周溝は北溝と東溝が概して深く、南溝と西溝が浅い。北東コーナーの方台部側にはテラス状の段差が認められたが、おそらく、壁が崩落したもので本来はこのテラスまでが方台部として機能したものと推定される。底面は全体としては比較的平坦である。但し北溝では段差が認められ、西溝の方台部直下には浅い土壙状の窪みが検出された。横断面は概ね逆台形を呈し、方台部寄りの壁の方が鋭く立上がる傾向にある。規模は北溝が幅2.00m(テラスから外縁部まで)、深さ1.00m、東溝が幅2.28m、深さ1.00m、南溝が幅2.28m、深さ0.25m、西溝が長さ5.48m、幅2.28m、深さ0.23mを測る。

周溝覆土は6層に分かれる。北溝から東溝の最下層には青灰色から黒色の有機質粘土が堆積して

おり、常時湛水するような環境だったのかもしれない。その上部には方台部盛土に起因すると思われるロームブロックを多量に含む第3層、第6層が堆積したものと考えられる。ただ、南溝の堆積土には小礫が多量に含まれ、他の溝の状況と同一には捉えられなかった。

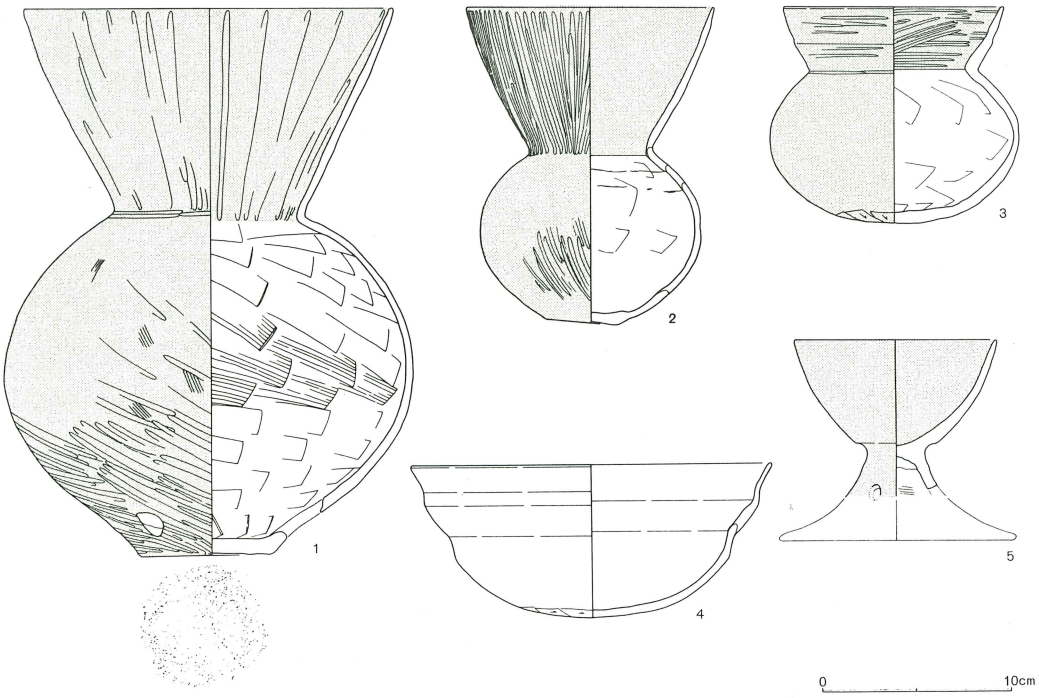
陸橋部は北溝の長さが極端に短いために北西側が5.80mと大きく空いていた。南西側の陸橋部の



第30図　B区第7号方形周溝墓

幅は2.20ｍと比較的狭い。

出土遺物は少なく、坩、小形坩、屈曲口縁鉢、小形高坏が検出されている。第31図１・２・５は東溝南半の覆土下層～中層、３・４は南溝の覆土下層から出土した。１は平底の坩で、胴部下位に焼成後の穿孔と思われる小孔が穿たれていた。２はやや小形の坩で穿孔は施されない。３は小形の壺で口縁中位に弱い稜をもつ。器面が剥落し調整は不明瞭。４は屈曲口縁鉢で、体部は風化が激しく調整は不明瞭。５の高坏は口縁部が深く、下端部に稜を有する。脚部は欠失。風化が著しく調整は不明。



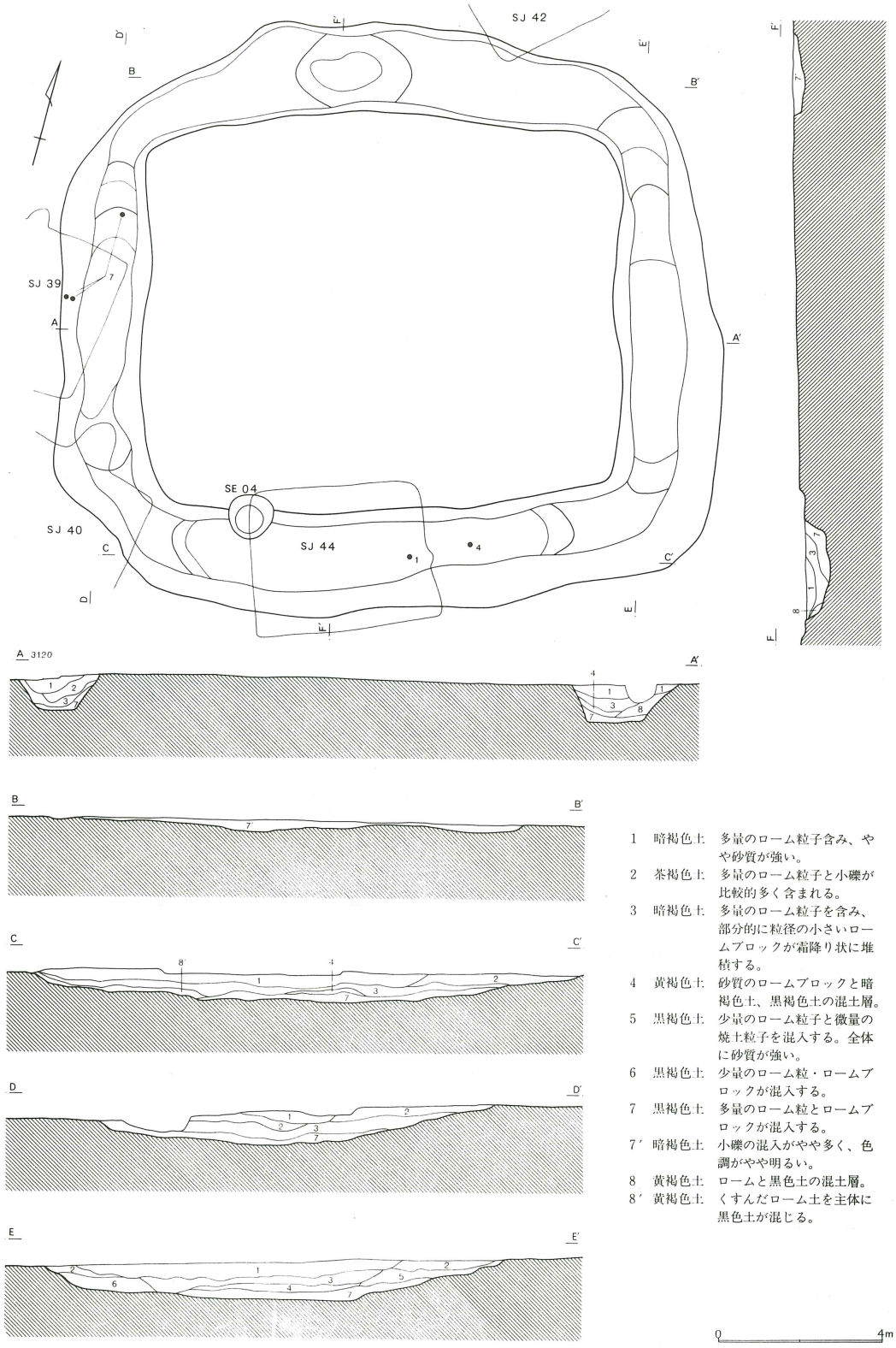
第31図　Ｂ区第７号方形周溝墓出土遺物

Ｂ区第７号方形周溝墓出土遺物観察表（第31図）

番号	器　種	口　径	器高	底　径	胎　　土	焼成	色　調	残存	出土位置・その他
1	坩	19.4	29.7	6.8	ＡＢＣＪ	Ｂ	黄橙	95％	No.3　東溝覆土下層（＋7cm）　赤彩
2	坩	13.0	16.6	3.7	ＡＢＣ	Ｂ	橙	80％	No.1　東溝覆土（＋7cm）　赤彩
3	小形坩	11.5	11.4		ＡＢＣ	Ｂ	橙	80％	No.4　南溝覆土下層（＋5cm）　赤彩
4	鉢	(19.0)	8.0		ＡＢＣ	Ｂ	浅黄橙	80％	No.5　南溝壙底　赤彩痕わずかに残る
5	小形高坏	10.6	8.2		ＡＢＣＥ	Ｂ	浅黄橙	75％	No.2　東溝覆土（＋18cm）　赤彩

Ｂ区第８号方形周溝墓（第32図）

調査区中央部のＣ・Ｄ－７～９区に位置する。北側に16号、東側に９号、南西側に15号周溝墓が近接して構築されていた。周溝から方台部は古墳時代後期と平安時代の４軒の住居跡及び第４号井戸跡の攪乱を受けていた。第42号住居跡の年代からみて、７世紀後半までには周溝は埋没していたと見てよいであろう。但し、方台部に掛かる住居跡は第44号住居跡のみで、方台部盛土が存在したか



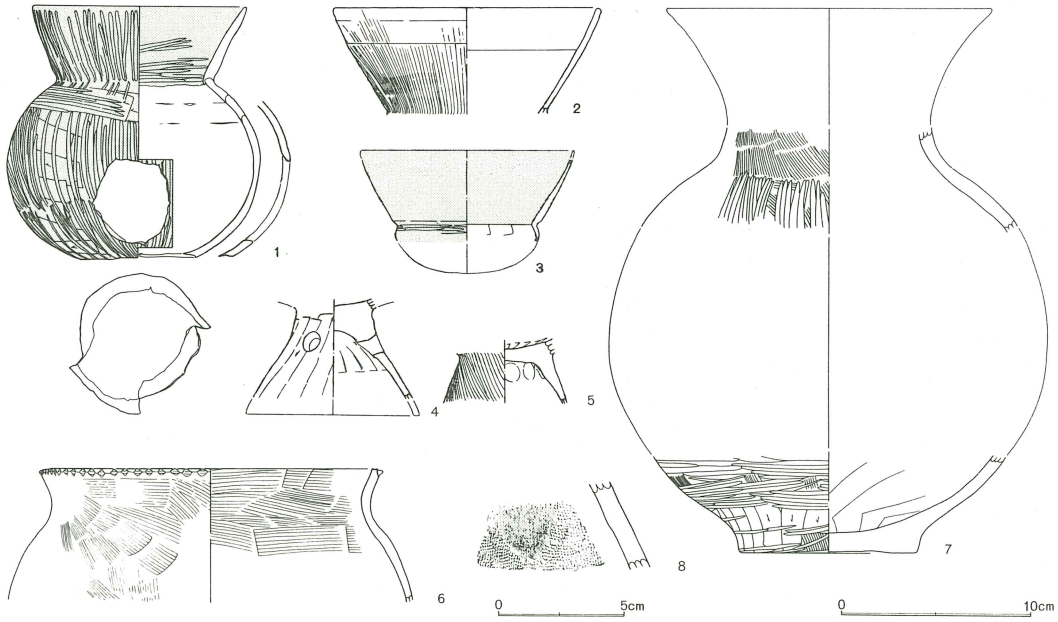
第32図　B区第8号方形周溝墓

否かは不明である。平面形態は全周型に属し、方台部は概ね長方形を呈するが、東辺を除く各辺は中央部が外側にやや膨らみ気味となっている。方台部上面の規模は東西長11.60m、南北長9.60m、主軸方位はN－18°－Wを示す。

周溝は方台部形態に添うように外縁部中央が外に張り出しており、全体としては隅丸方形に近い形態を採る。深さは北溝が著しく浅く、他の溝は比較的深い。周溝底面は各コーナーが全体に浅く、中心部に向かって船底状に深くなっていた。横断面形は総じて逆台形を呈し、方台部側の壁の立上がりは鋭く、外縁部側がやや緩やかな傾向が認められた。周溝の規模を列挙すると、北溝が幅2.36m、深さ0.32m、東溝が幅2.56m、深さ0.96m、南溝が幅2.52m、深さ0.76m、西溝が幅2.32m、深さ0.84mを測る。

周溝覆土は大きく8層に分かれる。第6層を除くと各層ともロームの混入量が比較的多い。第7層が一次堆積土で、堆積状態から方台部盛土の崩落土を主体とした模様である。堆積状態は自然堆積と思われ、特に溝内埋葬が行われたような形跡は認められなかった。

出土遺物は少なく、南溝と西溝に偏在する。器種としては小形坩と坩類、壺、高坏、台付甕がある。第33図1はやや小形の坩で、胴部と底部に孔が空いている。焼成後、故意に穿孔された可能性がある。3はいわゆる小形丸底坩である。風化により調整は不明瞭であるがヘラミガキと赤彩痕が僅かに残されていた。4は高坏脚部片で端部を欠いている。短脚で内弯気味に開くものと考えられる。6は台付甕と思われる。口唇部に刷毛目原体を使用した刻み目が施され、内外面ともに刷毛目調整されている。7は壺。口縁部と胴部中位を欠失しているが胎土、調整などから同一個体と思われる。外面は刷毛目調整後ヘラミガキ、胴部下端はヘラケズリがみえる。底部は穿孔されない。8は壺の胴部上半と思われ、無区画の細かい縄文が山形、或いは鋸歯状に施文される。縄文以外の部分はヘラミガキと赤彩が施されていた。



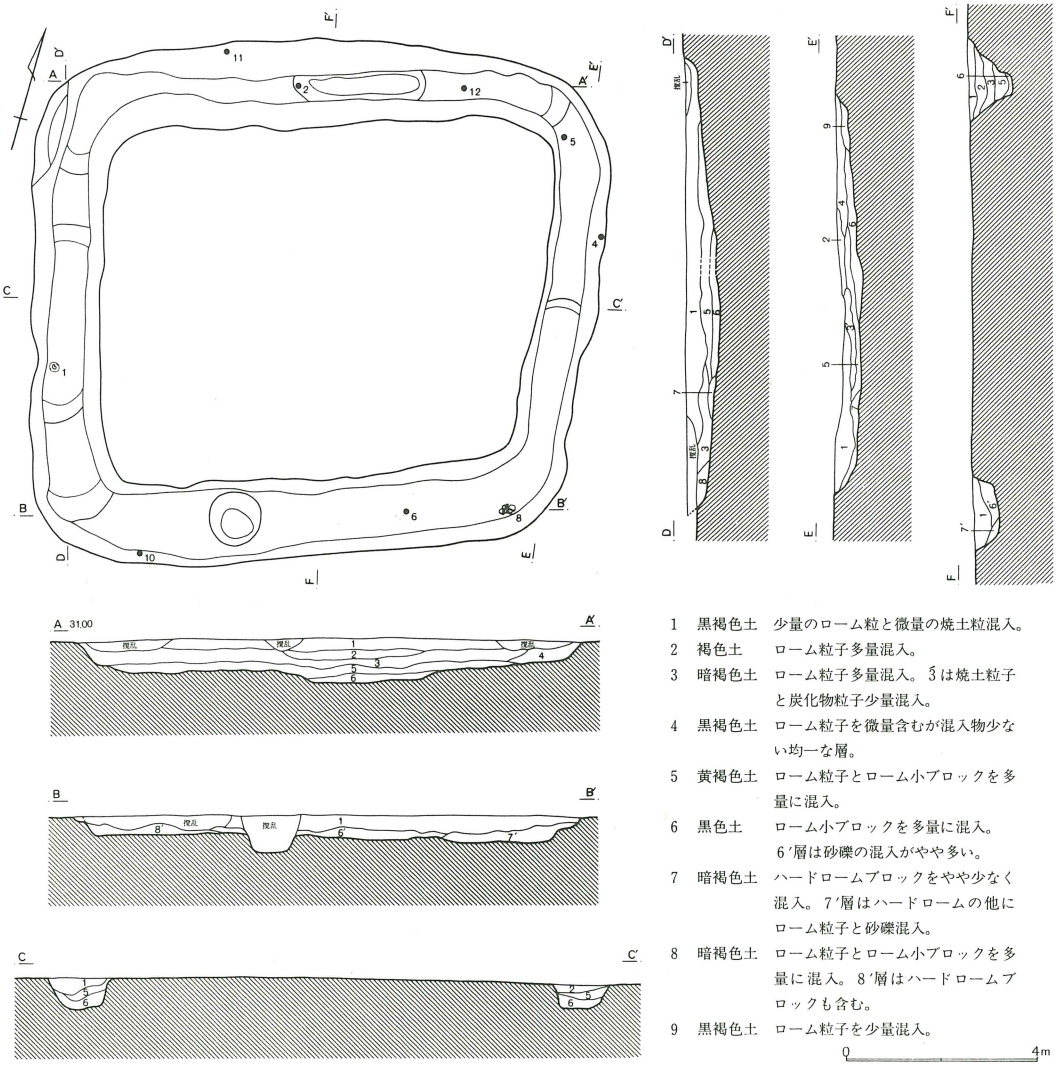
第33図　B区第8号方形周溝墓出土遺物

B区第8号方形周溝墓出土遺物観察表(第33図)

番号	器　種	口　径	器高	底　径	胎　土	焼成	色　調	残存	出土位置・その他
1	坩	11.1	13.3		ABC	A	橙	80%	No.2　南溝覆土下層(+6cm)　赤彩
2	坩	(14.0)	5.5		ABC	A	橙	25%	南溝覆土　胴部欠失
3	小形坩		4.3		ABC	B	橙	40%	南溝覆土　赤彩　整形不明瞭
4	高　坏		5.2		ABC	A	橙	60%	No.1　南溝覆土(+40cm)　透孔は3ヶ
5	台付甕		3.2		ACJ	B	橙	35%	東溝覆土
6	甕	(17.0)	7.0		ABC	A	暗褐	15%	西溝覆土
7	壺			9.3	ABCE	A	にぶい橙	75%	No.3,4,6　西溝覆土(+20cm)
8	壺				AC	A	橙		西溝覆土　無区画縄文帯　赤彩

B区第9号方形周溝墓(第34図)

B・C-8・9区に位置し、第8号、第10号周溝墓の間に構築されていた。両周溝墓とは約1.2m隔



第34図　B区第9号方形周溝墓

たり直接の切り合い関係はない。しかし、８号及び10号周溝墓は主軸をやや異にしているにも拘わらず、本周溝墓の西溝と東溝はそれぞれの周溝に規制されたかのように平行しており結果的に形態は歪んでいる。特に東溝は第10号周溝墓を避けているようにもみえ、遺構から見る限り本住居の方が新しい可能性がある。周溝上は第51号住居跡と耕作による攪乱土が乗っており、また南溝は井戸状の土壙に攪乱されていた。形態は全周型に属し、方台部は前述したように東辺が歪み、台形状を呈する。各辺は比較的直線的で、コーナーは丸みを帯びる。方台部上面の規模は東西長9.44ｍ(北辺)、南北長7.40ｍ、主軸方位はＮ－17°－Ｗを示す。

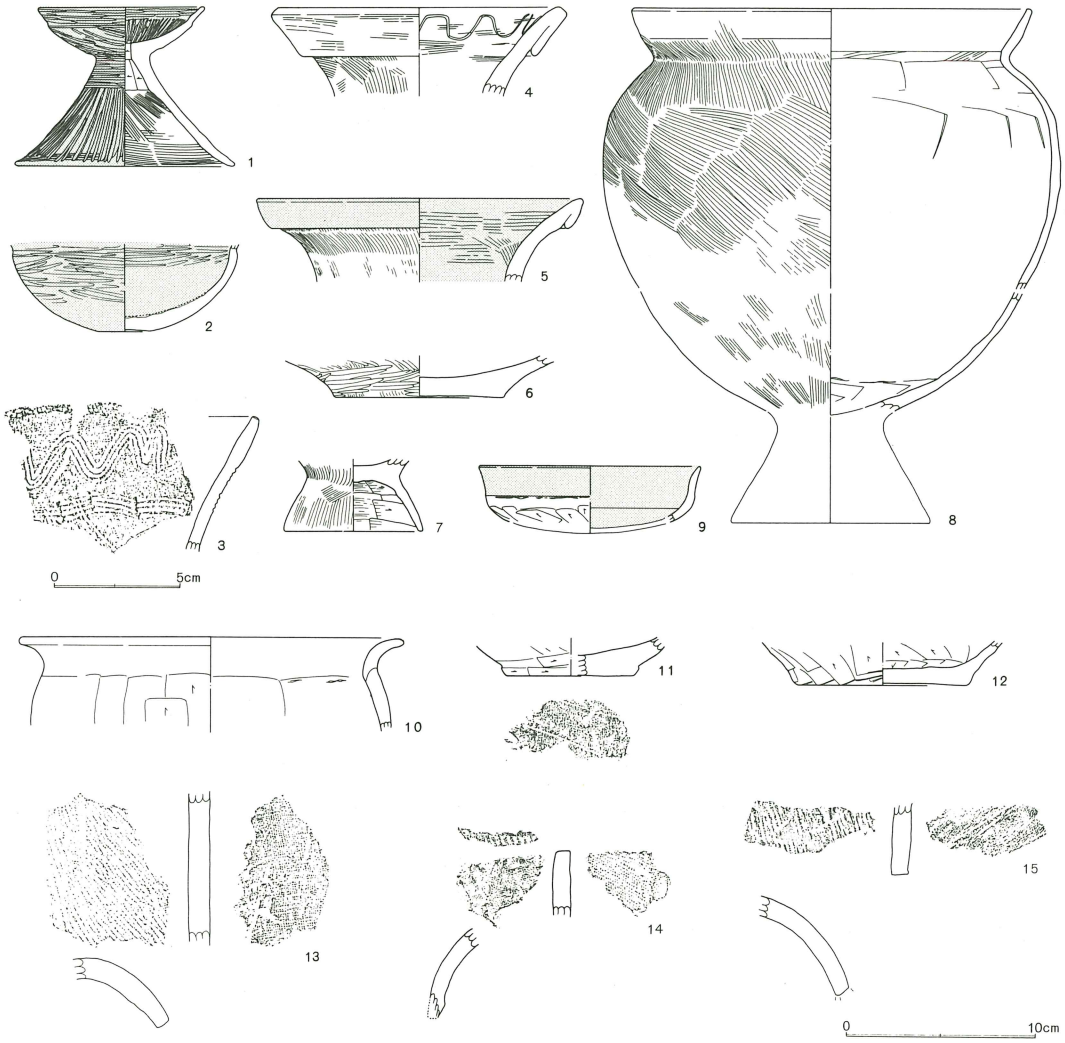
周溝は全体に幅狭で、外縁部は大きく張り出す部分は見られず概ね直線的といえる。底面は小さな凹凸が顕著で、北溝と西溝は中央部が長楕円の土壙状に窪んでいた。深度は北溝が深く、東溝と南溝がやや浅い。断面形は基本的に逆台形を呈し、総じて方台部側の壁の方が外縁部に比して立上がり角度は急である。周溝の規模は北溝が幅1.92ｍ、深さ0.96ｍ、東溝が幅1.24ｍ、深さ0.56ｍ、南溝が幅1.80ｍ、深さ0.60ｍ、西溝が幅1.80ｍ、深さ0.72ｍを測る。

周溝覆土は大きく９層に分かれる。基本的には第５～８層が方台部盛土に由来する堆積土と考えられる。但し第７′層は南溝の堆積状態から外縁部からの流入土、または壁の崩落土であろう。

出土遺物は少なく、壺、小形鉢、小形器台、台付甕が検出された。出土位置は各溝にわたっており、特定箇所に纏まる様子は見られない。第35図１は小形器台で西溝の覆土下層から出土。２は鉢か。底面は僅かに凹む。３は櫛描文系の甕で、４本単位の櫛歯状工具によって口縁直下から波状文、等間隔止の簾状文、斜行文が施され、口唇部には縄文が巡る。施文順位は簾状文を斜行文が切っている。胎土に白色針状物質が少量含まれ在地で生産されたものと考えられる。弥生時代の混入品と思われる。４は折り返し口縁の壺で、口縁部内面にヘラ状工具により波状文が施される。７は台付甕脚部で非常に小形である。８は台付甕で、胴部上位に最大径をもつ。口縁部は刷毛目後、上半をヨコナデされる。９～15は後世の混入品。13～15は小形の丸瓦で凸面は平行叩き、凹面は布目、15は布目をなで消す。14は狭端面にも平行叩きが施される。

Ｂ区第９号方形周溝墓出土遺物観察表(第35図)

番号	器　種	口　径	器高	底　径	胎　土	焼成	色　調	残存	出土位置・その他
1	小形器台	8.5	8.4	11.1	ＡＣＨ	Ａ	橙	85%	No.15　西溝覆土下層(＋15cm)　赤彩
2	鉢		4.5		ＡＣ	Ａ	橙	25%	No.11　北溝覆土(＋18cm)　赤彩
3	甕				ＡＣ	Ｂ	褐	10%	西溝覆土　櫛描文系土器
4	壺	(14.8)	4.6		ＡＢＣ	Ａ	橙	20%	No.2　東溝肩部覆土(＋25cm)　無彩
5	壺	(17.0)	4.4		ＡＪ	Ａ	橙	35%	No.14　東溝覆土(＋25cm)　赤彩
6	壺		2.2	(9.2)	ＡＢＣ	Ａ	浅黄橙	55%	No.5　南溝壙底
7	台付甕		3.8	3.6	ＡＢＣＪ	Ａ	にぶい黄橙	50%	南溝覆土
8	台付甕	(20.8)	21.1		ＡＣ	Ａ	にぶい橙	20%	No.3　南溝覆土(＋33cm)
9	坏	(11.6)	3.0		ＡＣ	Ａ	橙	20%	西溝覆土　赤彩
10	甕	(19.8)	4.8		ＡＢＣＦ	Ｂ	橙	20%	No.7　南溝覆土(＋13cm)
11	甕	(19.8)	4.8		ＡＢＣＦ	Ａ	橙	45%	No.8　北溝覆土(＋22cm)
12	壺		2.3	9.0	ＡＢＪ	Ａ	にぶい黄橙	70%	No.12　北溝覆土(＋34cm)
13	丸　瓦				ＡＢＣ	Ａ	淡黄		南溝覆土
14	丸　瓦				ＡＢＣ	Ｂ	灰白		南溝覆土
15	丸　瓦				ＡＢＣ	Ａ	浅黄橙		北溝覆土



第35図　B区第９号方形周溝墓出土遺物

B区第10号方形周溝墓(第36図)

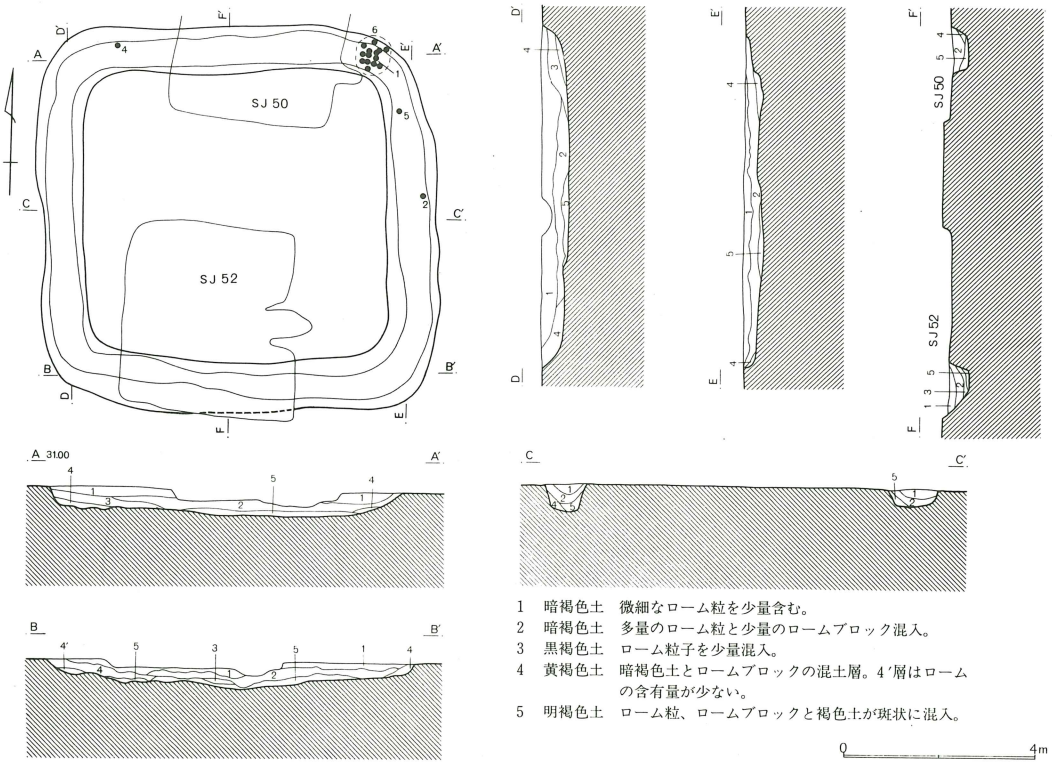
調査区中央からやや東に寄ったB・C-10区に位置する。西側に第９号周溝墓が近接し、東側から南にかけては集落域となっている。上面は第50～52号住居跡により攪乱され、遺存状態はあまり良くない。形態は周溝が全周するタイプで、方台部はほぼ方形を呈する。方台部の規模は東西長6.40m、南北長6.00mと南北が僅かに長く、規模としては小形の部類に入る。各コーナーは丸みをもち、南辺は僅かに外側に張り出していた。主軸方位はN－7°－Wを示す。

周溝はほぼ一定の幅で巡り、外縁部の膨らみも目立たない。底面は小さい凹凸が顕著であるが全体的には比較的平坦である。断面形は逆台形を呈し、総じて方台部側の方が壁の立上がり角度は急である。周溝の規模は北溝が幅1.04m、深さ0.46m、東溝が幅1.12m、深さ0.42m、南溝が幅1.20m、深さ0.53m、西溝が幅1.00m、深さ0.60mを測る。

周溝覆土は大きく５層に分かれる。第１層と３層を除くと全体にロームの混入が多く、第５層は

堆積状況から、方台部盛土の崩落土を主要な堆積要因として形成されたものと推定される。重複住居は第１層を切って構築されていたことから、遅くとも９世紀後半までには周溝は完全に埋没し、且つ盛土も失われていたものと考えられる。

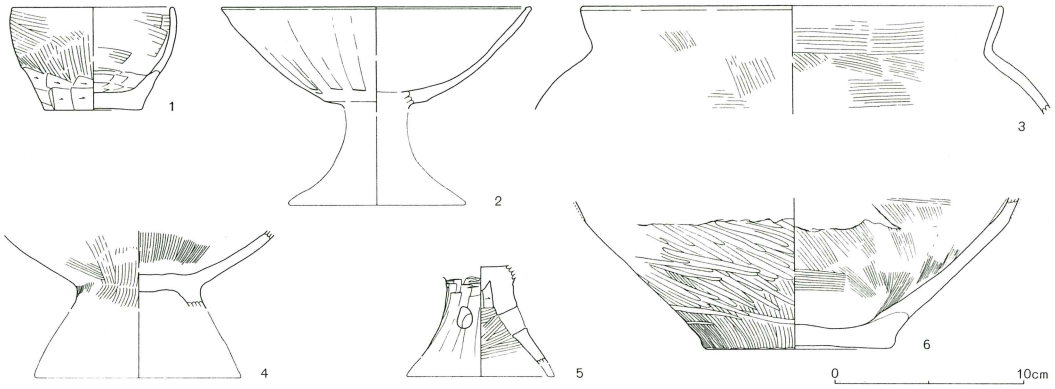
出土遺物は少ない。壺、台付甕、高坏、小形鉢が検出された。第37図１は小形の鉢で、口縁付近は刷毛目後ナデ、体部下半はヘラケズリ調整される。２の高坏は口唇部に平坦な面をもつ。坏部外面はヘラナデ後丁寧なナデ調整される。脚部は欠失する。３は台付甕で口径はかなり大きくなる。口縁部は「く」の字に屈曲する。風化が著しく刷毛目は不明瞭。５は高坏脚部片である。低脚で端部を欠き裾部は内弯気味に開く。透穴は３孔穿たれている。６の壺は北東コーナーの外部から流入したような状態で出土した。外面刷毛目後ヘラミガキ、内面は木口ナデ、内面の接合面にも木口状工具痕がみえる。



第36図　Ｂ区第10号方形周溝墓

Ｂ区第10号方形周溝墓出土遺物観察表（第37図）

番号	器　種	口　径	器高	底　径	胎　土	焼成	色　調	残存	出土位置・その他
1	鉢	(8.4)	5.4	5.2	ＡＢＣ	Ａ	にぶい黄橙	25%	No.43　北溝覆土（＋10cm）
2	高　坏	(18.3)	5.4		ＡＣ	Ａ	橙	20%	No.37　東溝覆土（＋10cm）
3	甕	(22.0)	5.7		ＡＥＦＪ	Ｃ	橙	80%	西溝覆土　全体に風化し整形不明瞭
4	台付甕		4.1		ＡＢＣＪ	Ｂ	橙	40%	No.25　北溝覆土下層（＋6cm）
5	高　坏		5.0		ＡＢＣ	Ａ	橙	80%	No.30　東溝壙底　3方透し
6	壺		7.8	9.7	ＡＨ	Ａ	橙	35%	No.4～13他　北溝覆土（＋5～20cm）

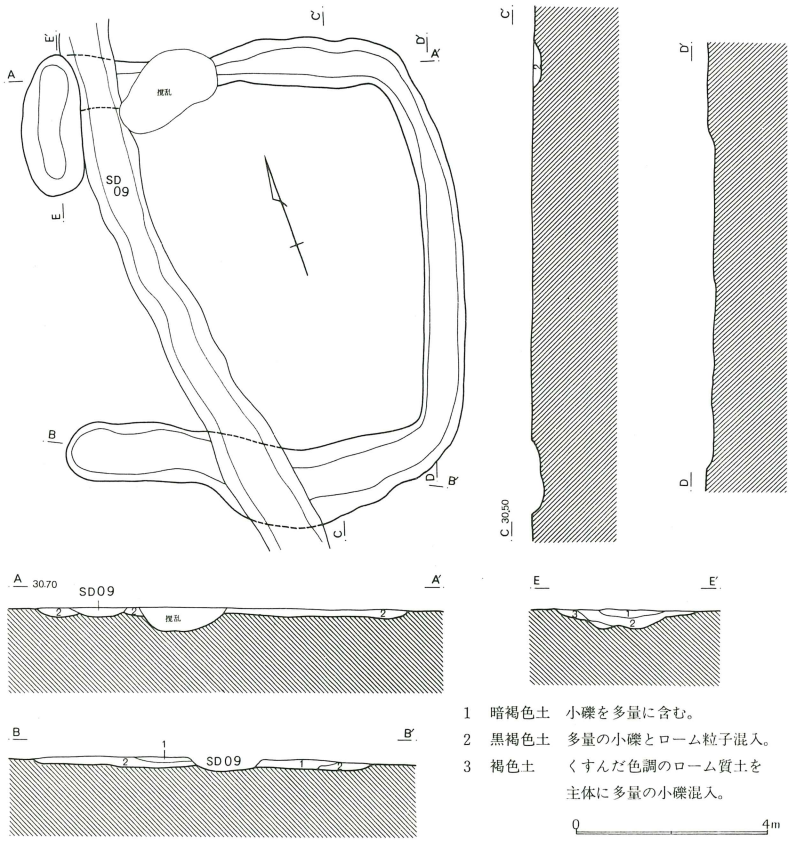


第37図　B区第10号方形周溝墓出土遺物

B区第11号方形周溝墓(第38図)

調査区東端のC-13･14区に位置する。台地肩部に立地し、東側はC区との境をなす谷状地形に移行する。北西側に2.5m程離れた位置には第12号周溝墓が構築されていた。周溝及び方台部は第9号溝跡及び時期不明の土壙によって攪乱され、また深度が極めて浅いために遺存状態はかなり悪い。平面形態は西溝が途中で途切れる一隅切れタイプではあるが、陸橋部は幅広く一辺が切れるタイプにより近いといえる。方台部は不整方形を呈し、各辺はかなり歪みをもつ。方台部の規模は東西長6.80m、南北長7.56m、主軸方位は凡そN－20°－Eを示し、周溝墓群中、最も東寄りに軸が振れていた。

周溝は西溝を除くと全体に掘り込みが浅く、南溝は蛇行したような様相が窺われる等、一定しない。北溝から西溝にかけては、幅0.65m～1.60mと溝幅は一定しない。深さも10～20cmほどと極めて浅い。

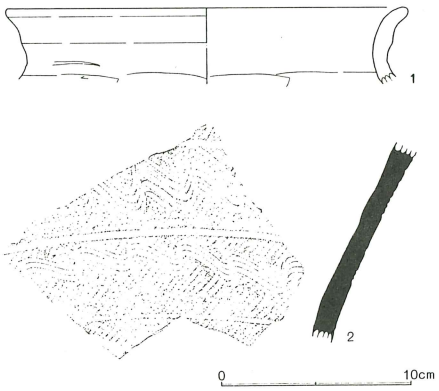


第38図　B区第11号方形周溝墓

底面は基底部の礫層の影響もあり全体に細かい凹凸が顕著で側壁の立上がりも総じて緩やかである。西溝は長さ2.96ｍの楕円形を呈し、深さは45cmと他の溝に比して深い。底面は中央が深くなり、横断面形は逆台形に近い形態となる。

周溝覆土は３層に分かれるが、全体に礫が多量に含まれ、大きな土層変化とはいえない。

出土遺物は南溝覆土から壺の胴部片が検出されたに留まり、図示した土師器壺（第39図１）と須恵器甕（２）は混入遺物である。



第39図　Ｂ区第11号方形周溝墓出土遺物

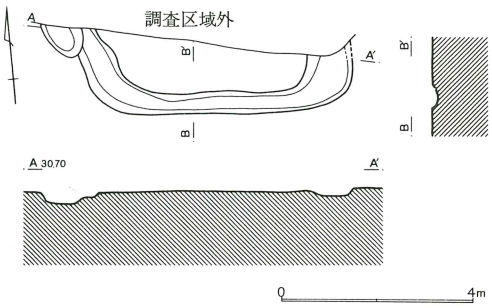
Ｂ区第11号方形周溝墓出土遺物観察表（第39図）

番号	器　種	口　径	器高	底　径	胎　　土	焼成	色　調	残存	出土位置・その他
1	壺	(21.0)	4.0		ＡＢＣＪ	Ｂ	にぶい黄橙	20%	南溝覆土
2	甕				ＡＢＣ	Ｂ	灰		南溝覆土　外面波状文

Ｂ区第12号方形周溝墓（第40図）

調査区北東部のＢ-13区に位置する。調査区外に延びるため、南周溝から左右のコーナー部が検出されたのみで遺構の形態、規模は不明である。主軸方位も概ね北を指向しているが基準ラインが得られない。

南溝は中央部で幅40cmと非常に幅狭で、東側コーナーはやや幅広となり鋭く屈曲する。西側コーナーのカーブは緩やかで外に大きく開き、ピットの攪乱を受けていた。底面はほぼ平坦で土壙状の掘り込みは認められなかった。覆土はローム粒子を多量に含む暗褐色土と、くすんだ色調のローム質土を主体とする黄褐色土に分かれるが、両層ともに小礫がやや多く混入し大きな相違は見られなかった。



第40図　Ｂ区第12号方形周溝墓

図化可能な遺物はない。

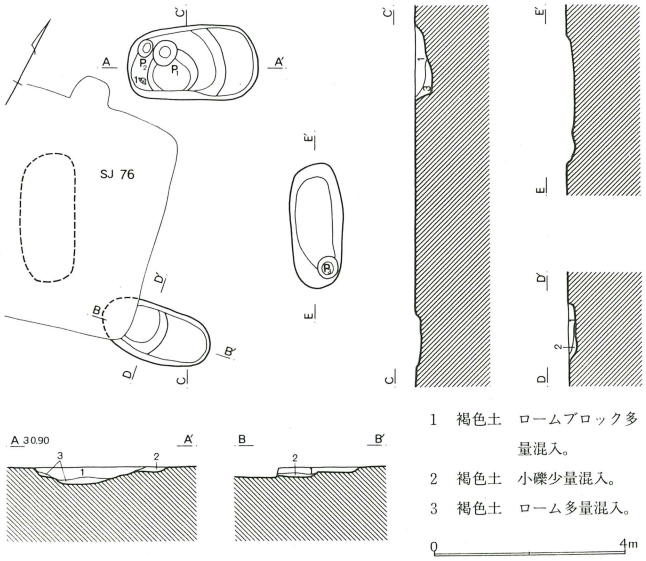
Ｂ区第13号方形周溝墓（第41図）

調査区東寄りのＣ・Ｄ-12・13区に位置し、第76号住居跡と３本のピットの攪乱を受けていた。台地奥部に単独で立地し、最も近接する第11号周溝墓とは約6.5ｍ隔たっている。平面形態は、重複住居により南溝の一部と西溝に相当する部分が削平されているため確定できないが、おそらく四隅切れと考えてよいであろう。方台部の形態は南辺が南東方向に向かって開いているため、台形となる可能性が高い。方台部の規模は東西の残存長3.20ｍ、南北長は最短部で4.16ｍを測る。何れにしても規模としては最も小形の範疇に入るものと考えられる。主軸方位はＮ－15°－Ｗを示す。

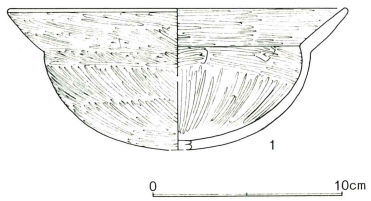
周溝は北溝が最も深く、東溝と西溝は非常に浅い。西溝についても重複住居の床面下に遺存する

部分が検出されなかったことから見て、同様に深度が浅かったものと思われる。周溝断面形は基本的には逆台形で、方台部側の側壁の方が急角度で立上がる傾向にある。周溝の規模は、北溝は長さ2.76m、幅1.60m、深さ0.40mで、底面は西半に向かって深くなる。東溝は長さ2.60m、幅2.80m、深さ0.20m、底面は小さな凹凸が顕著であるが全体的には平坦である。南溝は残存長1.72m、幅1.20m、底面は西半に向かって若干深くなっていた。覆土は3層に分かれ、ロームと小礫混じりの褐色土を基調としていた。堆積環境の詳細は遺存状況が悪く判然としない。

出土遺物は丸底の鉢が1点、北溝の底面から8cm浮いた位置からから出土したのみである。



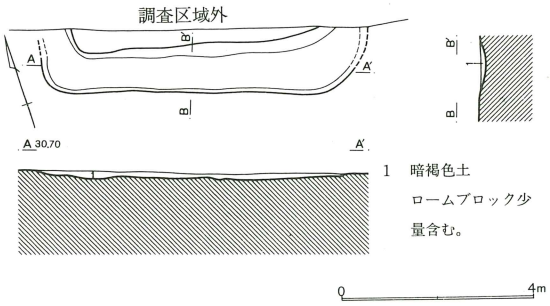
第41図1は有段口縁の鉢で底部は丸底となる。口径17.6cm、器高7.4cm。胎土に石英、白色粒子、白色針状物質を含む。焼成は良好で、色調は橙色。約40%が残存する。調整は全面ヘラミガキで一部ヘラケズリ痕が残る。赤彩は施されない。註記No.1。



第41図　B区第13号方形周溝墓・出土遺物

B区第14号方形周溝墓(第42図)

調査区北東部のB-12区に位置する。南溝と左右のコーナー部が僅かに検出されたが、大半は調査区外にあるため形態や規模等の詳細は不明である。西側コーナー部内壁がカーブしていることから見ると、平面形態は少なくとも四隅切れとはならないであろう。主軸方位は南溝に直交するものと仮定するとN－10°－Eを示す。



第42図　B区第14号方形周溝墓

南溝は幅0.80m～1.30mを測り東に向かってやや幅が広くなる。深さは10cm程と極めて浅く、コーナー部の周溝外縁は削平されており、外縁部のカーブは不明瞭である。周溝底面はほぼ平坦である。

覆土はロームブロックを含む暗褐色土単層で構成され、大きな土層変化は観察されなかった。

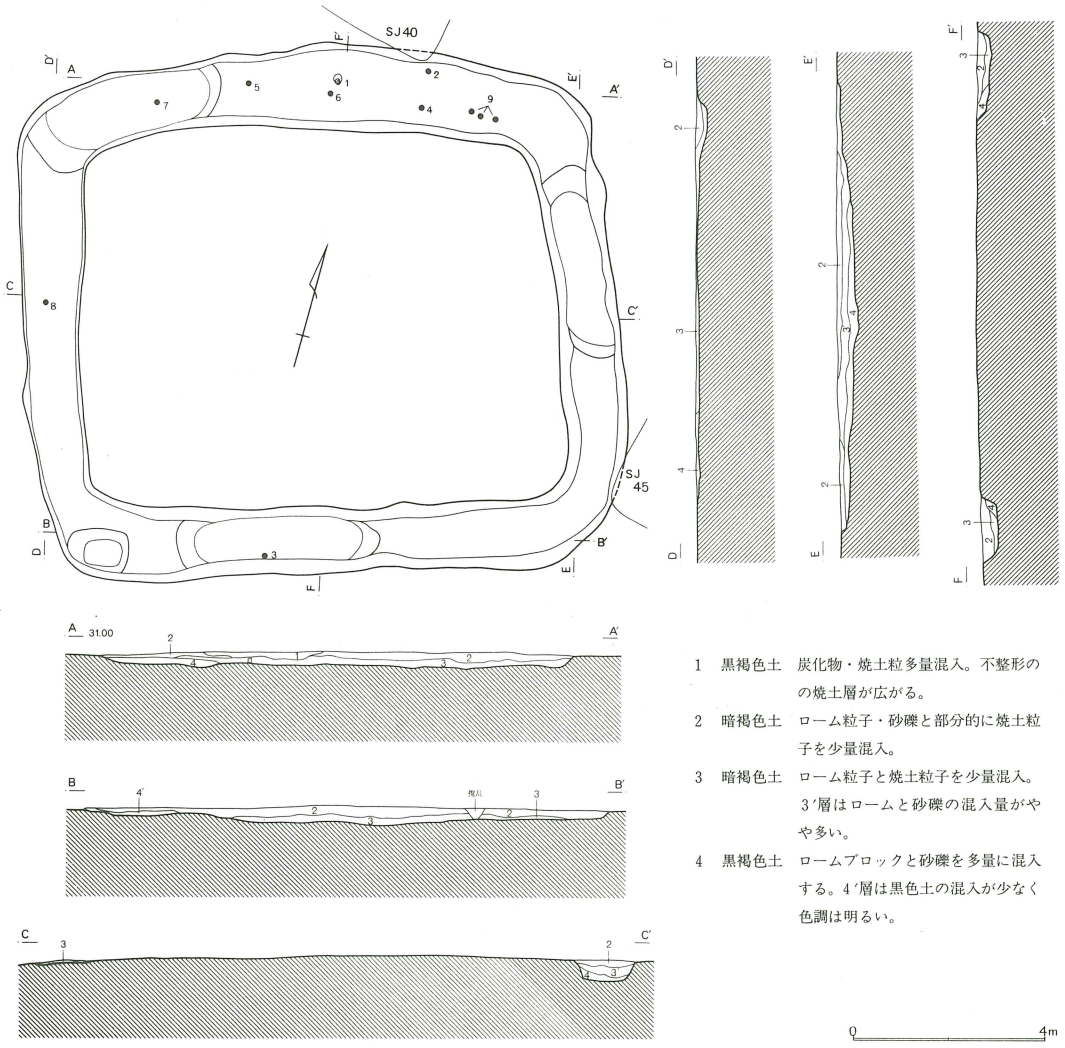
出土遺物は全く検出されなかった。

B区第15号方形周溝墓(第43図)

調査区中央部のD・E-7・8区に位置し、北側に8号周溝墓、西側に4号周溝墓が近接して構築されていた。墓域としては南端部にあたり東南側は古代の集落域となる。周溝上部は第40・45号住居跡により一部攪乱されている。平面形態は全周型に属し、方台部は東西に長軸をもつ台形を呈する。各辺は膨らみ気味で、コーナーは丸みをもつ。方台部の規模は東西長10.16m、南北長8.04m、主軸方位はN－15°－Wを示す。

周溝はほぼ一定の幅で巡り、外縁部は比較的直線的である。周溝底面は概ね平坦で部分的に船底状にやや深く掘り込まれていた。深度は全体に浅く、特に西溝は深さ10cmに満たなかった。断面形は逆台形をなし、外縁部側の壁も比較的急角度で立上がる。周溝の規模は北溝が幅1.84m、深さ0.30m、東溝が幅1.32m、深さ0.45m、南溝が幅1.44m、深さ0.45m、西溝が幅1.32m、深さ0.08mを測る。

周溝覆土は大きく4層に分かれる。第1層は古代以降の堆積土と推定され、焼土が多量に含まれ

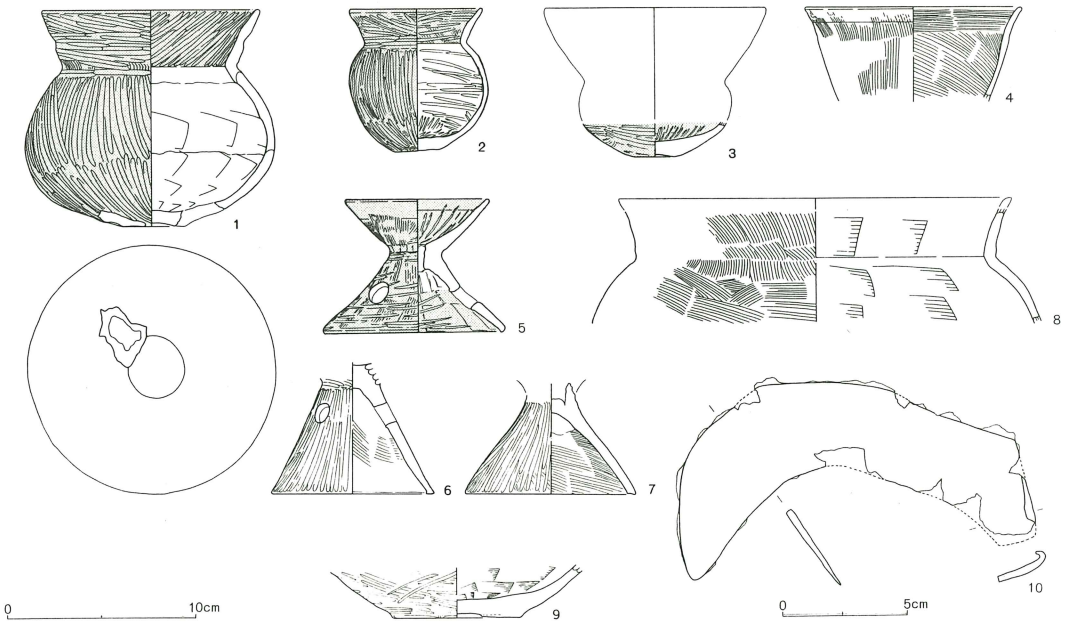


第43図　B区第15号方形周溝墓

ていた。下層に向かうにしたがって砂礫とロームの混入量が増える傾向にある。第４層は堆積状態と包含物から方台部盛土に由来する堆積層と推定される。

出土遺物は小形の坩類、小形器台、高坏、壺、台付甕、鉄鎌が検出された。第44図１・２・４～７・９は北溝の底面、または覆土下層から出土した。他の周溝からの出土遺物は少ない。

第44図１は小形の壺(坩)で口縁部中位に弱い段をもつ。底部は小さく上げ底を呈する。口縁部及び胴部外面はヘラミガキ調整され、頸部に一部刷毛目を残す。胴部下端から底部にかけて焼成後の穿孔が施されている。２は小形の坩で外面は刷毛目後のヘラミガキ、胴部内面にも粗いミガキが加えられている。３は小形坩の底部と推定される。底部は小さく上げ底状となる。南溝底面出土。４は坩か。器種は不明確である。口縁は刷毛目後ヨコナデ。５は小形器台で外面は刷毛目後ミガキ、受部下端にはケズリ痕が残る。口縁部はヨコナデが加わる。６・７は小形の高坏脚部。９の壺は底部が輪台状を呈する。10の鉄鎌は基部に折り返しをもち、刃部は幅広で湾曲する。混入である。



第44図　Ｂ区第15号方形周溝墓出土遺物

Ｂ区第15号方形周溝墓出土遺物観察表(第44図)

番号	器　種	口　径	器高	底　径	胎　　土	焼成	色　調	残存	出土位置・その他
1	小形壺	11.3	11.4	3.2	ＡＢＣ	Ａ	浅黄橙	95%	No.38　北溝壙底　赤彩
2	小形坩	7.0	7.5	2.3	ＡＣ	Ａ	橙	80%	No.40　北溝壙底　赤彩　胴部下半黒斑
3	小形坩		1.7	2.2	ＡＢ	Ａ	橙	60%	No.42　南溝壙底　残存部全面赤彩
4	坩　？	(11.3)	5.0		ＡＣ	Ａ	にぶい橙	30%	No.11　北溝覆土(＋16cm)
5	小形器台	7.5	7.0	9.1	ＡＢＣＥ	Ａ	浅黄橙	95%	No.37　北溝覆土下層(＋3cm)　赤彩
6	高　坏		6.8	8.5	ＡＢＣ	Ａ	橙	80%	No.39　北溝覆土下層(＋5cm)　無彩
7	高　坏		5.8	8.9	ＡＢＣ	Ｂ	にぶい橙	25%	No.16　北溝覆土(＋11cm)　無彩
8	甕		5.9		ＡＢＣ	Ｂ	橙	15%	No.43　西溝壙底
9	壺		2.7	6.8	ＡＢＣＪ	Ａ	にぶい橙	70%	No.22他　北溝覆土(＋17cm)
10	鉄　鎌								覆土　全長14.0,幅3.9cm　重量54g

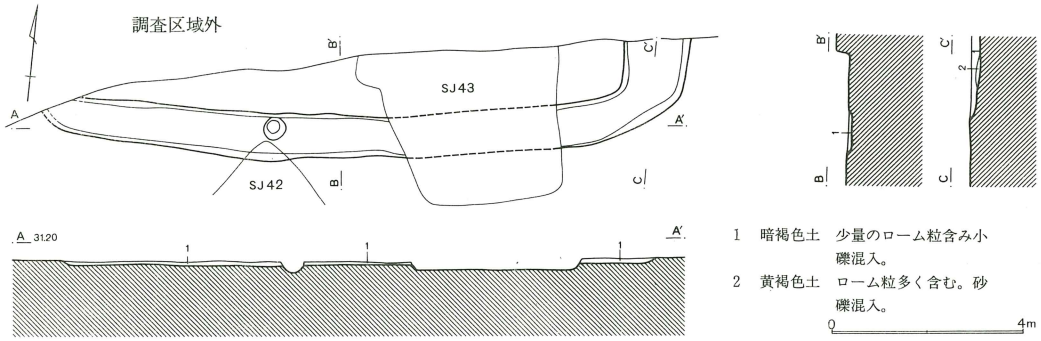
B区第16号方形周溝墓(第45図)

調査区中央部北端のB-8・9区に位置する。南周溝と東周溝の一部が検出されたのみで大半は調査区外にある。また、第43号住居跡の攪乱を受け遺存状態は極めて悪い。平面形態は全周型の可能性が高いが、現状では不明である。主軸方位はN－5°－Wを示す。

周溝は幅0.76m～1.36mと狭く、深さは南溝では10cm以下、南溝でも20cmと極めて浅い。底面はほぼ平坦で、東コーナー付近が若干深く掘り込まれていた。

覆土は2層に分かれ、ローム粒子と砂礫が混じるが堆積状況は不明とせざるを得ない。

遺物は検出されなかった。



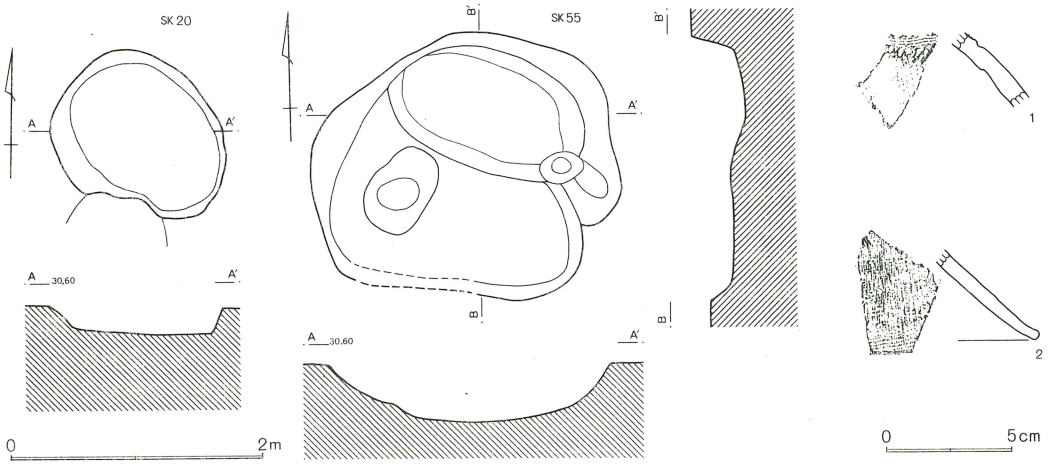
第45図　B区第16号方形周溝墓

(3)　土壙

該期の土壙は2基検出されたに留まる。

B区第20号土壙(第46図)

調査区中央部のD-9区に位置し、第45号住居跡のカマドに一部が切られていた。形態は楕円形で、規模は長径1.44m、深さ0.20mを測る。底面はほぼ平坦である。出土遺物は甕底部片が出土したのみである。



第46図　B区第20・55号土壙・出土遺物

Ｂ区第55号土壙（第46図）

調査区南東部のＥ-12区に位置し、第78号住居跡に切られていた。形態は不整円形を呈し、規模は長径2.40ｍ、深さ0.44ｍを測る。底面は一定せず土壙状に凹む部分とピット状に掘り込まれる部分がある。

出土遺物は壺と高坏片がある。第46図１は壺肩部片と思われ、現状で３条からなる櫛描平行文の下に列点文が５個巡る。外面ミガキ、内面指ナデ調整。東海系の文様構成をとるが胎土に白色針状物質を含む。２は高坏脚部か。外面刷毛目後、ヘラミガキ調整が施される。

Ｂ区第55号土壙出土遺物観察表（第46図）

番号	器　種	口　径	器高	底　径	胎　　土	焼成	色　調	残存	出土位置・その他
1	壺				ＡＢＣ	Ａ	浅黄橙		ＳＫ55覆土　在地産
2	高　坏				ＡＢＣ	Ａ	灰褐		ＳＫ55覆土

3　古墳時代後期～平安時代の遺構と遺物

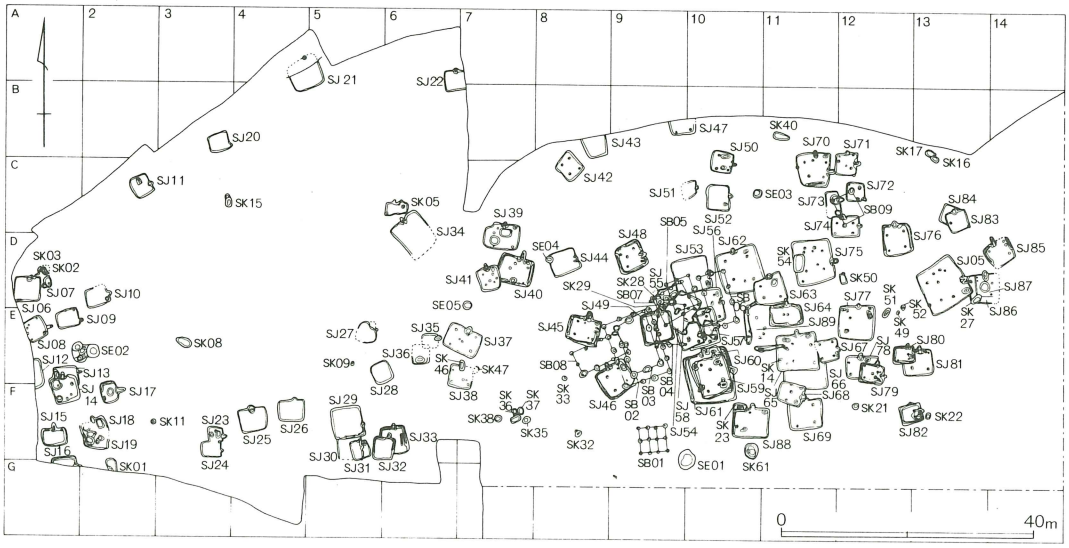
（1）　住居跡

Ｂ区第５号住居跡（第48・49図）

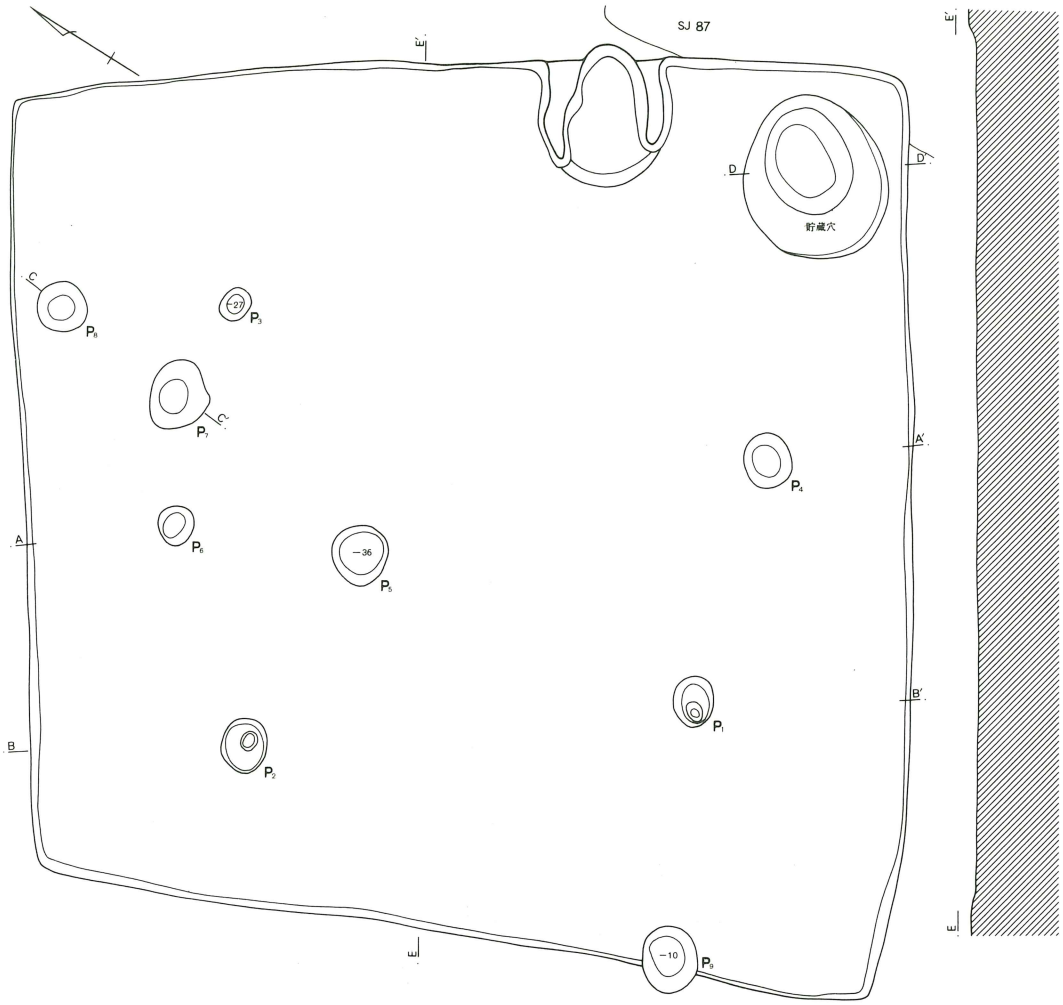
Ｂ区東端のＤ-13区に位置する。第87号住居跡と一部重複するが、本住居跡の方が古い。形態は方形を呈するが一辺が大きくゆがむ。比較的大型の住居跡で規模は長軸7.06ｍ、短軸6.86ｍを測る。深さは最も残りの良い部分でも10cm以下と全体に非常に浅い。主軸方位はＮ－55°－Ｅを示す。

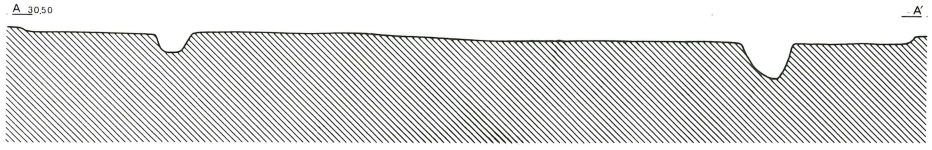
床面は地形に沿って東側に若干低くなっていた。覆土の堆積状態は明らかにできない。

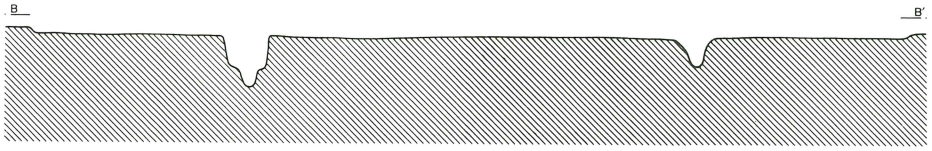
カマドは北東壁の中央から東側に寄った位置に設置される。燃焼部奥壁は10cm程壁を掘り込んでいるが、燃焼部自体は住居内に納まる。底面は床面を約５cm皿状に掘り凹め、袖部は灰白色の粘土を積み上げて構築されている（第Ⅷ層）。覆土は第Ⅱ層が不自然であるが、天井部崩落土と袖流出土

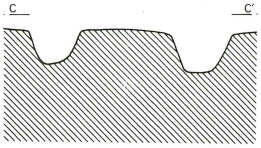


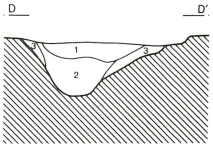
第47図　Ｂ区古墳時代後期～平安時代の遺構配置図







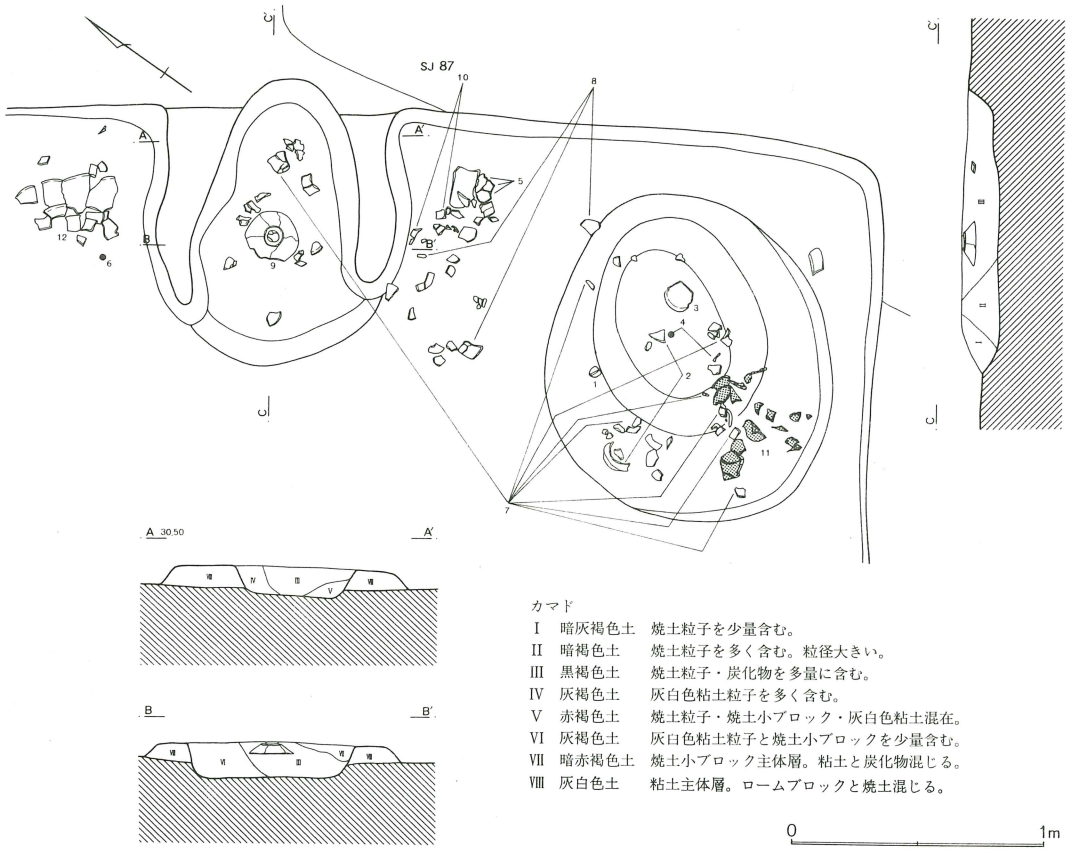




貯蔵穴
1　暗褐色土　焼土粒・ローム粒子を少量含む。小礫の混入多い。
2　黒褐色土　少量の焼土粒・ローム粒子・微量の炭化物含む。
3　暗灰褐色土　ローム主体に暗褐色土を部分的に斑状に含む。

0　2m

第48図　B区第5号住居跡



第49図　B区第5号住居跡カマド

を主体に構成される。また、燃焼部ほぼ中央の第Ⅲ層中には脚部を欠失した高坏が伏せた状態で遺存していた。高坏を転用した支脚の可能性があるものの土器外面には被熱した痕跡は明瞭には残されていなかった。若し、転用支脚であるならば火床面は第Ⅲ層中に求められよう。

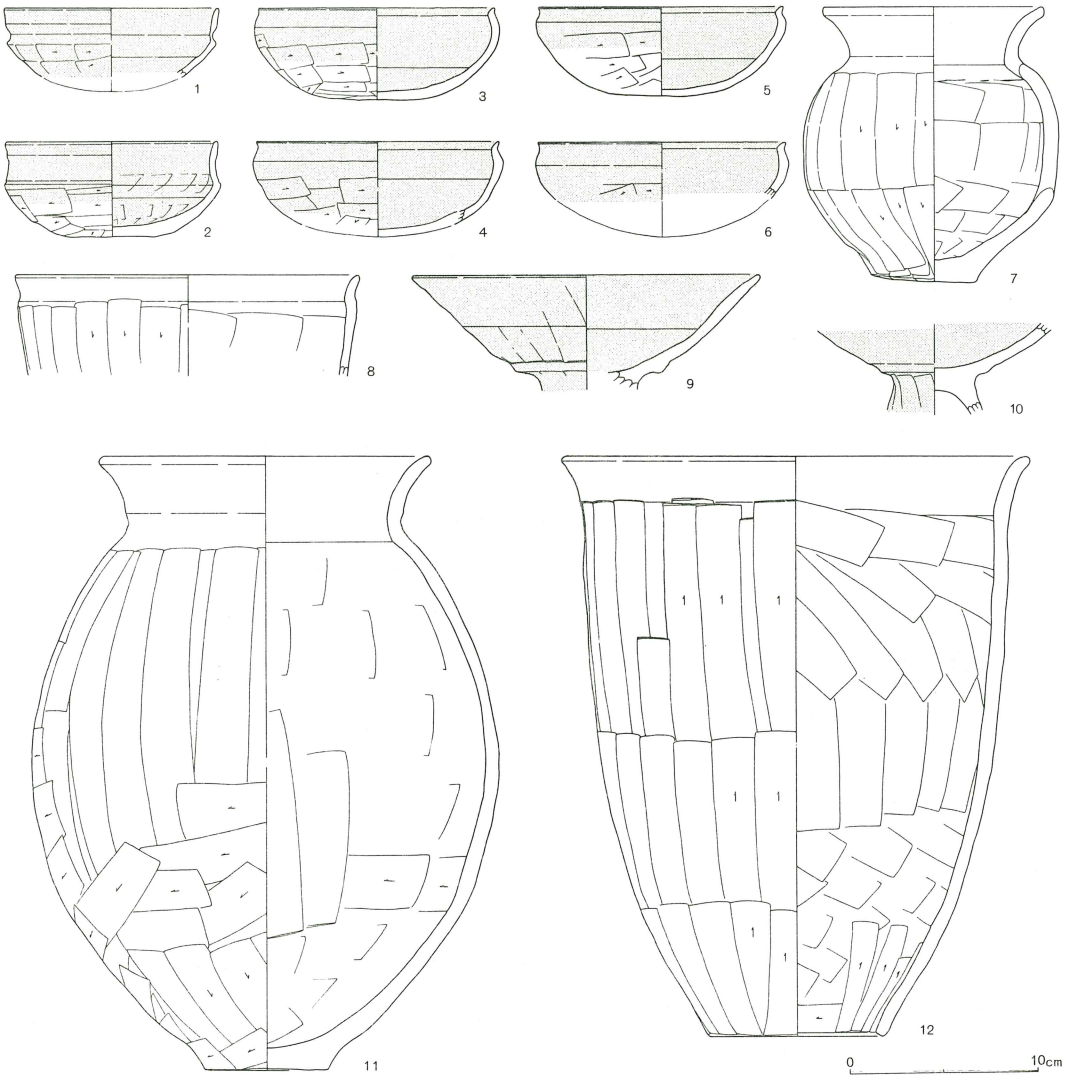
貯蔵穴はカマド東脇のコーナー部に設けられる。形態は楕円形を呈し、規模は長径1.32m、短径1.12m、深さ42cmを測る。

ピットは9本検出された。4本主柱穴とした場合、P_1～P_3は主柱穴と考えて問題ないが、P_4を採ると柱穴配置が大きく歪んでしまう。P_5～P_9に関しては住居に伴わないものと推定される。

出土遺物は土師器坏、高坏、甕、小形甕、甑、鉢がある。出土遺物はカマドと貯蔵穴周辺に集中していた。壁高が浅いことを考慮すると遺物の大半は住居に伴う可能性の高いものと判断される。

出土状況をみると第50図1～4の坏と11の甕は貯蔵穴内、7の小形甕は貯蔵穴内を主としてカマド内の遺物と接合した。9の高坏は前述したように支脚に転用された可能性を有し、カマド底面から数cm浮いた位置から出土した。また12の甑はカマド横に潰れた状態で検出された。

坏は模倣坏(1・2)と、比企型坏(3～6)の2種類に分かれる。何れも赤彩され、4は不明確であるが、他は胎土に白色針状物質を含むことから在地産と考えられる。2は平底、3・5も平底風を呈する。7の小形甕は外面二次火熱を受け赤変し、器壁の一部が剝落している。出土土器は6世紀前半代に位置付けられよう。



第50図　B区第5号住居跡出土遺物

B区第5号住居跡出土遺物観察表(第50図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(11.2)	3.6		ABC	A	にぶい橙	15%	No.81　貯穴内(-15cm)　赤彩
2	坏	11.0	5.0		ABC	A	橙	100%	No.79,84　貯穴内(-38cm)　赤彩
3	坏	(12.4)	4.8		ABC	A	橙	45%	No.74　貯穴内(-33cm)　赤彩
4	坏	(12.8)	4.3		AB	A	にぶい橙	25%	No.76,79　貯穴内(-38cm)　赤彩
5	坏	(12.8)	4.7		ABC	A	にぶい橙	35%	No.24　覆土(+4cm)　赤彩
6	坏	(13.0)	3.0		ABC	A	にぶい橙	10%	No.117　床面　赤彩
7	小形甕	11.4	14.4	5.6	ABC	A	にぶい橙	80%	No.54,70他　覆土(-6～+18cm)
8	鉢?	(18.0)	5.3		ABC	A	橙	25%	No.43,47,48　覆土(+2～6cm)
9	高坏	18.0	6.0		ABCE	A	橙	95%	No.64　竈内(+9cm)　赤彩
10	高坏		4.7		ABC	A	にぶい橙	30%	No.35,44　床面(0～+3cm)　赤彩
11	甕	(17.0)	32.2	6.6	ABC	A	にぶい褐	40%	No.100　貯穴内(-4cm)
12	甑	24.3	30.4		ABC	A	にぶい橙	55%	No.1,3他　覆土(0～+7cm)